第486表　單寧皮輸出入統計

明細	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
數量	Cwt.	Cwt.	Cwt.	Cwt.	Cwt.
輸入	1	2,556	2,556	18,216	7,361
輸出	41,350	39,897	39,897	12,837	15,355
輸出超過	41,349	37,341	37,341	— 5,379	7,994
價格					
輸入	磅 1	磅 627	磅 627	磅 6,660	磅 3,145
輸出	21,249	18,936	18,936	8,407	7,752
輸出超過	21,248	18,109	18,109	1,740	4,427

第487表　單寧皮輸入明細

	1933—34	1934—35	1935—36
單寧皮	Cwt.	Cwt.	Cwt.
ワットル・バーク	—	1,428	4,204
其他	1	1,128	
抽出物			158
ワットル・バーク	1,185	1,027	2,110
ケブラチヨ	11,281	24,663	20,689
其他	9,254	15,399	12,745
其他單寧材料	45,421	44,312	59,391
合計	67,142 (約3,357噸)	87,957 (約4,398噸)	99,297 (約4,965噸)

第六節　日本に於ける濠洲材の輸入状況

我が國に於て初めて濠洲産木材の輸入を試みられたのは明治三六年頃であつて、稍々擧ぐ可き輸入の行はれたのは明治三八—九年以後である。其後明治の末葉より大正の初頭に至る頃を以て此取引の最盛時とし、爾來本邦に於ける木材の使用が鐵セメントを以て代用せられるもの多く他方産地に於ける原價漸騰の爲取引を制限せらるゝに至つた。本邦に於ける濠洲産木材の用途及び其使用概況は次の如くである。

一、堅材

イ、臺灣基隆築港海水締切り工事用（明治三九年）Turpentine を主とする斧切り角材及平材を使用した。同時に Oregon Pine を使用したが、Oregon Pine は使用一回限りにて多くは破損腐蝕し、濠洲産堅材は數回替用せられたのみでなく、締切り工事完了後は岸壁の Tender 等に用ひられ大いに效果を奏した。

ロ、神戸和田岬三菱倉庫棧橋橋桁及び歩み板（明治四一年）

此の棧橋は印度及北米より歸航する棉花積載船の繫船を主目的として建造せられたもので、橋桁は Turpentine 材を主とし歩み板は全部 Blackbutt を用ひた。

ハ、神戸築港用ケーソン製造用檜臺工事（明治四二年）

神戸築港工事に際し巨大なるセメントケーソンを製造する爲 Oregon Pine を以て大仕掛けの檜を築造するに當り其臺工事の爲 Turpentine Piles 末口八吋乃至一〇吋、長さ四〇呎乃至六五呎位のもの八百餘本、Mix-

ed hard wood 斧切り角材大小取交ぜ約八百本を輸入したが、之亦基隆締切工事用材の如くケーソン製造作業完了後角材の大部分は Tender に再用せられた。

神戸築港には其後數回に亙り Turpentine Piles 及び Tender 用 Mixed hard wood girder を輸入した。

二、大阪市電氣鐵道工事用（Bridge Girder）（明治四三年）

大阪市電中ノ島建設に當り架橋用として Blue Gum を輸入した。

ホ、横濱築港 Tender 用其他 Mixed hard wood Girders 横濱築港工事用として數回に亙り上記堅材を輸入した。

ヘ、神戸三菱倉庫、三菱造船所、大阪市電氣局、仁川築港、下關關釜連絡棧橋其他各地の水際工事用 Turpentine Piles

ト、肥後軌道會社用（大正八年）Mixed hard wood girders

チ、阪神電氣鐵道株式會社用電柱（明治四二年）Mixed hard wood

リ、神戸電燈會社電柱

以上は堅材取扱の概略を示したもので全部工事用であるが、濠洲では各種堅材を家屋建築造船或は鐵道客車用等に使用して居る。

二、中間材

中間材の本邦への輸入は Red Cedar, Maple, White Beech. 等である。

Red Cedar は專ら Mallogany の代用に供せられ本邦造船事業の未だ發達せず英國より船舶を輸入したる頃客船に

室用材として「二等マホガニー」と指定せるものには濠洲產 Red Cedar が利用せられてゐたとの事である。

尙神戸川崎造船所及び長崎三菱造船所建造船で Red Cedar を使用したのは、

郵　船　三島丸、賀茂丸、北野丸、熱田丸

商　船　嘉義丸

義勇艦隊　櫻丸等

であり、他に造船用として Maple, white Beech 等も輸入せられたる記錄があるが、前大戰後は輸入材を用ひ贅澤な

る客船を建造するより實用的な船舶を造る傾向となつた爲、其後輸入は殆んど停止狀態となつた。

三、軟材

濠洲は軟材に於ては供給地でなく、需要地であり、現に多量の Oregon Pine 其他軟材を輸入して居り、本邦より

も箱材其他として北海松を供給したる事があるは前述の通りである。

本邦への輸入濠洲軟材は

Cypress Pine, Colonial Pine

の二種であつて、前者はニュー・サウス・ウェールス州に產し、電柱用として好適であるが供給數量が多くなく、又

Colonial Pine はクィンスランドに產し造船材料としては客室內甲板用として外觀美で足觸りも宜いとの事であるが

Oregon Pine に比し割高である。

第六章　漁業

第一節　概　說

濠洲近海は熱帶魚、溫帶魚三千種に達する各種豐富なる魚介に惠まれてゐるに拘らず、漁業の發達は幼稚の域を脫せず、その漁獲方法もトロール漁業及び手繰網漁業が行はれてゐるが、極めて小規模で且その操業海域も殆んど漁業根據地の近海に限られてゐる。

元來濠洲は本質的に農牧に適した地域でありその產物が僅か七百萬足らずの人口に世界一流の富を與へ、加ふるに肉食人種たる彼等は魚肉の嗜好薄き爲、濠洲人一般に彼等の有する漁業の重要性並に可能性に殆んど氣が付いてゐない。從つて現在の設備、技術及び發達狀態を以て濠洲漁業の將來を斷ずるは早計と云はねばなるまい。

濠洲の海岸線はその延長約一萬二千二百哩、江灣入江の線を含めれば約一萬五千哩に達する。海岸線より廿哩以內を漁獲可能地域としたところでその面積實に二十四萬四千二百平方哩にして斯る廣大な水產資源地域を有する國は稀である。濠洲東海岸に「コンチネンタル・シエルフ」と呼ばれる柵狀の岩礁地帶あり、クィンスランド州のサンディ岬より南下してタスマニヤの東海岸に達してゐる。その幅は十乃至百哩にして深さは百尋以內、端は斷崖の如く突如深底へ落込んでゐる。此の地域はトロール漁業に對して廣大なる漁場を提供し、此の間シドニー溝谷の如き

遮蔽灣が連續して四季を通じて豐富なる魚類が捕獲され、鯛類、ヒラメ、カレイ、ホウボー、ボラ等が代表的なものである。此の岩礁地帶の北に續いて『大堡礁』(Great Barrier Reef)として知られる特殊な珊瑚礁帶がサンディ岬の北邊りから始まつて濠洲の北端を扼してゐる。此の大堡礁の間に淺くて溫暖な水域があつて、龜甲龜、眞珠貝、海鼠は勿論其他近海魚の繁殖に適してゐる。

礁　瑚　珊

第二節　漁業の發展

一八九八年ニュー・サウス・ウェールス州政府は沿岸の魚類資源調査の爲に「セーチス」號なる小船を建造した。其後一九〇六年以降聯邦政府所有の「エンディーバー」號（本船は一九一四年末に沈沒全乘員遭難した。九九回目の航海であつた）により近代的探知方法採用されて調査規模は急速に擴大され魚類、漁場に關して有用なる報告が得られた。此の結果ニュー・サウス・ウェールスのボート・スチーブンス邊りからシドニーを過ぎタスマニヤ北部のフリンダース島に達する海域は絕好のトロール漁場なることが明らかにされた。此の漁場の廣さは約六千平方哩にして二大市場たるシドニー及びメルボルンに近接してゐる。捕獲された魚類は質もよく量も多く商賣上有用なる眞鯛、黃鯛、カレイ、ヒラメ等九〇種以上に達し年產數百萬磅に達すべしと報告されてゐる。尙南海岸の所謂『大濠洲灣』

（Great Australian Bight）の眞中にも約四千平方哩のトロール漁場が存在し大口魚（Rock ling 鱈の一種）平頭魚（肺魚類）ホーボー等深海魚の優秀なるものが捕獲された。此の海域はアデレードとアルバニーの中間で兩都から二日で達する。

此の「エンデイーバー」號の好報に力を得てニュー・サウス・ウェールス州政府は漁場開拓を決意し、一九一五年迄には三隻の近代的トロール船を用意し其他小漁船を數多建造して州沿岸の淺海、深海兩漁業を開始した。間も無く三―四時間にて達し得る近海に豐富なる漁場續々發見され、水揚も豐富に州立の小賣市場や地方の市場で安價に供給される樣になつた。又漁獲された魚の蒐貨、配給に關して特に考慮が拂はれ、ニュー・カッスル、クラーレンス川、ボート・スチーブンスに冷藏設備が設けられ漁夫の便益に資した。

クィンスランド州に於ても州政府のトロール漁業は一九一九年より開始され、モートン灣とカルンドラ間に良好なる漁場のあることが實證された。他の州は殆ど手をつけてゐない。

斯の如く濠洲全體としてみて漁業の發達は遲々として進まず漁獲高に二百萬磅を出でない狀態であるが、之は現在漁業を必要とする程度の小なるに加へて輸送上、販賣上の困難が重大なる障害をなしてゐると云はれてゐる。只現在比較的發達してゐる水產業は眞珠貝を主とし龜甲と海鼠が之に次ぎ、北部及西北部海岸の熱帶地方で行はれてゐる。又濠洲は大體川が少ないが淡水魚にも惠まれ、ニュー・サウス・ウェールス州西部の川にゐるマレー鱈は最も有名であり、東南部の各河川の川口にゐるスヾキは釣魚家を喜ばせ、南部諸州の內陸に多い鱒も有名であるが、此等淡水魚は大體釣の對象の範圍を出でない。

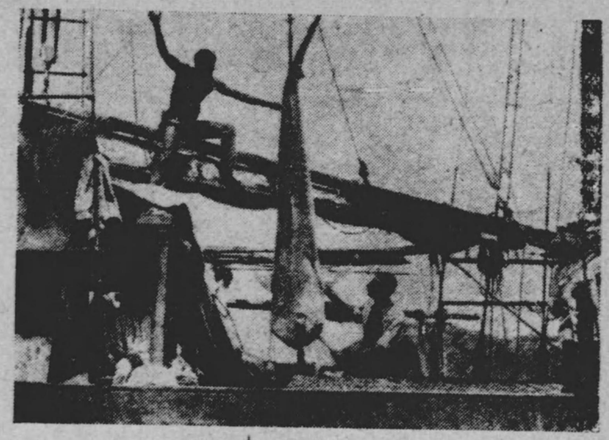
第三節　漁獲狀況

一、一般魚介（海老を含む）

赤道から南北へ同緯度に該當する海域は、海洋の性狀が略々同型であり其處に棲息してゐる魚族にも共通的な相似性があると云はれてゐる。例へば北緯三〇度（九州奄美大島附近）から三五度（關東地方）までの海には周知の如く眞鯛、黃鯛、血鯛等の鯛類が多いが南半球の南緯三〇度から三五度附近（シドニー近海）の海域にも鯛類が多量に棲息してゐる。從つて日本近海の魚類と多分に相似性あり珊瑚海名物の鮫を除いても食用種として千二百種類の魚が擧げられてゐる。その中主なる魚類を擧げれば、タヒ、ボラ、ヒラメ、カレイ、ホーボー、イワシ、サバ、マグロ、ブリ、カ

人喰鱶

鱶はあの入り込んだシドニーの海にうようよ居る。夏になると海水浴場で鱶に襲はれて何人か寃牲者を出す。鱶を生捕りにする事は稀れな場合だが、或時、シドニー海岸沖で水族館用として一匹の大鱶を生捕りした事があつた。水槽の中へ入れられて、ぐるぐる泳ぎ廻つて居たが、何か不機嫌の模樣で、一向に餌を食はうとしない、監視人は水の所爲だらうと思つて居たが、間も無く反吐を吐いた。驚いた事にそれは人間の片腕だつた。如何にして腕を喰ひ取つたかを想像するだに氣味の悪い事だが、その腕を消化し切れずに病氣になつた等は頗る變な話だ。直ちに檢査が行はれたが、恐らく何處か外洋で遭難者が有つたものらしいと片着け樣とした時、市中の醫者で鱶害に經驗深いのがやつて來て一見するなり、これは鱶の喰ひ切つたのとは斷然違ふ、何か鋭い刃物で切斷したものだ。だが其の切方が亂暴な點から見て本人の生命は無いに違ひないと診斷した。警察で再度檢査の結果、海水にも胃液にも侵されずに殘つた入墨の痕跡を發見した。記錄を調査の結果、此腕の持主は行方不明者となつて居る事が判明した。船乘りで、シドニー灣のヨットの番人であつたが、或夜其のヨットが繫留された儘で沈沒し、其時以來この男の行方が知れぬ。警察は直ちに彼の足取りを辿つた。或週末に彼は海岸の小屋に行つたきり歸宅せず、今に至つて腕丈けが還つて來たのだ。容疑者が逮捕され、愈々明日裁判と云ふ夜、ヨットの名義人で、恐らく最も有力な證人となるべく思はれて居た男がハーバー・ブリッヂの袂で射殺されて居た。それ切り此の事件は迷宮に入つた。



鱶喰人たげ上り釣

マス、サヨリ、シラウヲ、ニシン、タラキヒ、エビ等である。

目下最も商業的價値ありとせられてゐるのは海鱒と稱する大きな鱒で各州にて捕獲され就中南緯二五度から三七度の間に多い。此の魚は罐詰によく燻製、鹽漬、干物としてよいのみでなくその卵は優れたキヤビアとなる。夏季の終り卽ち二月末頃から鱒の大群が産卵地へ北上を開始するが南部の方が北部より早く大體五月六月が産卵の盛りで四年經つて成魚となり雄魚は一五吋、雌魚は二〇吋位である。濠洲で最も高價の魚の一つは眞鯛であつてマレー鱈、ヒラメ、カレイと並んで各レストランで珍重されてゐる。又各種鯡群が豐富で主に東南海岸で漁獲され、鰯も同樣で罐詰にして輸出されてゐる。針魚類の中では沖サヨリが最も美味で特殊の細目網で捕獲されてゐる。其他鯖、鰤、鮪も濠洲海岸に集まるが來游の季節も不規則と云はれ一九三八年に聯邦政府とニュー・サウス・ウェールス州政府は共同して鮪の調査に從事して多數の種類を發見したが所期の目的

漁　獲

第488表　一般魚介漁獲統計（1937—38）

州	漁船	從業員	漁獲數量		漁獲金額	
			魚類	海老	魚類	海老
	隻	人	cwt.	打	磅	磅
N. S. W.	1,684	2,648	236,889	11,544	550,498	43,503
Vic.	818	1,428	116,102	9,053	210,270	10,402
Q'land	867	1,797	78,740	13,384	159,800	8,381
S. Aust.	1,100	1,500	75,000	21,000	227,000	16,000
W. Aust.	316	662	46,649	46,180	146,945	20,031
Tas.	219	304	20,587	71,276	39,168	38,366
N. T.	—	3	148	—	414	—
計	5,002	8,342	574,115	172,437	1,334,095	136,683

たる罐詰（米國向）輸出も未だ微々たるものである。又海老類も豐富で特にタスマニヤ近海でとれるサウザン・クレイフィッシュ（伊勢海老の大きいもの）はその風味は日本の伊勢海老に劣らず、ニュー・サウス・ウェールス近海で獲れる綠色の伊勢海老は重量一四封度に達する。又南緯三六度邊には車海老が澤山ゐる。

大體年々一百五十萬磅見當の水揚で一九三七—三八年に於て水產物總價格（一、八八四、五六二磅）の約八割を占めてゐる。

二、牡蠣

牡蠣の養殖はニュー・サウス・ウェールス州で最初始められ次でクィンスランド州で行はれた。此の二州以外は問題でない。政府は土地を貸與し養殖を奬勵し、その產額は最近增加し一九三三—三四年の五七、八二四 cwt.（金額七七、五九〇磅）に對し一九三七—三八年に八三、六六六 cwt.（金額一二四、一六九磅）と一・五倍の增加を示してゐる。この中ニュー・サウス・ウェ

ールス州が約八八%の約三千七百噸を、クィンスランド州が一一%の約四百七十噸を占めてゐる。タスマニヤ州では牡蠣より帆立貝の方が重要で一九三七年の産額は其金額九、五〇〇磅である。

三、海鼠

海鼠漁業は熱帯地方のクィンスランド州と直轄北部地域の珊瑚礁の間で行はれる。珊瑚蟲はかの蜿蜒千哩に亙る『大堡礁』にみる如く石灰質を以て海面上に大障壁を築くのみでなく、又海岸近くで一連の珊瑚礁を形成し、干潮時のみその姿を現はすものである。此等隔離し散在してゐる珊瑚礁の間には無數の海鼠が繁殖してゐて現今百隻内外の船が其の採集に従業し、牧獲高は一九三七―三八年度に一四、二三七磅、その九三%はクィンスランド州である。海鼠は燻製にして殆ど支那へ輸出され年額二萬磅に達する。然し一噸の燻製海鼠を得るには四隻の船と二〇人の勞力とを一ケ月間必要とするため高賃銀の濠洲では採算採れず本業に従事してゐる者は殆ど全部黑人である。従つて低廉な勞働力を得れば本業は發展の可能性が大いにあるものと思はれる。

四、眞珠貝

眞珠貝の採取はクィンスランド、直轄北部地域、西オーストラリヤ州の熱帯水域で行はれてゐる。眞珠貝の棲息せる區域は北部及西部海域にしてヨーク岬からシャーク灣の二、〇〇〇哩以上に亙つてゐる。眞珠貝の採れるのは四―二〇尋の水深にして普通は七―八尋の所であり、採取船は大きくて一〇〇噸位で一時のことを思へば最近は減つて約

二〇〇隻、一隻の船の收獲月額は平均一、八〇〇磅と云はれ従業員數は二、〇〇〇人足らずで日本人潜水夫が多數行つてゐたことは云ふ迄も無い。

クィンスランド州の眞珠貝採取業は大堡礁を中心とし、東部は濠洲北端ヨーク岬の西三〇哩に横たはる木曜島にある。此處を本據として大堡礁の北部限界迄までの海岸線とトレス海峽北方のニュー・ギニヤ迄採取船が出てゐる。又カーペンタリヤ灣内にも眞珠貝のゐることが證明されてゐる。又トレス海峽で主として採取せられてゐるのは眞珠母貝であつて、大きな眞珠がとれるのは數千の眞珠貝中で一つとは無いと云はれ（最大の眞珠の記錄は一九一一年一〇月アルームで重量一七八グレーン―約三匁―價格三、〇〇〇磅のが採れた）従つて中の眞珠より外の貝殻の方が値打な狀態である。同州の貝

墓地　日本人ありけるに於けるブルーム

ブルーム

ブルーム Broome は濠洲の西北海岸にあつて木曜島と並び稱せられる眞珠貝の集散地で世界總額の四分の三を出すと云はれて居る。日本人の眞珠貝採りが七―八〇〇人も居たものだ。日本人と馬來人の潜水夫の死亡率は非常に高く季節に入ると殆んど毎日葬式を出すのは珍らしくないと云はれて居た、それ程に體に無理を利かせて働いて居たのだ。だが金廻りは馬鹿に良く、日本でなにか事有つて寄附金を集めると云ふ場合には、忽ちシドニー邊りの數倍の金額が集つた。この海岸一帶は魚類亦頗る豐富だが魚撈の方法はワナに依つて居る、針金製の網で作つたワナが海中に設けられ、滿潮時は海面下に隱れ、干潮になると中に魚がワンワン置去りを喰つて居やうと云ふ寸法になつて居るのだ。

西オーストラリヤ州ブルームに於ける眞珠貝の選別

産額は十一萬八千磅（一九三七―三八年）であつた。西オーストラリヤ州の斯業はブルームを中心とし、コサック及びオンスローでも採取せられ、最盛期にて價格四十二萬磅の貝が輸出せられたが現在はその三分の一足らずである。ブルームから遙か南のシャーク灣は小さい種類の眞珠貝しか居ないので西北地方から大眞珠貝を移殖して增殖に努めてゐたから現在は相當期待されよう。直轄北部地域はダーウィン港附近が中心であつて年產六、七千磅、日本人潛水夫が多數行つてゐた。

濠洲全體の眞珠貝の年產額は一九三七―三八年度に於て數量二、八五四噸金額三一〇、六五五磅、他に眞珠が四、一一一磅であつた。もつと發展すべき本業も取引銀行の資金涸渇と有色人勞働者雇用問題に引掛つて一九二六年以來停頓狀態にある。即ち『白濠主義』を振りかざして一九一三年以來有色人（主に日本人）潛水夫の入國を禁止したが、八尋一〇尋の海中に潛つて、眞珠貝を探すのは日本人の特技とも云ふべく、遂に一九一八年以來は有色人勞働者を用ひてもよいと妥協したが之は用ひざるを得なかつたわけであらう。又眞珠貝は極めて多產であつて、數年間放置せば又元通りになると云はれてゐるから日本人にとつて將來有望なる事業の一つであらう。

五、其　他

濠洲人は章魚、烏賊、海草類等は全然食べないので是等を捕る者もなく調査も行屆いてゐないが多量にあると云はれてゐる。又捕鯨業は一八三四年ヘンティ兄弟によりヴィクトリア州のポートランド灣で始められ其後ボイド・タウンを中心としてノーホーク島邊りまで出漁したが未だ手銛の幼稚なものであつた。其後砲を備へたキャッチャーも出來てジャービス灣を根據地としてニュー・サウス・ウェールス、西オーストラリヤ水域で活躍したが諾威捕鯨船に押されて衰微しいつしか新西蘭へ移り殆ど終熄狀態にある（諾威人は短期間にセミ鯨、座頭鯨、黑鯨、黃腹鯨、抹香鯨等數千頭を捕獲した）之は幼獸を濫獲したことゝ高賃銀の爲收支相償はぬに由ると云はれてゐる。本業も日本人が經營してその優秀なる設備能力を以て濠洲、新西蘭を本據として極洋捕鯨に出掛ければ現在の日本捕鯨業に比し距離の短縮に伴ふ多大の便宜あり十分盛大となる可能性あるものである。

第四節　輸　出　入

水產微々たるを以て輸出は殆ど無く一言を以てせば僅かに熱帶特產物を輸出して食用魚介類を海外に仰いでゐる狀態である。即ち一九三七―三八年度に於て輸出は罐詰魚類僅かに二五、七四四磅、眞珠貝三四六、〇八二磅（英國へ四三%、米國へ五二%）龜甲三八〇磅、高瀨貝四三、五八四磅、海鼠一四、五七五磅、合計四三〇、三六五磅である。之に對し魚類の輸入は濠貨にて一、五四〇、五二二磅に達し罐詰魚が六七%を占め、鮭は加奈陀から、鰊は英國から、

鰯は諸威から輸入されてゐる。次では鮮魚、冷凍魚が一九%主に新西蘭から移送せられてゐる。又鑵詰魚、海老、蟹、牡蠣がある。

第五節　結　語

以上要するに濠洲に於ては獸肉類があり餘る程あつて新西蘭と並んで二大食肉國民と云はれる程で魚類はあまり食べない爲に自然漁業は振はない。濠洲の一人當り魚肉消費量は僅か一三封度にして之に對し英國は四二封度である。濠洲で捕獲される魚類の年產額は一百五十九萬五千磅なるに對し輸入が略々同額の一百五十四萬一千磅なるをみてもその狀態は容易に想像され得る。乍然濠洲近海の水產資源は若干の調査によつても極めて豐富なることが證明されてゐるから未開發の漁場と云ふべく、現狀に於ても安價な勞働力と日本の如き優秀な技術を以てすれば一般魚介、眞珠貝、捕鯨と云はず今に數倍する收獲が得られることは濠洲より歸來する人々の均しく語るところであり、玆で更に海況、氣象等の海洋的調査を進めると共に魚族の生棲分布狀態に付て科學的調査が完成したならば今日我々が想像する以上の水產資源がその全貌を現はし濠洲水產業は目覺しい發達を遂げることであらう。

第五篇　製造工業

B.H.P. ニュー・カッスル製鐵工場

第一章　羊毛工業

第一節　羊毛工業の歴史

濠洲と云へば直ぐ羊毛を思ひ出す程濠洲産羊毛は世界的に有名であり、從つて濠洲を研究せんとする場合、濠洲の羊毛工業に付ては先づ誰もが一應關心を持つ事と思はれるが、其の發達は案外遲れて居るのである。卽ち濠洲羊毛工業は英國の傳統的植民政策、卽ち濠洲は飽く迄ブラッドフォードの原料供給地として英本國の膝下に隷屬すべきであるとの政策と、他面濠洲自體の持つ經濟的特殊事情（人口過少と高賃銀）とに災ひされて、其の牧羊の歴史の古ゝ且規模大なるに比し、羊毛工業の發展は比較的新らしく且規模小であつて、一流羊毛工業國として設備の充實したのは前大戰以後の近々二十年間の事に屬するのである。

順序として一應濠洲毛織工業の歴史を振り返つて見ると流石に羊毛の生産地丈けあつて、其の起原は中々古いものである。公の記錄に殘るものでは西曆一八〇一年にニュー・サウス・ウェールス州の監獄で囚人が數枚の毛布を作つたのが、濠洲に於ける毛製品製造の最初のものとなつて居る。而して濠洲で一番古い毛織工場は西曆一八〇三年にニュー・サウス・ウェールス州のパラマッタに設立せられた。之も恐らく前記監獄と同一のものと思はれるが、囚人に使用せしむる毛布を製作するのを主目的としたもので、監獄の一部を工場に當て、織機（手機）三臺を備へ、職工は

男女囚人を使用したのである。

其の後之が機緣となつて、パラマッタ附近で家内工業式に手機毛織物を作る者簇出し、其の製品は耐久力があつて實用向であつた爲一般に好評を博し、パラマッタ織と呼ばれて次第に有名となり、追々ニュー・サウス・ウェールス州の各地で製作される樣になり、遂には毛織物の本場英國のヨークシャーに於てもパラマッタ織を製造した程であつた。

而して西曆一八三二年に初めて民間の、當時としては大規模な毛織工場がシドニーに設立され、其の後ニュー・サウス・ウェールス州内各地に弗々設立されたが、當時は未だ濠洲聯邦政府組織されず、ニュー・サウス・ウェールス州政府は毛織工業に對し全然無關心であつた爲、折角設立せられた毛織工場も財界、政界の變動につれて興廢多く、永續するものが少ないと云ふ有樣で歴史の古い割合に其の發達は遲かつたのである。

之に反しヴィクトリヤ州では、州政府の毛織工業助長政策に應じて、西曆一八六七年ヂロンに最初の毛織工場が設立されて以來順調に發達し、地理的條件にも惠まれて忽ち先進のニュー・サウス・ウェールス州を追ひ拔いて濠洲第一の羊毛工業地帶となつたのである。

其他諸州に於ては其の後少數の工場設置はあつたが地理的諸條件惡く、濠洲の羊毛工業は引續きヴィクトリヤ、ニュー・サウス・ウェールスの兩州に於て發達を見た。

近年各國が軍備擴張に狂奔するにつれて羊毛製品の需要が增大し、殊に今次大戰勃發以後の濠洲羊毛工業は、英本國、加奈陀、印度、南阿聯邦、埃及等への軍需製品供給を賄ふ事を要請せられ、機械設備の擴充强化並に最新式機械

への更新等が斷行せられるに及び遂に劃期的飛躍を見るに至つたのである。

次に濠洲羊毛工業の原毛使用量の統計に依り其の發展過程を見る事とする。

第501表　羊毛工業の原毛使用高

年度	俵
1906—07	66,019
1907—08	60,810
1908—09	60,627
1909—10	71,701
1910—11	81,411
1911—12	80,360
1912—13	67,939
1913—14	96,787
1914—15	83,557
1915—16	136,331
前大戰中の數字は不明	
1920—21	87,722
1921—22	138,079
1922—23	164,372
1923—24	141,931
1924—25	113,498
1925—26	164,530
1926—27	194,034
1927—28	188,514
1928—29	180,205
1929—30	184,790
1930—31	145,314
1931—32	252,049
1932—33	283,839
1933—34	242,172
1934—35	296,089
1935—36	303,612
1936—37	324,002
1937—38	332,179
1938—39	378,694
1939—40	324,459
1940—41	376,457

右表に於て一九四〇—四一年度の國內使用量は三十七萬六千俵餘となつて居るが、船腹不足の問題を解決すべく從來脂付の儘で英本國向輸出されて居た據物羊毛を、濠洲國內で洗毛或は化炭の加工を施した後輸出する方法が採られてゐる爲、實際に於ては前記數量の外に、一九四〇—四一年度に於て、濠洲國內で洗毛されたもの約二十五萬俵、化炭されたもの約二十萬俵、合計約四十五萬俵以上のものが消化されて居るから、結局右年度に於ける濠洲羊毛工業の原毛使用量は約八十萬俵と推定され前年度の大體二倍に增加した事になる譯である。

尤も此の使用量の增加は全部が機械設備の增加に基づくものでは無く、職工數の增加と三交替制に依る二十四時間運轉、並に老朽機械の復活等に依る能力の增加にも依る事明かであるが、兎に角原毛使用量に於て一躍世界の一流羊毛工業國の水準に達した事は注目すべきものがある。

尙工場數、生産額等に依つて濠洲羊毛工業の發達模様を示せば次の如くである。

第502表　羊毛工業設備年度別比較表

年度	工場數	從業員數	總生産價額	主要製品		
				Tweed cloth	フランネル	毛布、膝掛、肩掛
		人	磅	平方碼	平方碼	枚
1906	21	2,318	*	*	*	*
1910	25	3,030	693,297	2,000	5,000	532,000
1920—21	34	5,783	4,241,964	6,350,499	5,686,294	772,336
1930—31	92	11,551	6,758,788	10,732,123	6,557,623	643,689
1937—38	87	19,103	12,618,132	24,783,956	4,621,113	1,270,863

* 不明

又濠洲羊毛工業の發達經路を製品の上から見ると、先づ毛布、膝掛の製造から始まり、次いで男子用服地、手編糸の製造に及び、最後に婦人服地の製造へと進んで居る。而して現在では大體に於て凡ゆる高級毛織物の製造を爲し得る樣になつて居るのである。

以上濠洲羊毛工業發展の過程に付大略を記したのであるが、之に依つて明かなる如く、二十世紀に入つて以後は徐々乍ら大體順調な發展振りを示して居るのである。此の間安價なる外國製（主として英本國製）毛製品の競爭に脅かされた事も數回あつたが、其の都度輸入稅率の引上げに依つて之に對抗し今日に至つたのである。

第二節　羊毛工業の現狀

前述の如く濠洲の羊毛工業は今次戰爭勃發に依つて大躍進をなし、一應表面的には羊毛工業國として世界的にも一流と云へる樣になつたのであるが、其の內情はまだまだ一本立ちの出來ない未成年者と云ふのが實狀である。今其の立場を明かにする爲濠洲羊毛工業が其の競爭國に比し有利な點不利な點を擧げて見る事とする。

一、有利な點

云ふ迄も無く原料の生産國である事である。原料に多額の運賃其他諸費用を支拂ふ事を要せず、原料代が甚だ安くつく事が先づ第一である。殊に同じ原毛生産國でも濠洲の様に多種類の羊毛を、而も多量に産する所は少ない。從つて濠洲の羊毛工業は綿、絹等の混織原料は別として、羊毛に關する限りは一切輸入原料を必要としないことは何と云つても非常な强味である。又其の所要原毛は大體一年を通じて必要なる時期に小刻みに買ふ事が出來る譯で、日本の毛織會社が原毛買付より工場到着迄の輸送期間を考慮して、普通少なくとも半年分位の所要原毛を手持するのに比べれば、金利丈けでも之又相當な違ひである。

二、不利な點

一口に云へば生産費が高い事である。直接費、間接費共に甚だ高いが生産費の主要部分を占める勞賃が殊に高い。濠洲は勞働者の天國と云はれる位で、賃銀が高く、勞働時間が短いと云ふ點では恐らく世界一であらう。自然他の不利な諸條件は何とか補ひがつくとしても、此の賃銀が筈棒に高いと云ふ事のみで、濠洲の羊毛工業は絶對的に一本立ちが出來ない事になつて居る。即ち前記の有利な諸點を考慮しても此の高賃銀に基づく不利は絶對に償ひ得ないのである。

此の外に尙技術の未熟な點等もあつて、到底他國の羊毛工業と太刀打出來る筈も然く、漸く政府の保護政策に助けられて國內消費用毛製品の製造に甘んじて居るのが現狀である。（勿論戰爭勃發は非常事態として考慮外とする）濠洲人に安い毛織物を供給すべき計畫の下に毛織工場の設立を見たのであるが、現在では却つて自分自身の工場があるばかりに、濠洲人は高價な毛織物を着なければならない様な羽目に陷つて居るのも皮肉である。

然し濠洲自身としては又別の觀點があり、濠洲羊毛工業の功績を相當高く評價して居る譯で、高率關稅を設けて之を保護しつゝある理由の一半は又玆にあるのである。

即ち先づ消費者の立場から云へば、濠洲製毛織物は其の豐富且安價な原料に惠まれて、輸入毛織物の様に屑毛、反毛等を混合使用する事無く、優秀な原毛を贅澤に使つて製造する關係で永持ちがして實用的であると考へられて居る。又一層重要な事は濠洲羊毛工業が濠洲羊毛相場に與へる影響である。卽ち近年の様に年に三十萬俵以上もの羊毛を使ふ様になると、羊毛競市場に於ける濠洲內地筋買手の買進み振りは相當大なる影響を相場に與へ、其の買進みの有無に依つて相場は相當の高下を示すのである。殊に濠洲內地筋の買付は一年を通じてむらが無く、絕えず平均的に買進む關係上、羊毛相場維持に役立つ事は誠に偉大なるものがあり、自然濠洲自身に齎す利益は極めて大きく、濠洲羊毛工業の眞面目は寧ろ此の邊にありと云ふ事が出來よう。

以下順次統計に依つて濠洲羊毛工業の現狀を解剖する事とする。

先づ最近の數字に依つて濠洲の羊毛工業設備統計を作成すれば五〇三表及五〇四表の如くである。

表に於て注目を要する事は、濠洲の羊毛工業は專らニュー・サウス・ウェールス及びヴィクトリヤの兩州に集中して居る事で、此の兩州に於て全體の生産價額の八割六分を産出して居る事になつて居る。之は濠洲の人口が此の兩州に集中して居る事、濠洲羊毛の過半が此の兩州で生産される事、自然的條件に惠まれて居る事等の理由に依るものであるが、殊にヴィクトリヤ州は濕度、水質等良好にて最も好く發達し、工場數、從業員數、使用諸原料額、並に生産

第503表 羊毛工業設備

	N. S. W.	Victoria	S. Australia	Tasmania	合計
工場數	24	56	7	3	94
從業員數	7,490人	11,036人	791人	1,395人	21,332人
男工	—	5,478	559	539	—
女工	—	5,561	232	856	—
給料・賃銀	£ 1,075,503	£ 1,790,966	£ 119,644	£ 202,007	£ 3,270,248
使用燃料及動力	£ 137,730	257,448	19,288	20,888	£ 448,917
使用諸原料	£ 3,035,882	4,425,224	688,410	582,652	£ 8,853,612
總生產價額	£ 5,040,780	7,955,722	854,021	953,209	£ 15,050,381
土地・建物	£ 761,443	1,314,754	106,915	213,008	£ 2,457,155
工場・機械	£ 1,204,267	1,722,679	170,486	214,121	£ 3,460,001
使用動力(馬力)	H.P.12,312	25,779	2,242	2,719	H.P. 44,457

註 N. S. W. は羊毛洗上工場を除く。
合計に於ては Queensland 3. W. Australia 1. の工場を含む。
N. S. W., Victoria は 1940 年其の他は 1938 年の統計による。

第504表 羊毛工業の機械設備內容

	1930/31 年	1937/38 年	增減
カード機	454 臺	481 臺	+ 27 臺
コーミング機	276 〃	319 〃	+ 43 〃
錘數	309,434 錘	393,270 錘	+ 83,836 錘
織機臺數	3,644 臺	4,332 臺	+ 688 臺

價額の何れに於ても全國總計の約五割を占めて居るのである。

次に機械設備の內容に就いて述べる事とする。

一九三〇年より一九三八年に至る僅か八年の間に相當の飛躍振りを示しては居るが、之を例へば錘數に就て我國の梳毛錘數百六十七萬錘に比較してみると尙相當の懸隔がある事が

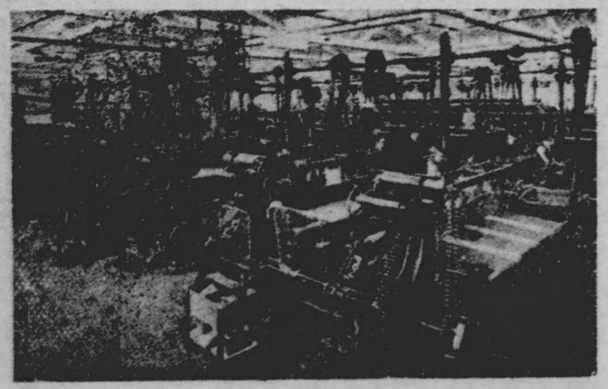
第505表 羊毛工業生產高

年度	Tweed & Cloth	Flannel	Blankets	Rugs & Shawls
	平方碼	平方碼	對	枚
1928—29	9,356,042	7,302,306	456,267	159,926
1929—30	9,887,273	5,994,544	355,501	164,886
1930—31	10,732,123	6,557,623	265,248	113,193
1931—32	16,631,833	8,313,069	343,684	95,921
1932—33	21,127,415	9,610,272	485,780	169,448
1933—34	23,279,903	9,851,097	583,239	221,818
1934—35	22,024,039	7,162,524	547,857	176,643
1935—36	24,435,598	8,265,212	619,481	208,279
1936—37	25,013,855	5,904,677	628,131	206,513
1937—38	24,783,956	4,621,113	563,102	144,659

解る。乍然此の數字は今次大戰勃發以前迄の發表であるから恐らく其後の躍進振りは相當目覺しいものがある事と思はれる。

次に濠洲羊毛工業の生產能力を製品の方から檢討して見よう。

上表に於てフランネルの生產量減少傾向を示して居るのは流行の變遷に依る需要の減退に基づくもので、既に濠洲と思はる。毛布及膝掛、肩掛の生產高に大した變化の認められないのは、之等の製造部門は濠洲羊毛工業發達史上最も古いもの一で、既に濠洲の全需要を滿して居り、將來發展の餘地



毛織工場

第506表 羊毛工業生產額

年度	N. S. W.	Vic.	Australia
	磅		
1928—29	2,144,234	4,308,677	7,477,295
1929—30	2,082,499	3,903,164	6,964,160
1930—31	1,584,811	3,289,288	6,758,788
1931—32	2,146,026	4,134,830	8,452,029
1932—33	2,968,106	4,600,520	10,307,925
1933—34	3,109,963	4,950,498	11,635,920
1934—35	3,438,895	4,368,373	10,712,076
1935—36	4,343,383	5,936,927	12,545,067
1936—37	4,138,221	6,156,701	12,283,298
1937—38	4,238,429	6,325,824	12,618,132
1938—39	4,299,710	5,956,106	*
1939—40	5,040,780	6,851,475	*

註 各種織物、毛布、膝掛、肩掛等完成品の外に毛糸、トップ、ノキル及び N. S. W. 州以外の州に於ける洗上羊毛生產額を含む

* 不明

第507表 羊毛工業主要製品別生產額

品種	1936/37 年度	1937/38 年度
Woollen Cloth & Tweed	1,280,924 磅	1,163,317 磅
Worsted Cloth	3,117,418 〃	3,389,361 〃
Serge	109,778 〃	168,452 〃
Flannel	588,923 〃	489,675 〃
Blankets	638,391 〃	638,172 〃
Rugs & Shawls	134,761 〃	106.490 〃
合計	5,870,195 磅	5,955,467 磅

第508表 Tweed & Cloth 製造高 (1937/38 年度)

Victoria	12,969,328平方碼	52.3%
N. S, W.	10,690,302	43.1〃
其他諸州	1,124,326	4.6〃
濠洲全體	24,783,956	100.0%

即ちツイード類の製造能力としては此の兩州が九割五分迄も占めて居る事が分るのである。

乏しい事を示すものである。之に反してツイード及びクロースの部に於ては其の生產高年々著增して居り、此の部門の發達が最も遲れて居た事が判る。後に示す如く最近でも尙相當の輸入が行はれて居る。

右二表に依つて濠洲羊毛工業の大體の規模と、ヴィクトリヤ、ニュー・サウス・ウエールス兩州の地位も想像がつくのであるが、更に參考の爲ツイード及びクロース生產量に付き兩州の占める割合を見ると上表の如くである。

尙濠洲の毛メリヤス工業は同じくヴィクトリヤ州を中心として相當な發達を示してゐるのであるが詳細は第二章に讓る事とする。

次に戰前五年間の毛糸、毛織物輸入統計を示す。之に依つて明かなる如く、年々四、五百萬圓の毛糸、毛織物を輸入して居る譯で、其の輸入先は國別統計で見られる如く殆んど英本國からの輸入で、毛糸に於ては九割餘、毛織物に於ては八割近くを英本國が占めて居る。

次に同じく戰前濠洲の羊毛工業製品輸出統計を揭げる。之に依つて見るに毛糸、毛織物の輸出は極めて僅かにして殆んど問題にならない。尤も濠洲に於ける羊毛工業發達の程度から見れば少量でも輸出されて居ると云ふ事は寧ろ不思議な位で、例外的なものと見るべきである。仕向先も英國及び其の屬領が主となつて居る。尙一部輸入品

第509表 毛糸、毛織物輸入統計

品名	1934—35年度		1935—36年度		1936—37年度		1937—38年度		1938—39年度	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
毛糸										
紡毛糸	封度 9,745	磅 2,380	封度 22,112	磅 6,467	封度 7,599	磅 2,728	封度 11,284	磅 3,410	封度 15,602	磅 6,688
梳毛糸	51,753	20,380	152,688	54,497	96,758	35,514	76,936	33,144	39,001	17,200
其他(モヘヤ、アルパカ糸を含む)	71,352	16,310	99,474	19,596	71,193	15,640	150,549	24,974	127,060	24,526
合計	132,850	39,070	274,274	80,560	175,550	53,882	238,769	61,528	181,663	48,414
毛織物										
男子用服地										
梳毛織物	平方碼 168,652	磅 40,665	平方碼 315,147	磅 66,134	平方碼 231,306	磅 50,627	平方碼 256,352	磅 64,531	平方碼 344,396	磅 80,795
其他純毛織物	750,428	128,484	650,452	110,499	613,346	117,169	422,300	80,036	219,987	49,496
交織毛織物	479,368	56,972	436,349	50,451	236,274	31,423	199,228	33,075	161,306	25,896
フランネル	21,276	2,286	74,631	5,017	74,078	8,508	71,241	6,626	40,850	3,965
イタリヤンクロス	5,685	431	7,093	625	2,932	271	14,858	1,200	17,173	540
其他毛織物	140,604	15,230	270,724	26,510	803,170	73,762	1,403,936	138,373	1,305,073	120,430
合計	1,566,013	244,068	1,754,396	259,236	1,961,106	281,760	2,367,915	323,841	2,088,785	281,122
總計		283,138		339,796		335,642		385,369		329,536

第510表 1938–39年度毛糸毛織物輸入國別統計

品名	英本國		白耳義		其他		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
毛糸								
紡毛糸	封度 14,717	磅 6,397	—	—	封度 885	磅 291	封度 15,602	磅 6,688
梳毛糸	36,698	16,317	—	—	2,303	883	39,001	17,200
其他(モヘヤ、アルパカ糸を含む)	124,349	23,527	—	—	2,711	999	127,060	24,526
	175,764	46,241	—	—	5,899	2,173	181,663	48,414
毛織物								
男子用服地								
梳毛織物	平方碼 328,919	磅 77,995	平方碼 —	磅 —	平方碼 15,477	磅 2,800	平方碼 344,396	磅 80,795
其他純毛織物	200,727	45,871	—	—	19,260	3,625	219,987	49,496
交織毛織物	139,546	22,262	—	—	21,760	3,634	161,306	25,896
フランネル	38,673	3,868	—	—	2,177	97	40,850	3,965
イタリヤンクロス	16,610	493	563	47	—	—	17,173	540
モケット	2,166	553	471,373	46,842	22,872	2,619	496,411	50,014
アルパカモヘヤ織物	50,344	5,086	—	—	1,471	305	51,815	5,391
其他毛織物	614,889	56,712	6,769	831	135,189	7,482	756,847	65,025
	1,391,874	212,840	478,705	47,720	218,206	20,562	2,088,785	281,122
總計		259,081		47,720		22,735		329,536

第511表　羊毛工業製品輸出統計

年度	毛織物		毛糸		トップ、ノキル、ウエースト		合計金額
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	平方碼	磅	封度	磅	封度	磅	磅
1934—35	—	13,488	3,794	1,147	5,489,399	448,280	462,915
1935—36	—	8,233	10,695	2,847	5,672,731	577,033	588,113
1936—37	38,557	8,863	26,167	6,603	5,592,584	678,642	694,108
1937—38	59,797	10,925	25,946	6,464	5,356,505	602,116	619,505
1938—39	33,575	8,268	32,643	7,163	7,630,544	729,831	745,262

第512表　1938–39 年度羊毛工業製品國別輸出統計

輸出仕向國	毛織物		毛糸		トップ、ノキル、ウエースト		合計金額
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	平方碼	磅	封度	磅	封度	磅	磅
英本國	2,887	600	6,587	996	1,621,341	103,838	105,434
加奈陀	6,774	2,232	—	—	1,904,931	226,830	229,062
香港	—	—	—	—	96,736	6,897	6,897
印度	—	—	—	—	219,208	22,588	22,588
新西蘭	10.004	2,094	25,769	6,089	116,994	6,160	14,343
南阿	4,181	1,176	—	—	—	—	1,176
其他英領地	4,874	670	287	78	4,209	283	1,031
支那	—	—	—	—	1,498,325	159,890	159,890
日本	—	—	—	—	595,845	39,355	39,355
メキシコ	—	—	—	—	821,739	97,954	97,954
エジプト	—	—	—	—	329,929	33,871	33,871
米國	3,631	1,019	—	—	348,339	26,759	27,778
白耳義	—	—	—	—	46,672	3,303	3,303
其他	1,224	477	—	—	26,276	2,103	2,580
合計	33,575	8,268	32,643	7,163	7,630,544	729,831	745,262
內再輸入品の輸出	7,134	1,634	1,515	697	—	—	2,331

の再輸出も含まれて居る事別表參照せられたし。

トップ、ノキル、ウェースト等の輸出は、流石に原毛の產出國丈けあつて相當の金額となつて居るが、近時各國共次第に原毛から織物迄一貫作業を行ふ樣になる傾向にあり、半製品たるトップの輸出は將來漸減するものと思はれる。

第三節　羊毛工業分布狀態

次に各州別に工場分布狀態を觀察し其の代表的工場名を列擧してみよう。

(一)　ニュー・サウス・ウェールス州 (New South wales)

前揭の統計表に於て示された樣にニュー・サウス・ウェールス州に於ては一九四〇年現在に於て二四の毛織工場があり七、四九〇名の專門職工を擁して居る。之等工場の使用原料としては洗上羊毛一六、一九八、六四二封度が消費されて居り製品高は總額五、〇四〇、七八〇磅に上つて居る。其の內譯は梳毛並に紡毛織物（フランネルを含む）一四、六七四、一七九平方碼、毛布類及肩掛類二五四、二二二磅となつて居る。

今之等二四の毛織會社名を擧げれば次の如く其の殆んど大半がシドニー市及び其の近郊に集中してゐるが、其他軍需工場地としてのリズゴー及びパラマッタにも可成りの設備を有してゐる。

シドニー市及び其の近郊 (Sydney)

Amalgamated Textiles (Aust.) Ltd.

Australian Woollen Mills Pty. Ltd.

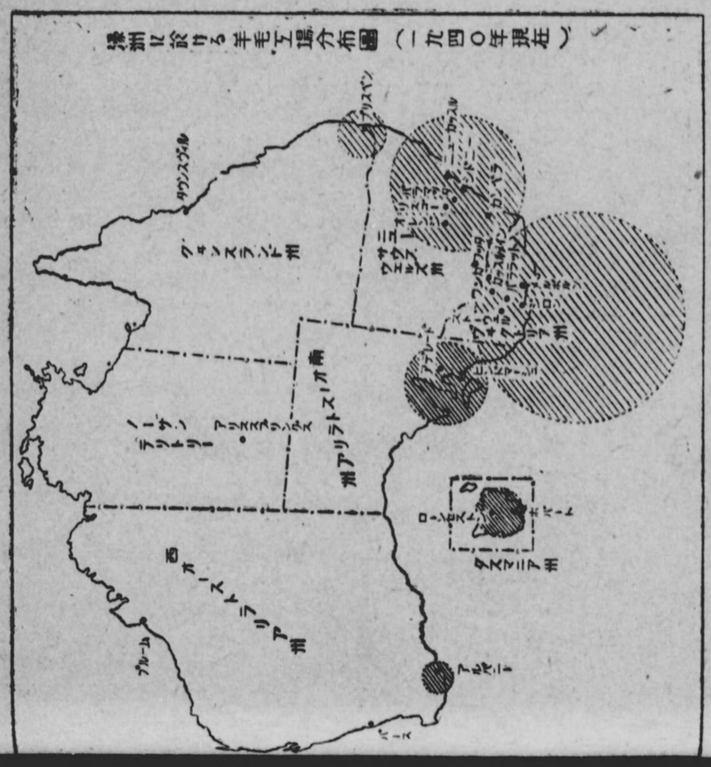
Bentex Weaving Mills Pty. Ltd.

Braemar Woollen Mills.

Challenge Woollen Mills.

Combe, David, Ltd.

Cumberland Textiles Pty. Ltd.



Dundas Woollen Mills.

Globe Worsted Mills Ltd.

F. W. Hughes Pty. Ltd.

Ingot Mills Pty. Ltd.

Jantzen (Anst.) Ltd.

Lincoln Mills (Aus.) Ltd.

N. S. W. Woollen and Felt Industries Ltd.

Stirling, Henry. Ltd.

Sydney Woollen Mills Pty. Ltd.

Target Woollen Mills.

John Vicars & Co. Pty. Ltd.

F. S. Walton & Co.

Worsted Manufacturing Co.(Aust.) Ltd

ゴールバーン市 (Goulburn)

Goulburn Woollen Mills.

リスゴー市 (Lithgow)

Lythgow Woollen Mills Pty. Ltd

オレンヂ市 (Orange)

Orange Woollen and Knitting Mills Pty. Ltd.

パラマッタ市 (Parramatta)

Parramatta Woollen Mills.

(二) ヴィクトリヤ州 (Victoria)

ヴィクトリヤ州が濠洲羊毛工業の最中心たる事は既に述べた所であるが、毛織工場數五六、從業員一一、〇三九名の内其の殆んど大半がメルボルン市及び其の近郊並にヂロン市に密集して居る。然して過去一ヶ年間に於て新設されたものは非常に多く、一九四〇年に於てメルボルン市及び其の近郊に一九社、ヂロン市に七社の主要工場を擁するに到つて居り、其の何れもが三交替制で晝夜運轉の全能力を發揮してゐる。

茲にヴィクトリヤ州に於ける主要羊毛工業會社名を掲げる。（洗毛工場を除く）

メルボルン市及び其近郊 (Melbourne)

Alrha Spinning Mills, Pty., Ltd.

Angora Mills, Pty., htd.

Barkers' Textiles Pty. Ltd

Centenary Woollen Mills Pty. Ltd.

Concordia Tweed Manufacturing Co. Pty. Ltd,

Felt and Textiles of Australia Ltd.

Laycock, Son & Co., Laconia Mills.

Joseph Shaw Pty. Ltd.

United Woollen Mills.

Winterfold Spinning Mills Pty. Ltd.

Koara Worsted Mills Pty. Ltd., Coburg.

Lincoln Mills (Aust.) Ltd., Coburg.

Tweedside Manufacturing Co. Pty. Ltd.,

Tweedside Woollen Mills, Abbotsford.

Yarra Falls Ltd., Abbotsford.

Dermott, Lawton & Co., North Brighton.

Foy & Gibson Pty. Ltd., Eagley Mills, Collingwood.

Jacquard Worsted Mills Pty. Ltd., Fitzroy.

Port Phillip Mills Pty. Ltd. Footscray.

Victoris Woollen Co. Pty. Ltd., Yarraville.

ヂロン市 (Geelong)

Albion Woollen Mills Pty. Ltd.

Collins Bros. Pty. Ltd., Union Woollen Mills.

ウォーナムブール市 (Warrnambool)

Federal Woollen Mills Pty. Ltd.

Geelong Feturned Soldiers' and, Sailors' Woollen and Worsted Manufacturing Co. Ltd.

Godfrey Hirst & Co. Pty. Ltd., Excelsior Wollen and Worsted Mills.

W. Redpath & Sons Pty. Ltd.

Valley WorstedMills Pty. Ltd.

デイレスフオード市 (Daylesfoad)

Daylesford Textiles Pty. Ltd.

Daytex Fabrics.

バラット市 (Ballarat)

Ballarat Woollen and Worsted Co. Ltd.

キャッスルメイン市 (Castlemaine)

Myer Woollen Mills Pty. Ltd.

Castlemaine Woollen Co. Ltd.

セール市 (Sale)

Gippsland Woollen Mills Ltd.

スト-ウェル市 (Stawell)

North Western Woollen Mills Pty. Ltd.

ワンガラッタ市 (Wangaratta)

Wangaratta Woollen Mills Ltd.

Warrnambool Woollen Mills Ltd.

(三) クイーンスランド州 (Queensland)

此處には三箇の羊毛工場が軍需のフランネル及び上等毛布專門に三交替制で活動してゐる。現在では專ら政府指定工場として軍需關係類の製造に當つてゐると同時に鐵道並に電車從業員服及び警官服を製造してゐる。

原料としてはクイーンスランド州產のメリノ羊毛を相當使用してゐるが、雜種羊毛に就ては殆んど產出しない爲何れもヴィクトリヤ州より之を移入してゐる。

アリスベーン市地方には洗毛工場が七つあるが、之等は何れも Central Wool Commitee の註文により英國向の洗毛加工並に Sheepskin の製造を擔當してゐる。

The Queensland Woollen Manufacturing Co. Ltd.

The Ipswich Woollen Co. Pty. Ltd.

The Morris Woollen Mill Pty. Ltd.

(四) 南オーストラリヤ州 (South Australia)

此處には次の四工場がある。(洗毛工場を除く)

G. H. Michell & Sons Ltd. Hindmarsh. (Top. 製造業者)

Onkaparinga Woollen Co. Ltd., Lobethal. (Tweed, Rug, Blanket 製造業者)

S. A. Worsted Mills Pty. Ltd., Mount Gambier. (Yarn 製造業者)

Torrenside Woollen Mills., Thebarton. (Rug, Blanket Flannel 製造業者)

(五) 西オーストラリヤ州 (Western Australia)

The Albany Woollen Mills.

本州に於ける唯一の羊毛工場であるが其の全能力を擧げて軍需に從事してゐる。Perth 附近には數個の洗毛專門の工場があり英國向の加工仕事に從事してゐる。

(六) タスマニア州 (Tasmania)

タスマニア州内には次の三工場があり最近何れも工場機械設備並びに職工數を著しく增大した。

Patons & Baldwins Mills.

Kelsall & Kemp Mills.

Waverley Mills.

此の外に洗毛、化炭專門の大工場として

L. W. Smith Pty., Ltd.

が一社あるが、同工場はタスマニア產羊毛のみならずニュー・サウス・ウェールス州其他の濠洲本土產羊毛をも相當多數取扱つて居る。

Patons & Baldwins Mills は「ビーハイブ」の商標を以て世界的に有名な毛糸の製造工場である。

第四節　羊毛工業の將來

以上に依つて明かなる如く設備の上から云へば濠洲も立派な羊毛工業國と云つて好い譯であるが、其の內容は既述の通りで、而も其の生產量は漸く國內需要の大部を充して居るに過ぎない。而して現在の樣な條件の下では今後如何に發達しても、精々國內全需要量を供給するのが關の山で、國外輸出に進出する事は先づ望み得ない事である。

尤も濠洲人としては、勞賃が高い爲に濠洲產毛製品は對外的競爭力の無い事は十分承知して居り、羊毛工業者としても國內需要を充す事を以て唯一の目的とし、且之で十分滿足して居る譯で、勞賃を犧牲にして迄對外進出を計ると云ふ樣な事は彼等としては全然考へられない事であり、又假に一部で斯樣な事を考へたとしても勞働者の勢力大なる濠洲では絕對に實現の可能性は無い。

斯樣な譯で折角原料生產國と云ふ極めて有利な立場にあり乍ら、其の將來が悲觀的な事は誠に勿體無い話であるが、將來濠洲が東亞共榮圈の一環として立つ時、若し日本から優秀な技術と勞力を十分に供給し、且濠洲勞働者の賃銀を世界的水準に迄引き下げたならば、濠洲羊毛工業の將來は誠に洋々たるものがあり、忽ちにして世界羊毛工業界に君臨する事も又容易であると信ずるものである。

第二章　製粉業

第一節　小麥と小麥粉概況

小麥粉の原料たる小麥に就いては第四編第三章農業中に略說したところであるが、その生產量並に消費狀況を概括的に記述すれば次の如くである。

一九三三年—三七年五ヶ年間の平均年產額は、濠洲政府發行年鑑に依れば約四百三拾九萬四千英噸であつて、其主要な用途は左の如くになつて居る。

國內消費小麥粉用小麥	約八六一、〇〇〇噸
輸出用小麥	二、一七四、〇〇〇
輸出小麥粉用小麥	七八七、〇〇〇
翌年度種子用小麥	三八一、〇〇〇

右四使途で約九六%を占めて居り、殘額は養鷄飼料や製粉工場內の在庫品等として消化せられる譯であるが、明確なる數字は得難い。尙每年の產額の外に前年度よりの繰越小麥及小麥粉は同期五ヶ年間平均して小麥換算四十九萬五千英噸あるが、之は每年の生產量の使途別分配には無關係乍ら參考の爲め附記する次第である。

以上の數字で見る通り全生產額の約三分の二は小麥及び小麥粉の形で海外に輸出せられてゐる。此の輸出小麥の內約二百拾七萬四千噸は小麥の儘で、殘りの七拾八萬六千噸は製粉せられて約六拾六萬壹千噸の小麥粉として輸出せられてゐる。

濠洲製粉工業は八十六萬壹千噸の小麥を製粉して國內消費小麥粉六拾七萬噸と前記七拾八萬六千噸の小麥を製粉して得られる。輸出用製粉六拾壹萬噸合計百貳拾八萬噸を對象として今日の發展を見たものであり、その歷史は濠洲植民史と同時に始まつてゐる。

濠洲小麥は大體所謂白小麥に屬し、軟質で之を製粉すれば、その品質は麩性が加奈陀小麥の如く高からず、又米國產のウェスタンホワイトの如く澱粉性に非ず、自然濠洲小麥一本で製粉すれば、日滿支で最も需要多き小麥粉の製粉能率をあげ得る特長がある。

小麥年度は新小麥の出廻期即ち每年十二月一日より始まり、製粉工場もまた前年度產をこの頃に製粉し終り、十二月中旬乃至クリスマス頃を新小麥製粉への切替期として工場の修理や掃除を行ふのが普通である。

第二節　國內製粉業

濠洲に於ける製粉工業は、小麥の主要生產州であり且內需の最も旺盛なニュー・サウス・ウェールス及びヴィクトリヤの兩州に歷史的にも古く且現在に於いて最も發達しをり、次揭の第五一四表に示さるゝ通り一九三七年、三八年度全濠洲生產額に對し、ニュー・サウス・ウェールスは三八%、ヴィクトリヤ州は三四%、合計七二%を占めてゐる。

第513表　製粉業統計（1937–38）

摘要	N.S.W.	Vic.	Q'land	S. Aust.	W. Aust.	Tas.	合計
工場數	52	38	10	38	21	9	168
從業員數	1,205	1,101	339	446	380	117	3,597
生産額	6,396,629磅	5,409,629磅	1,303,748磅	1,532,632磅	1,686,424磅	340,268磅	16,668,749磅

備考　小麥以外の製粉業を多少含む。

第514表　小麥粉製產高（單位噸）

年度	N.S.W.	Vic.	Q'land	S. Aust.	W.Aust.	Tas.	合計
1933—34	495,779	395,566	84,159	121,811	122,000	10,253	1,238,568
1934—35	555,173	437,262	86,246	136,716	124,130	19,260	1,358,787
1935—36	523,281	435,340	86,142	124,021	118,340	20,492	1,307,616
1936—37	464,498	420,364	82,423	119,192	122,723	19,579	1,228,778
1937—38	476,881	424,302	81,242	123,878	135,472	19,155	1,250,930

〔註〕　一噸は 2,000 封度

之等兩州に次ぐものは西濠洲及び南濠洲でそれ〳〵一一%及び一〇%を占め、クィンスランド州は六%、タスマニア州は一%を漸く州内消費需給をするのにとどまり、年によつては他州から移入を餘儀なくせられてゐる狀態である。

製粉工場の分布狀態は各州の主都附近にある所謂海岸工場と奥地小麥生産地に散在する所謂奥地工場に分け前者は後者の約二倍半の能力を示してゐる。然も操業率は海岸工場の能力七八%に對し、奥地工場は七〇%に過ぎず、之は海岸工場の工場設備、勞働力の集中、交通の便等が奥地工場に比し遙かに良好であることに由來するもので、海外向輸出小麥粉製粉は海岸工場を主とし、奥地工場は從の立場に置かれてゐる。

第三節　小麥粉の輸出

前掲の一九三一年—三七年間一ケ年平均數字を更に引用すれば、小麥粉の國内消費は年約六拾七萬噸を上下し、海外輸出は六拾壹萬噸、更に工場手持品一萬噸で全生産高百二十九萬噸に上り、濠洲製粉工業の海外需要に對する依存度は四七%と云ふ高度に達し、斯業の消長は海外の需要に支配される處極めて大なりと云へる。

今試みに一九三七—三八年度の小麥粉、麩、糠の製造及び輸出高を檢討するに次の通りである。

	製造高	輸出高	輸出の生産に對する比率
小麥粉	一、二五〇、九三〇噸	六三〇、四七一噸	五〇%
麩及び糠	五二五、五九八	四三、一七八	八%

然して小麥粉の輸出をその仕向先別に見ろに次の如くである。

英本國	一八七、九四三噸
セイロン島	一四、三〇五
香港	六六、二九一
英領マレー	六五、四六四
南阿聯邦	二七三
其他英領諸地域	七六、六二三
支那	三一、五四九
滿洲國及び關東州	一一、九四一
比島	二七、二八〇

蘭領東印度	八三、〇七九噸
エジプト	一八、六七四
其他諸外國	四七、〇五四
合計	六三〇、四七一

今次大戰で此等諸國への輸出は漸次杜絶の運命にあるので、製粉工場は其操業率を半減せざるを得ない狀態に立到ろべく非常な困難に陷つてゐる事は想像に難くない。然し將來大東亞共榮圈が確立の曉には滿洲國、支那、馬來、舊蘭領印度、比律賓の如き大消費市場を含む廣大なる市場の一ヶ年の推定實需八十二萬噸の供給は濠洲小麥又は小麥粉を置いては到底之を滿すべくもなく、其際には濠洲製粉工場の全能力を擧げても尙不足すると云ひ得る次第である。

第四節　製粉工程品種及び包裝

濠洲小麥粉は所謂機械製粉で、其工場設備は日本のそれと大同小異である。卽ち原料小麥を機械にかける前に夾雜物を除去し、表皮に附着せる泥等をプラッシュで磨き、之をタンクに入れて小麥の含有水分を平均する準備操作を行ふ。斯くして得た小麥を工場の二階又は三階に送り上げ、プレーキングロール（荒碎き用）とスムースロール（細粉用）を取合はせ十臺乃至十二臺を一組とするローラで、最初の荒碎きから細粉になる迄幾回も木製の樋道中を通風作用で上下せしめ、粉、麩及ボラードの三種に分類する。濠洲では小麥粉は 1st Grade Flour と一級に取り纏めて本邦の如く一等二等三等の如き等級は設けず、其代りに粉が未だ多分に含まれて居るボラード（糠とでも云ふ）と麩が副產物

として產出せられる。之は原料が豐富で製粉技術を高度に發揮して一粒の小麥から最後の粉迄を摘出する操作を必要とせぬに原因して現在の組織が出來たものと考へられる。

次に輸出地の嗜好に依り、又は小麥粉を原料とする製品の都合に依り、之を電氣に依つて漂白した粉と特に漂白作業を加へない自然色のものとに區別する。

第五節　主要製粉工場名

主要製粉工場名、所在地及能力を左に列記する。

工場名（一九三三年現在）

工場名（一九三三年現在）	主要工場所在地	一時間に付二〇〇封度袋能力
一、ニュー・サウス・ウェールス州		
Brunton & Co., Ltd.	Grunville	82½ Bags
Crago F. & Sons Ltd.	Newtown	67 〃
J. Darling & Sons	Rhodes	75 〃
E. Davey & Sons Pty., Ltd.	Pyrmont	50 〃
Gillespie Bros Ltd.	Pyrmont	73 〃
J. Gordon & Sons Ltd.	Sydney	40 〃
Mungo Scott Ltd.	Summer Hill	60 〃

	Great Western Milling Co., Ltd.	Dulwich Hill	50 〃
二、	ヴィクトリヤ州		
	T. Brunton & Co., Pty., Ltd.	North Melbourne	63 〃
	J. Darling & Son	Albion	60 〃
	Kimpton W. S. & Sons	Kensington	124 〃
	Minifre J. & Co.	South Kensington	48 〃
	Stratton & Co., Pty., Ltd.	Abotsford	45 〃
	Thoms W. C. & Sons Pty., Ltd.	Newport	99 〃
三、	南オーストラリヤ州		
	Adelaide Milling Co., Ltd.	Pt. Adelaide	50½
	Thomas W. & Co., Ltd.	Adelaide	80 〃
	Charlick, Wm., Ltd.(City Flowu Mill)	Hilton	30 〃
四、	西オーストラリヤ州		
	Great Southern Roller Flour Mills Ltd.	North Frementle	32½ 〃
	Thomas W. & Co., (W. A.) Ltd.	(Cottesloc, Northam)	82½ 〃
	York Flour Milling Co., Ltd.	West Perth	45 〃
	Peerless Roller Flour Mills Ltd.	Guildford	37½ 〃
五、	クインスランド州		
	Barnes & Co., Pty., Ltd.	South Brisbane	34 〃
	Brisbane Milling Co., (Pty.) Ltd.	South Brisbane	42 〃
	Gillespic Bros (Q.) Pty., Ltd.	Albion	34 〃
六、	タスマニア州		
	Gibson's Ltd.	Hobaat	26 〃
	Monds & Affleck Pty., Ltd.	Raunceston	15 〃

第三章 綿紡・織布・莫大小工業

第一節 綿紡

一九三八年の濠洲全體の棉花消費量（推定）は約三萬俵（五〇〇封度入）であつて、同年度の國内生産は九六五四俵である。不足分は海外よりの輸入によつて補つてゐる。

第二次歐洲大戰爭勃發以來、棉花は國防上重要物資としてその栽培に一層の努力が拂はれ、最近の情報によれば國

内生産は年産三萬俵に達したと云はれてゐるが、同時に海外よりの輸入も激減してゐるのであるから、綿紡に使用せられる棉花の數量にも自ら限度があつて、年三萬俵を越える事は先づないと見て差支へない。従つて綿紡そのものは地位も未だ低い。然し乍らその重要性は良く認められ棉花栽培への努力、奬勵と相俟つて將來發展への途上にある。

綿糸紡績工場として現在十數社あるが、有力なるものにメルボルンの Davies, Coop Co., Ltd. シドニーに Bonds Industries, Bradford, Stirling Henry 等がある。濠洲全體でどの位錘數があるか正確な數字を得る事が出來ないが、大約二十萬錘と推定せられるから、綿紡は未だ初期の時代にあると云ふべく將來の發展に期待する所大である。

第二節　織布

濠洲の消費する綿布はその殆んど全部を海外よりの輸入に仰いでゐる狀態である。

一九三七―三八年の輸入統計を見ると濠洲の綿布の輸入は二億一千五百萬平方碼で、その内英國の占める割合は六七・六%、日本二七・五%、即ち日本と英國で綿布輸入總數量の九五%以上を占めてゐるわけである。

然らば國内生産はどの位あるかを見るに、精々國内消費の五%に過ぎぬ有樣である。

綿布の輸入の中には小麥粉用綿布（九九%迄日本よりの輸入）約七%あるのであるから、國民毎年一人當りの綿布消費量は約三〇平方碼で消費量は甚だしく高い。

従來國内需要の七割近くを英國よりの輸入に依存してゐた濠洲は、英國よりの供給を絶たれて如何に對策を講ずるか、之は我々にとつても愼重な考慮を必要とする所である。扨て濠洲國内の綿布生産は前述の通り従來迄は國内の品

質から見ても消費者の滿足を得る域には達してゐない。現在製織してゐるものは綿小倉、デニム、太綾、納綾、帆布等であり、晒、捺染の域にはまだ遠い現狀である。

綿織布における濠洲最大の會社は Davies, Coop Co. Ltd. である。この會社はメルボルンに本社を有し、メルボルンに五工場、シドニー、アデレイド近郊に各々工場を持つてゐるし綿布の國内消費の三%を生産すると稱してゐる。第二次歐洲大戰勃發以來軍隊被服用カーキーの製織に大童となつてゐるが、製品はまだ本邦品とは比較すべくもない。又帆布の生産にも努力してゐるが國内需要の極小部分を充たすにすぎない。然しアデレイド近郊工場は一九四〇年に新設せられたものであり、英國から輸入した最新式の織機を擁し將來は金巾粗布の製織へ發展せんものと計畫してゐる。

Davis Coop の他にシドニーの Bradford, Stirling Henry, Sydney Cotton Mills 等織布工場は廿以上もあるが現在の所生産は微々たるものである。

他の製造工業の多くについても見られるが如く、濠洲の綿織布工業は全く保護關税によつて育成せられて來たものである。

濠洲の生産するものは微々たるものであるが、これらは高い關税障壁なくしては到底外國品とは對抗出來ないものである。

一九三三年の綿布に對する關税引上は綿小倉、デニム、カーキードリル等に對し禁止的の高率であつて、當時漸く軌道に乘つて來たこの種綿布の國内産業に手厚い保護の手を差しのべたものである。然しその裏面には製造業者の策

動があつて濠洲政府を動かしたものに他ならない。

次で一九三九年の初頭頃から帆布に對する關稅引上の運動が起つて來た。之も矢張り Davies Coop が先鋒となつて策動を始めたのであつて Davies Coop はこれより先帆布の製織を始めたが、海外よりの輸入品とは對抗すべき途なく他の帆布製織者を糾合して政府に働きかけたが、當時は引上の理由薄弱の故を以て帆布に對する關稅引上は實現不可能に見られたが、終に彼等の濠洲政府への運動は功を奏して關稅引上と決定した。偶々第二次歐洲大戰勃發して實施期は追て發表といふ事になつて了つてゐる。

何れにしても綿織布工業は未だ幼稚の域を脫せず、保護關稅により漸く經營を續けてゐるといふのが現狀である。

第三節　莫大小編物工業

莫大小工業は濠洲に於てよく發達してゐる工業の一つである。

その生產は自國の需要を充たしてゐる程である。一九三七—三八年の統計によれば、工場數は三〇六であるが、この莫大小編物工業はヴィクトリヤ州が斷然首位にあり、工場數二一六、卽ち總數の七割を占めてゐる。之を生產高より見ても、全濠洲八百五十三萬磅の中ヴィクトリヤ州は五百六十五萬磅で六割六分を擧げてゐる。

莫大小編物工業を原料の方面から見ると一九三七—三八年に於て

羊毛	五、八四九、一二四封度	
綿糸	六、二二〇、六四二〃	
生糸	一、六八八、三六六〃	
人絹糸	五、五八二、二七六〃	

といふ事になり、更に製品を見ると主なるものは

ジャケッ下着類	三二、〇七九、二一六着	婦人杏下及長杏下 二二、二〇四、三四四打
	四、〇四〇、四六七磅	杏下 一、六六四、四一八打
		二、八三一、二九三磅 一、〇九六、七四六磅

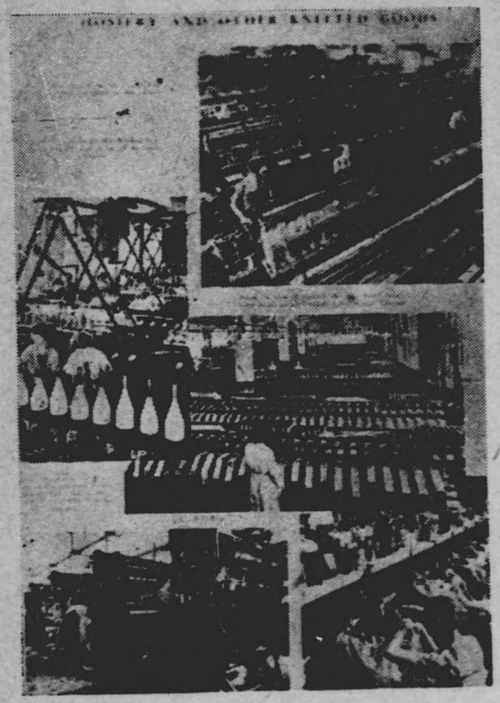
であるが、之を再び原料方面から考察すると國內に於て自給出來るものは羊毛のみであつて、綿糸はクィンスランド州產の棉花を一部使用他は海外よりの輸入に依存る。

場　生糸は殆んど全部日本よりの輸入に俟ち、人工絹糸又、英國、和蘭、伊太利、日本等に依存してゐたのであつて、國內に於て原料を得る事は全く出來ないのは衆知の通りである。

ヤ　將來原料を如何に供給するかは濠洲の莫大小

リ　編物工業に課せられた死活の問題である。

メ



第四章 食肉工業

第一節 牛肉

一、濠洲牧牛の目的

濠洲の牧牛は牛肉の生産を主とする食用牛種と酪農品生産を主とする乳牛種とに區別せられ、一八八〇年頃迄は兩者共に國內消費のみを對象としたが爲に市場は狹く、各州內人口の增加を基調として發達も遲々であり、且種々な困難も伴つて來たが一八八一年冷凍方法の完成を見るに及んで海外市場が開拓せられ、玆に食用種酪農種用の畜牛數は增加を示し爾來大體順調なる發展をして現在に至つてゐる。

氣候が比較的溫暖で人口も稠密なヴィクトリヤ州、ニュー・サウス・ウェールス州、及びクィンスランド州南部には乳牛種が多く酪農業が發達し、之に反しクィンスランド州北部、直轄北部地域及び西オーストラリヤ州の北部キンバーレイ地方は地價低廉なる廣漠たる地域で人口も少く、ショートホーン、ヘレフォード、アバデーンアンガス等の各牛種を中心とする食用種が放牧せられてゐる。一九三七年度の濠洲各州の畜牛數と乳牛數の統計は第五一六表の通りで各州の狀勢を窺ふ事が出來る。

第516表 各州別牛頭數(1937年)

州名	生牛	內乳牛	乳牛數の割合
ニュー・サウス・ウェールズ	3,019,581頭	1,047,332頭	生牛100頭に33頭
ヴィクトリヤ	1,880,429	952,906	〃 51
クィンスランド	5,959,165	985,858	〃 17
南オーストラリヤ	324,163	164,903	〃 51
西オーストラリヤ	740,241	124,278	〃 17
タスマニア州	254,812	92,493	〃 36
直轄北部地域	891,640	—	〃 —
直轄首都地域	8,325	1,129	〃 14
合計	13,078,356	3,368,899	26

第517表 各州別羊頭數

州名	1933	1934	1935	1936	1937
ニュー・サウス・ウェールス	769,776	974,749	1,100,472	1,186,476	1,223,320
ヴィクトリヤ	471,895	593,248	774,395	904,889	971,338
クィンスランド	719,277	851,393	866,410	1,040,980	1,266,412
南オーストラリヤ	104,488	140,170	153,686	166,468	167,451
西オーストラリヤ	99,217	110,124	120,123	124,214	145,375
タスマニア	34,558	37,581	39,588	46,714	48,451
直轄北部地域	4,363	4,358	1,531	4,814	2,456
直轄首都地域	1,616	1,791	1,620	2,339	2,693
合計	2,205,190	2,713,414	3,057,825	3,476,898	3,827,496

二、牛肉生產及び消費狀況

一九三三年より一九三七年に至る五ヶ年間の牛及び犢の屠殺數は第五一七表に示される通りで、一九三七年度は全濠畜牛數一千三百七萬八千三百五十六頭の二九%に相當する牛が屠殺せられてゐる。ニュー・サウス・ウェールス州は屠殺總數では首位を占めてゐるが州內の消費も亦大であるから、牛肉の對外供給餘力の最も大なるは第二位にあるクィンスランド州である。此點に就ては後述輸出の項で更に說明する。

食用牛種の主產地であるクィンスランド州や北部西オーストラリヤ州は亞熱帶に屬する故、白人勞働者は夏期の勞働に堪へず自然屠殺は冬期を中心に行はれる。例へばブリスベン地方は毎年三月より十月頃迄、タウンスヴィル地方は四月より八月迄の間に一年中の輸出向牛肉の屠殺を爲し、之れを冷凍室に保管して順次積出す方法を取り、前記以外の月は屠殺工場を閉鎖する事になつてゐる。尙屠殺の期間は雨量の多寡によつて牛の發育狀態が異なる爲多少長短があり、旱魃甚しき年は肉會社の操業期間は短縮される。

ニュー・サウス・ウェールス州、ヴィクトリヤ州、南オーストラリヤ州及び西オーストラリヤ州の西南地方に於ては大體年中屠殺するが概して秋より冬にかけて即ち三、四月頃より六、七月頃が盛んである。犢の屠殺は冬より春にかけて即ち七月より九月頃に多く行はれる。

一九三七—三八年に生產せられた牛肉數量は十三億三千六百八十一萬三千封度と見積られ、其の內國內消費は十億三千三百七十六萬七千封度卽約七七%に相當し、殘り三億三百四萬六千封度卽約二三%が冷凍冷藏牛肉及び罐詰とし

て輸出せられてる立場であるから、濠洲牛肉事業が其の根本を自國消費に置き、輸出は斯業の市場性を世界的に確保して安定せしめた補助的役割を演じて居る點は注目に價する所である。

尙濠洲人が如何に獸肉を嗜好するかは一九三六—七年度の濠洲人一人一ヶ年の肉消費量が二三八・二二封度と推算せられて新西蘭人の二四一・三〇封度に次ぎ、世界第二位を占め其の內牛肉は一四〇・〇八封度で新西蘭人の一二五封度を凌ぎ世界第一の牛肉消費者であることを見れば明らかであらう。

三、輸　出

濠洲牛肉の海外輸出が軌道に乘つたのはトーマス・モート等の努力により冷凍（Frozen）設備研究の結果、一八八一年に實行に移されて初めて冷凍牛肉として英本國への輸出に成功したに端を發し、其後異常なる發展を見せたが、更らに一九三二—三年冷藏（chilled）牛肉の對英輸出に成功するに至り、玆に世界の牛肉輸出王國たるアルゼンチンの領域に侵出可能となり、此結果輸出品としての牛肉の重要性は從來とは一段と增加した事は容易に想像せらるゝ所である。

四、冷凍牛肉（Frozen Beef）

濠洲の冷凍牛肉の輸出は歷史的にも又資本的にも英本國を中心に發達し、一九三二年のオツタワ會議の結果一段と其の勢を强めたと云へる。今其の輸出數量及び金額を見れば次の通りである。

第518表 冷凍牛肉輸出統計 (1938—39年度)

仕向地	數量	金額
英國	178,200,891度封	2,749,456磅
セイロン	320,809〃	8,572〃
ジブラルタル	1,169,716〃	17,805〃
香港	1,346,199〃	22,508〃
印度	19,061〃	684〃
馬來	3,184,917〃	56,880〃
マルタ	2,942,875〃	60,217〃
英領太平洋諸島	346,862〃	9,383〃
パレスタイン	45,412〃	810〃
スダン	33,440〃	706〃
其他英領諸國	4,071〃	104〃
支那	256,322〃	3,648〃
埃及	10,790,676〃	171,123〃
日本	755,493〃	8,785〃
蘭印	50,190〃	997〃
パナマ	200,809〃	3,007〃
比律賓	1,149,936〃	23,585〃
米國	39,699〃	1,535〃
其他	2,584〃	102〃
合計	200,859,962〃	3,139,907〃

州別積出	數量	金額
ニュー・サウス・ウェールス	11,800,282封度	205,141磅
ヴィクトリア	9,158,102〃	156,125〃
クィンスランド	163,789,912〃	2,538,437〃
南オーストラリヤ	466,925〃	7,475〃
西オーストラリヤ	15,644,741〃	232,729〃

第519表 犢肉(ヴィール)輸出統計 (1938—39年度)

仕向先	數量	金額
英國	10,790,270封度	169,576磅
セイロン	64,992〃	1,726〃
香港	30,673〃	509〃
馬來	262,945〃	4,661〃
マルタ	87,419〃	1,950〃
英領太平洋諸島	34,062〃	828〃
其他英領諸國	6,584〃	153〃
埃及	446,863〃	7,405〃
蘭印	25,708〃	588〃
比律賓	386,554〃	8,192〃
其他	1,785〃	37〃
合計	12,140,858封度	195,625磅
ニューサウスウェールス	1,446,973封度	24,994磅
ヴィクトリア	2,849,964〃	49,142〃
クィンスランデ	7,842,042〃	121,454〃
南オーストラリヤ	1,879〃	35〃

一九三四—五年
二一二、〇九九、一〇九封度
二、五五九、六〇五磅
一九三五—六年
一九六、八二三、二四八〃
二、四八一、八九六〃
一九三六—七年
二三三、八五一、六五八〃
三、〇三六、二三〇〃
一九三七—八年
二九三、八〇三、五三二〃
四、三六七、〇六四〃

尙一九三八—九年度の輸出仕向先國別及び生産州別の統計は第五一八表及び五一九表の通りである。

是に依つて英本國向冷凍牛肉輸出は數量に於いて全體の八九%金額に於て八八%を占め、又犢に就ては數量で八九%金額で八七%を示し、英本國を除いては濠洲冷凍牛肉の輸出業は成立しない事を如實に物語つてゐる。又濠洲側に於ける輸出冷凍牛肉はクィンスランド州が數量に於いて全體の八二%、金額に於いて八一%を占め、同州の輸出牛肉に對する地位が窺はれる。

五、冷藏牛肉（Chilled Beef）

濠洲は主要牛肉消費市場たる歐洲への距離が遠かつた爲、輸出は冷凍牛肉に限られ、アルゼンチン産冷藏牛肉に壓倒せられて兎角不利の地位に甘んぜざるを得なかつたが、英本國及び濠洲で種々研究調査の結果、一九三二—三年に最初の二十四萬四千封度の試送に成功し、玆に濠洲冷藏牛肉の世界市場への進出が確立して濠洲食肉事業は愈〻其基礎を强固にした次第であり、最近の輸出數量並びに金額は次の通りである。

一九三四—五年	二一、五七〇、〇〇〇封度	三二二、二三九磅
一九三五—六年	二三、一九三、七三七〃	三四八、〇四七〃
一九三六—七年	三七、八六九、六九五〃	六〇八、一七五〃
一九三七—八年	五八、六九〇、五五九〃	九七二、三四一〃

尙一九三八—九年度輸出仕向先國別及び生產州別の統計は第五二〇表の通りである。

冷藏肉はプライム級の一頭六〇〇—八〇〇封度の良品を冷藏設備のある快速船にて英國、主としてスミスフィール

第520表　冷藏牛肉輸出統計（1938—39年度）

仕向地	數量	金額
英國	58,721,661封度	982,659磅
馬來	212,328〃	4,686〃
埃及	29,020〃	503〃

積出州別	數量	金額
ニュー・サウス・ウエールス	44,949封度	731磅
クィンスランド	58,061,462〃	971,825〃
西オーストラリヤ	856,598〃	15,592〃

ドの肉市場に積出す。シドニーより英國迄の航海日數平均五十日として內二七—八日間は華氏二八—九度見當の溫度を保つて肉に何等異狀を生ぜないが、それ以後は冷藏室內に發生する菌により腐敗を生ずる傾向がある故、完全な狀態に保つ爲め自動的に二酸化炭素を發生せしめ徹菌を殺す仕組となつてゐる。若し尙不安があれば冷藏庫の溫度を華氏一二—三度に落して凍結せしめ結局冷凍肉とする。冷藏肉として長期航海に堪へる樣にするには、冷藏庫を淸潔に保ち空中に腐敗菌を發生せしめない樣にする事が必要である。故に積込前に冷藏庫自體の消毒は勿論、肉に腐敗の箇所なきやを良く吟味し、肉面を包むメリヤスも充分に消毒すると共に、天井より牛肉を吊り下げ、床より二尺位の所に牧まる樣に設備し、且つ各牛肉の間隔も優に四尺以上に及ぶ樣に配列する事に依つて、航海中に牛肉が相互に接觸しない樣に注意する。一旦積込みを完了した上は到着迄開扉せず外部より內部の狀態を常に察知し必要の手段を講じ得る樣硝子の窓を設け、又既述の如く二酸化炭素を自動的に發生せしめ得る裝置をする。斯る辛苦は濠洲英國間の距離が遠い爲に起る所で濠洲より日本へ輸送する時は其距離が短

かい爲輸送其のものには大した困難は豫想されない。

六、濠洲牛肉の英本國市場に於ける地位

既述の通り濠洲牛肉の輸出市場としての英本國は絶對的に重要なる地位を占めてゐるが、之を英本國側から見れば一九三八年度統計で次の如き事が云へる。

英本國の同年度總輸入量は五十二萬九千八百四十噸、金額二千三十萬九千五百七十磅の内、冷藏牛肉四十四萬八千百二十二噸（八四・六%）金額一千七百六十七萬一千六百八十一磅（八七%）冷凍牛肉八萬一千七百十七噸（一五・四%）金額二百六十三萬七千八百八十噸（一三%）で、冷藏牛肉が壓倒的地位を占めてゐる。而して此の冷藏牛肉では亞國産三十四萬四千七十二噸（金額一千三百七十七萬二千八百十七磅）で約七七%を占め、濠洲産を主體とする英領産は過去五ヶ年間に約四倍の增量を示したが尙數量五萬二百六十二噸（金額百八十七萬六百七十磅）で一一%に過ぎぬ。濠洲が冷藏牛肉對英輸出に躍氣な研究を進めた事は充分に納得出來る所である。

之に反し冷凍牛肉では濠洲産が數量五萬九千五百六十四噸、金額百八十九萬二千四百七十七磅で、共に七三%を占め第二位、新西蘭産は數量一萬三百七十四噸、金額三十一萬三千三百三十七磅で僅かに一三%で格段の差である。以て冷凍牛肉に關する限り英濠兩國が相互に依存する所が明かに看取せらるゝのである。

七、牛肉の等級及び種類

第521表　牛肉目方表

等級	肩目方(Fores)	友目方(Hinds)	一頭目方
1st Ox Beef	輕目110封度以下 中間110—170封度 重目170封度以上	160 封度以下 160—220封度 220 封度以上	540 封度以下 540—780封度 780 封度以上
2nd Ox Bees	輕目 90 封度以下 中間 90—150 封度 重目 150 封度以上	140 封度以下 140—200封度 200 封度以上	460 封度以下 460—700封度 700 封度以上
3rd Ox Beef	目方雜多	目方雜多	
Heifer Beef	輕目 90 封度以下 中間 90 封度以上	140 封度以下 140 封度以上	460 封度以下 460 封度以上
1st Cow Beef	70封度以下 70封度以下	100 封度以下 100 封度以下	340 封度以下 340 封度以上
2nd Cow Beef	70封度以下 70封度以上	100 封度以下 100 封度以上	340 封度以下 340 封度以上
3rd Cow Beef	目方雜多	目方雜多	

通常、性別、脂肪の付き具合、肉質の良否、形態、目方等により此れを次の通りに分つ。

一等品　脂肪が全體に亙つて良く付き、肉質形態良好にして目方も重い。

二等品　脂肪が一等品の程ではないが、尙相當に付き、肉質及形態も概して良好である。

三等品　脂肪の附着不良、肉質も不良且つ形態不均等である。

各等級の大體の目方は第五二一表の通りである。

一等品の重目極上等品をプライムと稱す。處理後の仕上げ方法に

より次の區別をする。

（一）骨付肢肉、一頭を肩友二つ宛四個に切る、肩には肋骨十枚、友には三枚を付ける樣に切斷するのが普通であるが要求次第で特殊の切斷も出來る。

（二）無骨品には肢肉より骨を拔いた(イ)、Boned Beef（此れは肩二つ切りとしたるものと友をローイン（Loin）バトック（Buttock）に分けたるものとより成る）(ロ)、トリミングと稱する小肉片の二種類がある。之等は肢肉として處理し難い缺點ある場合脫骨して罐詰又はソーセーヂ用原料とするもので、其儘で食用とするものではない。

性別により次の特長がある。

Ox　牡牛の去勢したものにして牡の骨格に牝の柔い肉質を伴ひ食用として最も適す。

Cow　肉量は Ox に及ばないが柔かい、但し牛乳を搾取される故 Ox 程の味はない。

Bull　牡牛にして肉質粗剛の爲普通に脫骨してソーセーヂ用とする。

Veal　生後六ヶ月乃至一ヶ年迄の間に屠殺せるもので、一頭當りの目方六〇—一〇〇封度、肉は柔かく脂肪無く味は淡い。

Heifer　生後一ヶ年より二ヶ年半迄の若き乳牛で、一度も仔牛を產まないものを言ひ、肉質は Veal と Cow との中間にあり脂肪適量で味は良い。

第522表　羊（仔羊を含む）屠殺頭數

州名＼年度	1933	1934	1935	1936	1937
ニュー・サウス・ウエールス州	7,180,612	6,829,477	6,054,749	6,428,027	6,875,496
ヴィクトリヤ州	7,773,289	7,646,070	7,691,488	7,914,433	8,128,544
クィンスランド州	1,299,285	1,275,936	972,458	1,024,519	1,120,729
豪オーストラリヤ州	1,495,127	1,591,054	1,642,550	1,697,498	1,588,507
西オーストラリヤ州	1,092,222	1,079,516	1,160,663	1,106,107	1,227,843
タスマニア州	366,156	349,044	351,684	341,586	372,547
直轄北部地域	900	—	—	—	—
直轄首都地域	25,367	22,207	21,948	24,230	25,375
合計	19,232,958	18,793,304	17,895,540	18,536,400	19,339,041

第二節　羊肉

一九三七年の全濠羊頭數約一億一千三百萬頭の內良質細番手羊毛を以て有名なるメリノ種が大部分を占め、メリノ種以外の種類は比較的に尠い。此の二大種別頭數の割合は年に依りて多少變化はあるが、メリノ種八三%メリノ種以外一七%見當と看て宜からう。故に羊肉より見たる濠洲は英本國市場では羊種の關係で新西蘭に壓倒せられて居るが、尙數量並びに金額に於て第二位を占め居る事實は濠洲牧羊業の世界的地位を雄辯に物語るものと見るべきである。

一、屠殺狀況

一九三三年より一九三七年迄の五ヶ年間の仔羊を含む屠殺統計は第五二二表の通りである。

一九三七年度に於ける全濠羊頭數一億一千三百三十七萬二千五百十八に對し、同年中の屠殺は一千九百三十三萬九千四

十一頭で一七%に達して居るが、一九三三年は一八%、一九三四年は一六・六%、一九三五年は一六・四%、一九三六年は一六・八%と大差ない屠殺率を示してゐる。屠殺數を州別に觀るにヴィクトリヤ州が第一位で一九三七年度は全濠洲の四二%を占め、ニュー・サウス・ウェールス州が三五・六%、南オーストラリヤ八・二%、西オーストラリヤ六・四%、クィンスランド州五・八%、タスマニア州二%の順になつてゐる。是れに由ると羊頭數に於ては濠洲で第三位のヴィクトリヤ州が第一位を占めてゐる事になるが、これは同州の羊種が大體に於てメリノ種三九%、メリノ・カムバック種三四%、英國純血種三%、其の他雜種二四%の割合であるから、他州に比して羊肉に適する羊種が多き爲めである。但しメリノ種及びメリノ・カムバック種でも羊肉特に仔羊肉として賞味せらるゝので對英輸出に於いて濠洲は成羊肉よりも寧ろ仔羊肉に重點を置いて居る事が納得出來るし、又その屠殺率は一七%にも達するが、其内仔羊肉としてメリノ種も相當數含まれて居るものと看る事が出來やう。

二、消費狀況

一九三七—八年度の成羊肉及び仔羊肉の生産は七億二千八百七十三萬封度と推算せられてゐるが、其の内國内消費は五億二千三百八十四萬八千封度即七二%、海外輸出二億四百八十八萬二千封度即二八%に相當してゐる。以て羊肉生産も牛肉と同樣濠洲國内需要を基調として居る事が覗はれ、輸出は補助的立場に立つてゐるに過ぎないとも言へるが、市場に安定性に寄與する點に於て重要な意義を持つてゐるのである。

一九三七—八年の濠洲人一人當り獸肉平均年消費量二四四・四九封度の内、羊肉は七六・三一封度で、新西蘭人の羊肉消費量九〇封度に比しては多少劣るけれども英本國人の三〇封度、加奈陀人六・一六封度、北米人六・五封度に較べると、第二位に在る譯で、事實濠洲人は牛肉羊肉を離れては生活が出來ぬ事は濠洲生活を多少でも經驗したる人々の齊しく認める所である。

三、輸出

牛肉の項でも述べた通り肉類の對英輸出は冷凍設備の完成した一八八一年より始つたと云へるのである。而して此の輸出は一九一三年迄長足の發展を遂げ、同年には實に二億五百萬封度の輸出を示すに至つたが、第一次歐洲大戰の影響を受けて阻止せられ、爾來輸出は激減する事となつた。大戰後の羊毛相場の好調も亦羊肉生産及び輸出減を齎した一因であつた事實を記憶すべきであらう。

乍然、一九二三—四年迄は冷凍成羊肉(マトン)の積出を主としてゐたのであるが、同年以降は冷凍仔羊肉(ラム)が俄然成羊肉を凌駕し、爾來仔羊肉の海外輸出は順調なる發展を示してゐる。

一九三三—四年以降の成、仔羊肉別輸出數量及び金額は次の通りである。

冷凍仔羊肉

年次	數量	金額
一九三三—四	一二四、七五五、九三八封度	二、八九三、一三八磅
一九三四—五	一三五、八七九、六五一〃	三、五一五、二三〇〃

一九三五—六	一五一、三七七、八三八〃	四、〇二〇、一六三〃	
一九三六—七	一六二、八八五、八八七〃	四、四六六、八〇一〃	
一九三七—八	一五九、五五六、二二一〃	四、六四五、六二四〃	

冷凍成羊肉

年次	數量	金額
一九三三—四	四六、三五一、三五九封度	六八二、七〇五磅
一九三四—五	六〇、三一四、三五一〃	九六〇、四七九〃
一九三五—六	二六、六二九、五四四〃	四四五、五八九〃
一九三六—七	四五、五七二、三五九〃	七六六、八五一〃
一九三七—八	四二、二四六、二四五〃	六九四、三五七〃

右仔羊肉と成羊肉とを比較すれば仔羊肉は數量金額共逐年增加を示して居るのに反し、成羊肉は大體靜止狀態で發展の跡を認め難く、而も前者は後者に比し一九三七—八年度に於いて數量に於いて三・八倍金額に於いて六・七倍となり、以て濠洲仔羊肉の聲價を窺ひ得る次第である。

尙一九三八—九年度輸出仕向先國別又び輸出州別の統計を參考迄に揭ぐれば第五二三表及び第五二三A・B表の通

第523B表　仔羊肉(ラム)輸出統計 (1938—39年度)

仕向地	數量	金額
英國	155,748,534封度	4,315,513磅
加奈陀	370,670〃	9,496〃
セイロン	255,758〃	8,830〃
香港	138,290〃	4,061〃
印度	24,533〃	893〃
馬來半島	1,000,552〃	30,971〃
マルタ	42,169〃	1,174〃
新西蘭	139,260〃	3,772〃
英領太平洋諸島國及植民地	162,194〃	5,137〃
其他英領諸國	28,239〃	780〃
埃及	182,238〃	5,594〃
比律賓	225,219〃	6,976〃
其他	15,058〃	576〃
合計	158,332,714封度	4,393,773磅

積出州別	數量	金額
ニュー・サウス・ウエールス	34,104,326封度	932,469磅
ヴィクトリヤ	86,736,377〃	2,356,159〃
クィンスランド	1,852,892〃	51,452〃
南オーストラリヤ	22,013,171〃	682,682〃
西オーストラリヤ	11,699,922〃	317,904〃
タスマニア	1,926,026〃	53,107〃

第523A表 成羊肉(マトン)輸出統計 (1938—39年度)

仕向地	數量	金額
英國	25,307,387封度	367,306磅
加奈陀	239,160	2,600
セイロン	220,078	4,419
ジブラルタル	166,267	2,707
香港	369,101	6,445
印度	32,607	635
馬來	576,675	9,667
マルタ島	542,114	8,993
英領太平洋諸邦	145,059	2,970
南阿聯國	43,327	637
其他英領諸國及賓國	17,245	303
埃及	352,925	4,953
比律賓國	26,705	509
米國	73,755	729
其他	43,352	820
合計	28,155,757封度	413,693磅

積出州別	數量	金額
ニュー・サウス・ウエールス	10,879,704封度	172,520磅
ヴィクトリヤ	14,690,484	201,586
クインスランド	2,352,340	36,523
南オーストラリヤ	155,745	2,018
西オーストラリヤ	75,072	1,023
タスマニア	2,412	23

りである。

同表によつて窺はれる點は英本國が濠洲輸出羊肉量の九七%を消化して居る事で本品に於ても如何に濠洲が英本國に依存し居るか思ひ半に過ぎるものがあらう。

四、英本國市場に於ける濠洲羊肉の地位

英本國市場が濠洲羊肉に取りて如何に大切なる前場であるかは前述の通りであるが、次に逆に英本國市場に於いて濠洲産の占める地位を檢討すれば更に興味があらう。

卽ち一九三八年度英本國の羊肉總輸入量三十四萬四千五百噸、此の金額一千九百二十萬四千二百六十英磅で、內仔羊肉は二十六萬四千二百四十一噸、一千六百三十九萬二千九百九十英磅、卽ち數量に於いて七六・七%、金額に於いて八五・四%を占め、成羊肉は八萬二百五十九噸、二百八十一萬一千百七十英磅卽ち數量に於いて二三・三%、金額に於いて一四・六%を占めて居るに過ぎない。以て仔羊肉が如何に重寶せられて居るかゞ如實に解るであらう。而して羊肉に關する限り新西蘭、濠洲の英領系の供給が二十七萬九千二百四十三噸、一千五百七十四萬一千八百二十英磅に對し南米諸國其の他は六萬五千二百五十七噸、三百四十六萬二千三百四十英磅と言ふ統計が錄されてゐる。換言すると、總輸入に對し英領系は數量で八一%、金額で八二%を占め南米諸國を筆頭とする外國系諸國からの輸入を完全に壓倒して居る。此の英領系を供給國別に見れば

新西蘭

仔羊肉	一三三、〇四七噸	
成羊肉	五〇、七四四〃	
濠洲		
仔羊肉	七六、六〇二〃	
成羊肉	一八、三五四〃	
其の他英領		
仔羊肉	三六六〃	
成羊肉	一三〇〃	
	八、七四四、五五五磅	
	一、七七九、三九四〃	
	四、五七二、九一五〃	
	六二二、九三九〃	
	一七、八三一〃	
	四、一九四〃	

となり、羊肉では新西蘭が斷然第一位を占め濠洲は齒が立たぬ。蓋し元來新西蘭は羊肉を重な目的としてゐる牧羊で、例へばダウン種の如き羊肉として最も賞味せらるゝ羊種や、或は英本國羊種を主體とする雜種を羊肉用に特に飼育してゐる關係上ニュー・ジーランド產仔羊肉は世界的に名聲を博してゐるが、濠洲では羊毛、殊にメリノ種の如き細手羊毛を目的として牧羊を發達せしめた歷史的差違の然らしむる所であらう。尤も最近では濠洲でも多少羊肉としての緬羊にも關心を持ち出したけれども、依然新西蘭に一步も二步も讓つて居るのである。然し流石は世界に冠たる牧羊國の名に恥ぢず英國總輸入で濠洲は第二位を占め數量に於いて二七・六%、金額に於いて二七%を示し居るは偉とするに足る。

五、羊肉の等級

前述の通り羊肉の世界市場である倫敦では新西蘭產羊肉が最も名聲を擧げて居るが、濠洲產ではヴィクトリヤ產ニュー・サウス・ウェールス產が通つてゐる。値段も大體此の順序に從つて建てられてゐる。

濠洲政府は屠殺に際し、嚴重なる檢疫を爲したる上、之を脂肪附着の良否、肉の色具合、體の格好の良否等により て次の等級に分つ。

（1） G. A. Q. (Good Average Qnality)

（2） F. A. Q. (Fair Average Quality)

（3） Second F. A. Q.

之を更らに目方、羊種、性別を附記して取引を行ふものである。

目方は一頭分で成羊肉では四八—五六封度、五七—六四封度、四二封度、四三—五〇封度に區別せられるのが普通である。又羊種ではメリノ種と雜種とに分け、更らに性別として去勢牡羊及び種付をした事のない牝羊及び牝羊とに分ける。然し羊肉としては成羊肉で四八—五六封度、仔羊肉で三六封度及び其れ以下といふ所が最も賞味せられるから、自然高價である。

第三節　豚肉

濠洲の養豚事業は牛、羊に比して頗る小規模で世界的に見て問題とする價値は尠い。

今濠洲の養豚業の推移を見るに初めて百萬頭の記錄を示したのは一九一〇年で、爾來多少增加はして居るが、國內消費及び輸出から見て現在は大體飽和狀態に達して居ると思はれる。

最近五ケ年間の頭數は左記の通りである。

一九三三年	一、〇四六、八六七頭
一九三四年	一、一五八、二七四〃
一九三五年	一、二九三、九六四〃
一九三六年	一、二〇二、七五二〃
一九三七年	一、一〇〇、〇八二〃

一九三七年の養豚業を各州別に見るに

ニュー・サウス・ウェールス州	三五六、七六五頭
ヴィクトリヤ州	二八五、二五九〃
クィンスランド州	二八二、九四一〃
南オーストラリヤ州	六六、六四七〃
西オーストラリヤ州	六四、五九八〃
タスマニア州	四三、〇六七〃

第524表　豚肉(ポーク)輸出統計（1938—39年度）

仕向地	數量	金額
英國	30,120,385封度	859,894磅
セイロン	116,907	4,569
印度	16,589	797
馬來	204,279	7,897
英領太平洋諸島	149,982	5,429
其他英領諸國	22,864	740
埃及	70,198	2,221
比律賓	14,479	537
其他	734	31
合計	30,716,417封度	882,115磅

積出州別	數量	金額
ニュー・サウス・ウェールス	1,008,918封度	29,993磅
ヴィクトリヤ	9,530,942	283,685
クィンスランド	17,960,560	499,455
南オーストラリヤ	446,449	16,123
西オーストラリヤ	1,277,865	39,873
タスマニア	471,688	12,986

直轄北部地域　三八八頭

直轄首都地域　四一七〃

となり東部三州で八四%を占めてゐる。

又同年の屠殺頭數は百八十九萬七千四百三十頭之を豚肉やベーコン及びハムの如き加工品として國內消費及び餘力を海外輸出にして消化せられて居り、其の生產額は大體一億五千三百二十萬封度其の內國內消費一億二千七十萬封度即七九%、輸

第525表　ハム及ベーコン輸出統計（1938—39年度）

仕向地	數量	金額
英國	269,608封度	10,888磅
緬甸	9,401	531
セイロン港	20,103	1,107
香港	63,987	4,818
馬來島	305,195	21,680
英領太平洋諸島國	199,253	13,414
其他英領諸國	8,685	601
佛領印度支那	40,034	2,622
蘭印	562,269	44,357
太平洋諸島	10,044	366
比律賓國	232,214	17,743
泰國	13,883	1,003
其他	4,377	364
合計	1,739,053封度	119,994磅

積出州別	數量	金額
ニュー・サウス・ウエールス	261,161封度	17,426磅
ヴィクトリヤ	55,913	3,647
クィンスランド	1,421,161	98,865
南オーストラリヤ	13	2
西オーストラリヤ	913	54

出三千二百五十萬封度卽二一%となる。

一九三七年度輸出の仕向先國別及び輸出州別の統計を示せば第五二四表及び第五二五表の通りである。

同表に依つて輸出に於て英本國が豚肉では九八%を占めるのにハ

ム及びベーコンでは僅かに一五・五%に過ぎず、大部分は舊蘭印、馬來、比律賓を初め其の他東洋諸國が消化してゐる。而して濠洲で最も輸出餘力ある州はクィンスランド州で、全輸出に對し、豚肉で五八・四%、ハム及びベーコンで七九・四%を占めて居る。

第四節　屠殺場

濠洲の牛、羊、豚の屠殺は公立屠殺場（Abattoir）と民間食肉會社（Meat Work）の二組織の下に行はれて居り之を政府の食肉局（Meat Board）が監督統制して居る。

一、公立屠殺場

公立屠殺場は其の所在地にある牛肉會社及び牛肉商が競市で買付けた牛、羊、豚を屠殺場の設備及び其の雇傭する勞働者を使用して屠殺を委託する組織である。屠殺場に附屬の冷藏庫を有して委託者の要求に應じて冷藏保管をも爲し、副産物たる生皮、脂肪、血、骨、蹄、筋等の處理及び加工をする設備をも有し更らに輸出用に使用するストッキネットやヘシャン布、樽等を購入する事務迄を行ふ事もある。

此の屠殺場經營の諸經費は屠殺料として一頭につき幾何の工賃を委託者より徴收するものと、或ひは肉以外の副産物を屠殺場の取得とし其の賣上額を以つて經費に當てるものとの二種がある。

公立屠殺場の主なるものを左記に記述しよう。

ニュー・サウス・ウェールス州立屠殺工場内の冷凍室

（一）ニュー・サウス・ウェールス州

(a) ホームブッシュ屠殺場

シドニー市西北郊バラマッタ街道に沿つて約十二哩のホームブッシュ灣にある。濠洲第一の規模を有しシドニーを中心とする二十哩の範圍内（Metropolitan Area）には民間食肉會社の設立を禁止してゐる。此の屠殺場は濠洲食肉産業の一大殿堂で其の機構を述ぶる事は決して徒爾でないと思ふ。

一九〇〇年頃迄はシドニー一圓の地域（前記二十哩の範圍内）への食肉生産をグレーヴ島にあつた屠殺場で行つて居たが規模小にして供給力が不足となるに至つた爲、新屠殺場設立委員は一九〇二年六月新屠殺場を現在のホームブッシュ灣に設立する事を進言した。一九〇六年十一月、設立案は議會を通過して一九一〇年に起工し、實際に仕事をグレーヴ島より新屠殺場に全部移したのは一九一七年八月であつた。

此の州立屠殺場及フレミントンの家畜競賣場とは五人の委員より成る諸問機關の補佐を受けて Metropolitan Meat Industry Commissioner が主宰するもので專屬家畜置場として一千五百エーカー（百八十萬餘坪）の廣大なる牧場を有してゐる。

牧場、屠殺場、處理場、冷凍室、副産物處理場には蠅一匹も居ない事を自慢する程完備して居る。一日の屠殺

能力は牛二千頭、犢三千頭、羊二萬二千頭、豚三千四百頭で輸出向冷凍肉を冷凍する冷凍設備は十六個ありその能力は合計一日羊一萬二千頭である。冷藏庫は八個ありその合計收容能力は羊二十五萬頭に上る。副産物の處理は屠殺場の重要なる事業の一つで牛脂、乾血、骨粉、肥料、家畜・養鷄飼料、牛脚油、牛羊原皮、膠原料、藥用內臟腺の蒐集處理、牛の胃よりチーズ製造に必要なレンネット及ヂャンケット・エッセンスの製造、骨、蹄、毛の輸出向に適當なる處理等が此處で行はれる。又場内には完備した研究所があつて食肉及び副産物に就いての科學的試驗、檢査、調査が絶えず行はれ斯業の發達を促進してゐる。

屠殺方法は從前は一屠夫が一匹を處理する爲め熟練工たるの技術を要し且能率が上らず屢〻勞働爭議を起した。之を約五年程前に Chain System といふ分業による處理方法に變更したが、之を採用した時は一大爭議が勃發した。此の Chain System とは屠殺脫血の上、鎖に垂下つた牛、羊が一列の勞働者等の前を一頭宛流れる樣に運ばれ、各勞働者は目前に來た瞬間に與へられた極く一部を處理するのである。例へば左後脚先ならば左脚先許りを朝から晩迄切斷するので次の者は左前肢先を專門的に切斷する。鎖によりて廻轉して來る處を背伸合せに立並ぶ勞働者によりて右の前後肢脚を切斷せられる。皮を剝ぐのも同樣、一人が極一部分宛を分擔し斯くして鎖から垂下つた牛、羊は最後にには立派に處理を終るのである。故に熟練工の必要なく未熟練工でも直ちにその分擔部に對しては技術が上達し且全體としては一人當りの作業能率が高まるのである。新西蘭では相當以前より此の方法が採用せられて居つたがホームブッシュでは勞働者の反對强く最近に漸く實現したのである。

(b) ニューカッスル屠殺場

ニューカッスル市の西部ワラターにある。ホームブッシュ屠殺場に比すれば極めて小規模で、一日平均二百人の勞働者を使用して居る。此の地方一帶の牛肉商の委託を受けて屠殺し、一年間の屠殺數は牛四萬頭羊二十萬頭豚三萬頭である。

（二）クィンスランド州

ブリスベン州立屠殺場

一九三一年ブリスベン市郊外ブリスベン河岸に臨むスキフト工場を買收して設立された最も近代的の屠殺場である。現在ブリスベン市所在の牛肉會社はその屠殺處理全部を此の州立屠殺場で行ふ。

（三）ヴィクトリヤ州

メルボルン市立屠殺場

（四）南オーストラリヤ州

アデレードにある州立屠殺場

（五）西オーストラリヤ州

パースにある州立屠殺場

（六）タスマニア州

ホバート及びローンセストンの市立屠殺場

其の他全國に亙り人口二、三萬以上の町には町立の屠殺場があつて民間で勝手に屠殺する事は嚴禁されてゐる。

二、民間食肉會社及び其の資本系統

民間食肉會社は自己の勘定にて羊、牛、豚の屠殺、處理、冷凍及び罐詰作業び其の副産物たる牛脂、骨粉及び乾血肥料等の製造を爲し、又羊皮、牛皮、膠用及び筋肉、腸の如きは夫々整理して專門取扱商に賣渡す。濠洲は北は亞熱帶より南は溫帶に及び場所により屠殺時期に長短ある爲、食肉會社は牧畜の盛んな東部三州の各地に其の工場を分散設立して立牛の買付を爲し、季節的供給の不圓滑を緩和する樣にしてゐる。

主なる會社名、其の工場所在地及び資本系統を示せば

W. Angliss & Co. (Aust.) Pty. Ltd.

本社　Sydney, N. S. W.

工場　Imperial works, Melbourne, Victoria.

Riverstone works, Sydney, N. S. W.

Redbank works, Brisbane, Queensland.

C. Q. M. E. (Central Queensland Meat Export Co.,) Rockhampton, Queensland.

但し右の中 Redbank works は一九三一年 Queensland State Abattoirs に買收された。

アングリス社はロンドンに本據を有するヴィステーの仔會社で資本、規模共に濠洲第一であり、英國向け輸出を

主とする。又新西蘭ウエリントン市にあるフレッチヤー社は新西蘭に於ける仔會社である。ロンドンの本部が冷凍船を有する事に於いて世界第一のブルースター汽船會社に投資してゐる關係上濠洲、新西蘭の兩仔會社の積出に當つて同業他社に比し船腹獲得上極めて優位にある。

濠洲の本部はシドニー、コロニアル砂糖會社のビルディング內にあり、配下全工場の製品の販賣を統轄してゐる。東部三州の要地に完備せる工場を有する點に於ても斯業中の第一位にあり、何時にても大量の輸出商談に應じ得る。ブリスベンのレッドバンク工場は一九三一年クィンスランド州政府に買收された爲現在のアングリス社のブリスベン積肉は全部州立屠殺場にて屠殺、處理されてゐる。

Swift Australia Co., Pty. Ltd.

本社　Brisbane, Queensland

工場　Brisbane, Townsville, Gladstone, Queensland.

スヰフト社は米國スヰフトの濠洲別働隊で前記アングリスに對立して營業してゐる。其の工場所在地よりも推察し得る如く主としてクィンスランド州產肉を取扱つてゐる。

Queenslond Meat Export Co.

本社　Brisbane, Queensland.

工場　Ross River-Works Townsville 近郊

Eagle Farm Works, Brisbane. 但し現在は閉鎖し Brisbane Abattoirs を利用す。

當社はクィンスランド州丈けに地盤を有する會社でタウンスヴィル工場を有するが、氣候暑き爲冬期のみ作業する。此の工場の背後地は優秀なる肉用種の產地で同工場は重目良質の牛肉を出すので有名である。

Thomas Borthwick & Sons (Aust.) Ltd.

本社　Melbourne, Victoria.

工場　Melbourne 及び Brisbane.

當社もロンドンに本據を有する濠洲別働隊である。

其の他の會社としては

Thomas Playfair Ltd.

本社　Sydney, N. S. W.

Sydney 及び Brisbane Abattoirs を利用す

Field Wholesale Meat Co.

本社　Brisbane, Queensland. Brisbane Abattoirs を利用す

Brisbane Wholesale Meat Co.

本社　Brisbane, Queensland. Brisbane Abattoirs を利用す

Sydney Meat Preserving Co. Ltd.

本社　Sydney, N. S. W. Sydney Abattoirs を利用す

冷凍羊肉の包裝

Aberdeen Meat Works, Aberdeen, N. S. W.
Colonial Wholesale Meat Co. Pty. Ltd.
本社　Sydney, N. S. W. Sydney Abattoirs を利用す
James Barns N. S. W. Ltd.
本社　Sydney, N. S. W.
工場　Botany Road, Sydney, N. S. W.
Sims Cooper (Freezing Works) Pty. Ltd.
本社　Melbourne, Victoria.
工場　Williamstown Victoria.
Wyndham Meat Works
本社及び工場　Wyndham, West, Australia.

三、オツタワ協定の濠洲冷凍業に及ぼしたる影響及び第二次歐洲戰爭以降の狀況

一九三二年以降の濠洲冷凍業はオツタワ協定と密接な關係があるので以下簡單に此れに就いて述べる。

一九三二年の七、八月に開催されたる英帝國オツタワ經濟會議は世界的不景氣による農牧品の暴落、英國の農牧業

保護方針と英國自治領たる濠洲、新西蘭、加奈陀及び南阿聯邦並びに經濟的屬國たる南米アルゼンチン、歐洲方面では和蘭、丁抹等より英國市場に輸入さるゝ農牧産物の輸入を如何に調節するかが問題の核心であつた。

第一英國内生産品、第二英帝國屬領生産品、第三外國品の順序として其の對策が討議決定された。卽ち英帝國屬領よりの輸入品は免稅し、外國品には重稅を課し、反對給付として屬領は英國の製品に特別低率の輸入稅を賦課することゝした。

肉類關係に於ては、英國は南米諸國特にアルゼンチンに莫大な投資あり、又アルゼンチンは英國製品の好得意であるから、この方面からの冷藏肉輸入數量を如何に取扱ふかは重大問題で英政府は結局數量制限を提案した。卽ち南米の羊肉、仔羊肉、冷凍牛肉は一九三二年六月三十日に終る一ケ年間の英國への輸出を基準として、一年の輸出量を其の三五%に減ずる。冷藏牛肉は右基準年度の輸出量を以てする。

而して濠洲の一九三三年度の羊、仔羊肉の輸出量は一九三二年六月三十日に終る一ケ年の數量を以てし、一九三四年七月迄はこれ以上の制限を行はない事としたのである。

以上英政府としては自國内の生産原價を賄ひ得る程度に肉の相場を引上げ得ることゝ英國市場に於ける英自治領よりの供給割合を多くし且冷藏肉は濠洲新西蘭よりの輸入量尠きためアルゼンチン産の全量を認めて其の投資家の利益を保護することを加味する一石三鳥の案で、此の協定は五年間有效と協定された。

其の後一九三三年五月一日に至り英國政府は南米に於ける冷藏肉工業の重要性を認めて前記の基準數量輸出差支なしとするも、若しアンゼンチン冷藏肉が將來一〇%以上輸出を制限される場合は英國屬領よりの輸入も亦一〇%丈け

制限することに一九三三年十一月七日より三年有效として協定した。其の後長期協定はなく毎年英濠間に數量協定を結んで來た。

濠洲の冷凍牛羊肉の基準年度たる一九三二年六月末に終る一年間の對英輸出實績は冷凍牛肉約五萬七千二百噸、冷凍成羊肉約二萬三千八百噸、冷凍仔羊肉約四萬六千六百噸合計約十二萬七千六百噸で、この數字は前年度より三千七百噸餘多く、濠洲にとつては有利な數字を以てスタートした譯で、一九三二―三三年度以降は數量に於て漸增、特に冷藏牛肉、豚肉の輸出は逐年其の重要性を增大した。英國との協定割當數量は英國の食糧省と濠洲の食肉局との間で毎年十月頃に決定さるゝものである。今次大戰勃發後一九四〇―四一年度英國の濠洲肉買付は二十四萬九千噸で內譯牛、成羊、仔羊、豚肉二十二萬五千噸、ベーコン用豚肉二萬四千噸である。之は前年度に比して九千噸の增加である。

更に英國に於て近年無骨牛肉、ベーコン用豚肉に對する需要激增した爲、右の數量に無骨牛肉、犢肉七千五百噸及びベーコン用豚肉六千噸を追加すべき事が要求された。

食肉輸送の配船は第二次歐洲戰爭開戰後一ケ年半位は概して計畫通りに實行されたが、獨潛水艦の英國商船擊沈の度加はるにつれて急激に輸送計畫に齟齬を來し、一九四一年四、五月の頃より濠洲政府は各州の牛肉會社及び屠殺場に輸出向仔羊の屠殺を禁止すると共に羊、豚に對しては冷藏設備の許す範圍內にその屠殺を制限した。此れが濠洲經濟界に及ぼした影響は甚大なるものがあつた。他面埃及、近東、馬來方面への出兵による牧場、運輸方面勞働者の減少、ガソリン制限による運搬の困難　一九四一年の旱魃、軍需用罐詰肉の激增等の爲め內地賣肉類の出廻り僅少、從

つて小賣値の高騰を來した。政府は肉類に對して各州最高販賣價格を設定して價格の調整と出廻りの圓滑を期せんとしたが目的を達成し得ず、同年八月頃は業界の混亂を見た狀態であつた。

第五章　酪農業

第一節　酪農業概況

濠洲酪農業はクィンスランド州南部からヴィクトリヤ州及南濠洲の沿岸を含む氣候溫暖人口稠密地域卽ち內國需要を中心に發達して居り特に一八八〇年以降冷藏設備の完成により英本國を中心に次第に諸海外市場を開拓し、玆に本業は躍進的發展を見たのである。

一九三七―三八年度に於ける乳牛頭數は三百三十六萬八千頭、其搾乳量は十一億五千萬ガロン、而して五百二十のバター、チーズ、煉粉乳工場はバター四億三千萬封度、チーズ五千六百萬封度、煉粉乳五千七百萬封度を製造し、濠洲酪農業に關聯する人々は十六萬三千人に上る盛大振を示して居る。

一、乳牛の分布狀態

一九三七年の全濠乳牛頭數は三百三十六萬八千八百九十九頭に上つて居るが、一九一四―一五年の大旱魃當時の百

第526表　畜牛頭數（1937年）

	總畜牛頭數	乳牛頭數
ニュー・サウス・ウェールス州	3,019,581	1,047,332
ヴィクトリヤ州	1,880,429	952,906
クィンスランド州	5,959,165	985,858
南オーストラリヤ州	324,163	164,903
西オーストラリヤ州	740,241	124,278
タスマニア州	254,812	92,493
直轄北部地域	891,640	不詳
直轄首都地域	8,325	1,129
合計	13,078,356	3,368,899

六十八萬四千三百九十三頭に較べて僅々廿三年間に倍加して居る。而してニュー・サウス・ウェールス州、ヴィクトリヤ州の乳牛頭數が全濠の約八九パーセントを占めて居る事は此三州の酪農業が如何に重要なる地位を占めて居るかを雄辯に物語るが、更らにニュー・サウス・ウェールス州、ヴィクトリヤ州、南濠洲及びタスマニア州に於ける畜牛頭數に對する乳牛頭數の比率が非常に高い事は之等四州の酪農業が歷史的には古くから發達した事を示すものである。故に一九一四—一五年以降の濠洲酪農業の躍進は主としてクィンスランド州南部に於ける斯業の發展に負ふ所甚大なりし事が立證せらるるのである。

全濠中特に酪農業地方として名あるのはヴィクトリヤ州のウェスターンディストリクト、ギップスランドの當地方ニュー・サウス・ウェールス州のリズモアー地方及びクィンスランド州のダーリングダウンズ地方である。

第527表　搾乳量（總搾乳量は單位千ガロン，一頭平均搾乳量は單位ガロン）

	N.S.W.	Victoria	Q'land	S.Aust.	W.Aust.	Tas.	Aust. Cap.Ter.	Australia
1935—36年度								
乳牛頭數	1,055,539	925,295	910,760	156,122	123,932	94,286	988	3,266,922
總搾乳量	345,346	399,742	261,266	59,042	38,138	33,737	272	1,137,543
一頭平均搾乳量	327	432	287	378	308	358	275	348
1936—37年度								
乳牛頭數	1,036,131	938,966	899,092	157,485	121,697	95,504	1,022	3,249,897
總搾乳量	317,617	423,305	206,315	63,699	36,771	31,156	365	1,079,228
一頭平均搾乳量	306	451	227	404	302	326	357	332
1937—38年度								
乳牛頭數	1,013,739	926,353	902,866	154,705	118,979	93,075	1,056	3,210,773
總搾乳量	328,008	408,271	274,043	69,067	44,740	32,425	374	1,156,928
一頭平均搾乳量	324	441	304	446	446	348	354	360

牛乳の生産量は乳牛種，地域及び季節により非常の差異ある事は云ふ迄もないが一九一六年以前は一頭平均年間約三〇〇ガロンに滿たない狀態であつた。近年乳牛の體質の向上のみならず不斷の科學的飼育法の適用によつて乳量は

次第に增加し一九三一年には三九二ガロンの記錄を示した。最近三ヶ年の搾乳量は、次表の通りで一九三七—三八年度一頭當り平均三六〇ガロンである。

一九三七—三八年の十一億五千六百九十二萬ガロンに上る搾乳量は大體左記の通り使用消化せられて居る。

	單位千ガロン	百分率
バター製造用	九〇二、五七〇	七八・三%
チーズ〃	五五、七三一	四・七%
煉粉乳〃	三五、九三九	三・〇%
市販用其他	一六二、六八五	一四・〇%
合計	一、一五六、九二五	一〇〇%

右牛乳消費狀態の示す通り濠洲に於ける酪農製品の大宗はバターであり、チーズが之に次ぎ、煉粉乳製造が不振なのは海外市場に於ける和蘭や北米の競爭に因つて輸出が振はない事と國內需要が牛乳に押れて少い爲である。蓋し市販用牛乳一億六千三百萬ガロンは一日一人當り半パイント卽一合二勺を消費するに相當し、煉粉乳は特殊の場合を除き需要は少い事は當然である。

三、酪農製品の生產及消費

上述の通りバターが酪農製品中の王座を占めて居る事は其の莫大なる乳量を處理するには極めて自然でチーズ、煉

濃縮乳及粉乳が之に次ぐ。一九三七—三八年度生產高は

バター	四三〇、二六一、六一〇封度
チーズ	五六、六〇六、八四二〃
煉粉乳	五七、六三四、四二二〃

で價格は總額で約二千九百萬磅に上るが此內バター及びチーズの國內需要と海外輸出とに檢討して見るに

	國內需要	海外輸出
バター	五〇・三六%	四九・六四%
チーズ	四五・〇八〃	五四・九二〃

で、如何に海外市場が重要性を有して居るかゞ伺はれ、且つ一九三七—三八度輸出統計表中バター、チーズは金額に於ても羊毛、金に亞ぎ第三位を占め、小麥、小麥粉が第四位である。他面國內消費量も亦一年間の個人消費量がバターで三三、九三封度、チーズで四、三〇封度に上り甚だ多量なる事も注意に値する所である。

一、製造工場

一九三七—三八年調查によるにバター及びチーズ工場は五二〇、其從業員六、六五五人、而して投資額は五、七五七、三〇三磅である。之を州別に見るに

	工場數	從務員

ニュー・サウス・ウェールス州	一三二	一、四七七
ヴィクトリヤ州	一七二	三、〇一七
クィンスランド州	一〇四	一、一八六
南濠洲	四七	五三四
西濠洲	二一	二〇一
タスマニア州	四四	二四〇

でヴィクトリヤ州が本業で最も發達して居る事は分明である。

製造家の組織は個人會社と組合の二種に分類せられ生産地にある大工場になれば其附近にある數ケ所のクリーム分離所（クリーマリイ）よりクリームを供給せられ特に大なるものは冷藏設備等の施設完備し、保存並に品質の向上平均化をなすと共に原價が低下した、最近農家が自家でクリーム分離を行ひバター工場に搬入する者が著減した事實は前記クリーム分離所の發達が益々旺んになつた爲と考へられる。

主なる製造會社名は次の通りであるが其の工場は主要酪農地方に多い。

Victoria

Holdensou & Nielson Fresh Food Pty., Ltd.

Western District Co-op. Pty. Ltd

Camperdown Cheese & Butter Factory Co. Ltd.

Cobden Co-op. Pioneer Cheese & Butter Factory Co. Ltd.

Colac Co-op. Dairyind Co. Ltd.

Gippsland and Northern Co-op. Pty. Ltd.

Trafalgar Co-op. Butter & Cheese Co. Ltd.

Kraft Walker Cheese Co. Pty. Ltd.

Maffra Co-op. Dairying Co. Ltd. Gippsland.

New South Wales

Norco Co-op. Ltd.

Nestle & Anglo-Swiss Condensed Milk Co. (Australia) Ltd.

Prescott Pty. Ltd.

Producers' Co-op. Distributing Society Ltd.

Maxam Cheese Products Pty. Ltd.

N. S. W. Co-op. Processing Society Ltd.

Tenterfield Cheese Co. Ltd.

Casiono Co-op. Dairy Society Ltd.

Peters Ice Croom Co. Ltd.

Other States

Southern Queensland Dairy Co. Ltd. Kingston

第528表 バター生産量 (1937—38年度)

	封度
ニュー・サウス・ウエールス州	120,882,732
ヴィクトリヤ州	141,321,445
クィンスランド州	118,344,260
南オーストラリヤ州	22,428,298
西オーストラリヤ州	15,373,334
タスマニア州	11,997,323
直轄首都地域	14,218
合計	430,261,610

第529表 バター輸出統計 (1938—39年度)

	封度
英國	217,051,464
緬甸	104,698
セイロン	799,881
香港	819,811
印度	281,336
馬來島	1,712,122
英領太平洋諸國	303,376
其他英領諸國	978,187
小計	222,050,875
支那	381,171
埃及	1,447,884
日本	—
蘭印	4,413,708
比律賓群島	920,821
其他	328,320
合計	229,542,779
積出州別	
ニュー・サウス・ウエールス州	23,966,498
ヴィクトリヤ州	65,462,195
クィンスランド州	127,546,051
南オーストラリヤ州	7,385,564
西オーストラリア州	4,130,679
タスマニア州	1,051,792

Queensland Milk Produces Pty. Ltd.

Austral Milk Produce Co.

Milawa Co-op Dairy Co. Ltd.

Gunbower Co-op Butter Factory & Trading Co. Ltd.

South Australia Farmers Co-op. Ueion.

第二節 バター

バターの一九三七—三八年度に於ける各州別生産業並に一九三八—三九年度の輸出總計は第五二八表、第五二九表の如くである。

生産量は過去半世紀間に於て約十倍以上に達し英領中、第一位、世界各國の第四位に在る。

又、輸出は一九三八—三九年度に於て數量二億二千九百五十四萬封度、金額一千二百八十九萬磅に上りバター輸出額の濠洲全輸出額に對する比率は約九、三%であつて内、英國への輸出の輸出總量に對する比率は約九六%に當る。

更にバター輸出量の全生産量に對する比率は一九三七—三八年度に於て約四六%に相當する。斯くの如くバターは濠洲重要輸出品であると共に濠洲は英國への有力なる供給國であつて一旦其輸出が斷たれた曉は、英、濠兩國に與へる物心兩面の打撃は經濟上、軍事上吾人の想像以上に大なるものがあらう。

バターの全生産は政府の檢査によりこれを次の等級に分ける。

チョイセスト級（カンガルー印を付す）　九三ポイント以上
ファースト級　九〇―九二ポイント
セカンド級　八六―八九〃
ペーストリー級（三等品）　八〇ポイント――八五ポイント迄

生産品は大半がチョイセスト級にて各等級毎に政府發行の等級證明書を付し、海外輸出には品質に關する限りこれを以て最後とする。

包裝は次の通り

バルクバター　一箱正味五六封度入詰め
バットバター　普通一封度紙包、一箱五四個入

罐入バター　正味量六、一二、二四、及六〇オンス入にて普通これを半封度、一、二及び五封度罐入と云ふ。

輸出向は大部分がバルクバター及紙包みバターにて、東洋方面向けには罐入のものがる。

既述の通り政府の品位檢査嚴重なる爲同一等級にては品質に大差はないが、ヴィクトリア州ウェスターン・ディストリクトのコブデン印の如きは含有脂肪分九五ポイントに及び其優秀な事は一般に認められてゐる。

酪農業安定策

バターの市價安定及製造業者の利益保護に歷代政府は非常な苦心を拂つてゐる。

既述の通りバターの輸出量は全生産量の四割六分に相當する故市價の安定は輸出の確保と關聯して始めて有效に行はれ得るのである。この目的達成の爲一九二六年一月より一九三四年五月迄の間「バタアソン案」が實施された、この案は輸出バター一封度に付三片乃至四片半の奬勵金を其時の狀況により支出し得る樣、濠洲にて製造されるバター全部に課稅する事を規定したものである。然してバターの地方價格はその區域内に於ける奬勵金の額に依つて高められ、生産バターに對する生産者への支拂額は奬勵金の率と課稅率との差額の範圍内に於て夫々高められるのである。これは大方所期の目的を達したが其後製造業者の中にこれに反對するもの現れ一九三三年末の聯邦議會を通過した「酪農製品法」がこれに代つた。同法は政府の所謂「强制賣買統制案」であつたが一九三六年製造業者大會にて各州の足並揃はず、最後に同案は聯邦政府に立法の權限なしとの理由にて無效を宣せられた。其後は前記「バタアソン案」に立歸り、これにより第二次歐洲戰爭に至る迄バターの販賣價格は輸出及内地販賣共政府により規定され克く統制されて來た。

第二次歐洲戰爭勃發後は内地賣は公定相場を作り、一九四一年八月頃の相場は次の通りであつた。

チョイセスト級（バルク）一一二封度に付一六一志二片、但し函代二志六片を含む。
ファースト級は約二志六片落、以下大體五志（一一二封度に付）下りである。

尙輸出バター相場は其主要輸出先たるロンドン相場に左右せられたが大戰勃發以來英、濠兩政府間に數量並に價額の契約が行はれ之に依つて仕向地、價段、數量等嚴重に統制されてゐる。

上述の如く、バターは濠洲の輸出品中重要なる地位を占めてゐるが其輸出が殆んど全部英國向であつて今後東亞諸國への輸出に多くを期待し得ない現狀であるが將來斯業を如何に處理し行く可きかは統治上極めて緊要の問題であ

第530表　チーズ生産高（1937—38年度）

	封度
ニユー・サウス・ウエールス州	8,004.873
ヴィクトリヤ州	16,466,038
クインスランド州	11,963,445
南オーストラリヤ州	15,516,879
西オーストラリヤ州	885,418
タスマニア州	3,770,189
全濠洲	56,606.842

る。

第三節　チーズ

チーズの生産は次の如く近年躍進的增産を示して居る。

一九三六—三七年	四四、七二八、八三九封度
一九三七—三八年	五六、六〇六、八四二〃
一九三八—三九年	六五、六四五、九八九〃
一九三九—四〇年	七〇、五六〇、〇〇〇〃

註　農場生産チーズは總生産量の一割內外と推定せられる。

州別生産高は第五三〇表の通りでヴィクトリヤ州が第一位を占めるが近年南オーストラリヤ州が飛躍的增産を示し今やヴィクトリヤ州を凌駕せんとしつゝあり、同州が氣候的にチーズ製造に最適なる條件を有する事は同州に於ける斯業の將來の發展が期待せられる所である。

殊にチーズが其營養價値の高いのと携帶に便利なる爲前戰の食糧として不可缺のもので濠洲は今や軍需用としてのチーズ製造に其全能力を擧げて居る事と思はれる。

從來チーズの製造は每年九月の生産開始期に於てチーズの相場とバター及び其副産物たるカセイン、粉乳（脫脂）

第531表チーズ輸出統計（1938—39年度）

	封度
英國	34,799,081
緬甸	12,468
セイロン	29,071
香港	197,598
印度	127,604
馬來	200,595
其他英領諸國	65,378
以上合計	35,431,795
支那	81,721
日本	420
蘭印	60,921
ニューカレドニヤ	46,919
比律賓	146,992
其他	155,699
合計	35,924,467

及び乳糖等の一連の製品の相場を比較し併せて政府の方針、海外の需要情況等を考慮して其年度のバター、チーズの大體の生産量を決定したものでチーズのみを製造する工場は少い。

一九三八—三九年度に於ける輸出高は約三千五百九十二萬封度、金額百七萬四千磅で其內譯は第五三一表の通りである。

總輸出量の總生産量に對する比率（一九三七—三八年）は約四八%で又英國向け輸出の總輸出量に對する比率（一九三八—三九年）は約九六%である。卽ちチーズの內地消費量は生産の約五割二分、一人當りの年消は約四封度半に當り、又輸出は其殆んど全部が英國及び英領諸國向けである。尙チーズ製造に使用せられたる生乳量とチーズ出來高を見れば濠洲に於てはチーズ一封度に對し一ガロンの原料乳を要する事となつてゐる。

種類　醱酵成熟の遲速、鹽加減等に依り

製品に著しい差違を生ずるものにてチーズは産地に依り製法も異り種類は極めて多いが濠洲にて一般に製造せられるものを列擧すれば次の如くである。

1. チエダー　2. スチルトン　3. エダム　3. ゴ. ウダ

以上の内最も一般的に製造せられるものはチェダー・チーズである。外にクラフト・チーズと稱しチェダー・チーズを加工したものがある。

チーズもバターと同様、政府の檢査に依り規格は一定しており、輸出向はチヨイセス級に限られる。

第四節　カゼイン

主産地にヴィクトリヤ州ウェスターン、ギップスランド兩地方及び南濠洲で從來輸出餘力のあつたのは此兩州産のみである。此外、クィンスランド州ブリスベン市に少量、シドニー近郊に極少量産出があるが共に國内消費に充當せられる。

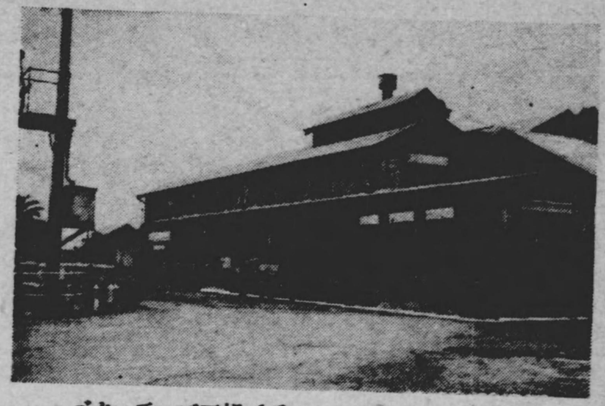
濠洲に於けるカゼインの生産量に就ては權威ある統計がないが從來の輸出數量、内地需要狀況等より推して次の如く見られてゐる。

工場名	ブランド名	年産量	州名
Camperdown Cheese & Butter Factory Co. Ltd.,	"Camperdown"	500 tons	Victoria.

Cobden Co-op. Pioneer Cheese & Butter Factory Co. Ltd.,	"Cobden"	300 tons	〃
Colac Dairy Co.,	"Colac"	300 tons	〃
South Aust. Farmers Co-op. Union	"Farmers"	250 tons	South Aust.
Trafalgar Co-op. Butter & Cheese Co. Ltd.,	"Trafalgar"	50—70 tons	Victoria
Queensland Milk Products Pty. Ltd.,		100 tons	Queensland
Others mostly in Victoria.		300 tons	Victoria
合　計		1,820 tons	

海外よりの需要、雨量、牧草の豐否等により年々多少の增減はあるが年約一五〇〇噸乃至二〇〇〇噸止りである。從來内地消費は生産高の六割、輸出は四割の割合であつたが近來國内にベニヤ板用其他の膠着劑製造工業が勃興し輸出から漸次國内消費に振向けらるゝ傾向が顯著となり、第二次歐洲戰爭の勃發と共に遂に輸出禁止となり全部國内消費に充てらるゝ樣になつた事はアルゼンチン國品（品質劣等なるが生産量年二萬五千瓲乃至三萬瓲に上る）及新西蘭品（品質は世界第一位年産額三千噸）が全部輸出に依存するのと甚だ趣を異にする。

カゼインは生乳より脂肪分たるバターを分離抽出した殘りの脱脂乳に酸を加へ脱脂乳に含まれる蛋白質を凝固させ乾燥後碎き篩に掛けて粒を揃へたものであるが、處理に使用する酸の種類により



バターチーズ工場（ヴイクトリア州コブデン）

濠洲カゼインの種類

（イ）乳酸によるものをラクティック・カゼイン

（ロ）レンネット酸によるものをレンネット・カゼイン

と稱し前者は後者に比べて其需要が廣汎であるから濠洲での生産は殆んど大部分ラクティック・カゼインである。

前記製造會社の中コラック工場はレンネット・カゼインを製する唯一の工場であつて製造時期中、月平均二五噸より三五噸を、年産一五〇噸乃至三〇〇噸を製造する。

尙破碎後篩に掛けて振ひ分けられた粒の大小により、ラクテイック・カゼインは二〇、二四、三〇、四〇、六〇、八〇、九〇及一二〇メッシュに區分されるが三〇、四〇メッシュ物が全量の七—八割を占める。レンネット・カゼインは乾飯狀の塊である。

濠洲カゼインの最近の輸出量は上述の通り國内需要増大と最大需要日本の註文量が種々の原因で著減し非常に貧弱なものとなつた、最近五ケ年の輸出統計は第五三二表の如くである。

包裝はラクテイック・カゼインは二重麻袋入り、レンネット・カゼインで包裝する。普通一袋正味五六封度入りで四〇袋を以て一英噸とする。各製造工場は袋の表面に各々のブランドを押し其製造

第532表　カゼイン輸出統計（單位噸）

	1934—5年	1935—6年	1936—7年	1937—8年
英國	23	4	101	42
獨逸	10	30	270	—
日本	673	804	307	498
其ノ他	6	5	242	98
合計	712	843	920	638

元を明かにしてゐる。

品質

品質はミルクの良否と根本的に關聯するが乾燥破碎の技術により色、光澤に影響する所が多い。本邦需要家に最も好まれたるは「キャンバーダウン」「コラック」「コブデン」「フアーマース」の四種で其中でも前三者は最も馴染の多いブランドである。

參考の爲次に分析試驗の結果を示す。

（イ）ラクテイック・カゼイン（コブデン印）

蛋白質	八六、〇〇%
水分	九、一〇%
脂肪	一、四〇%
灰分	一、三六%
酸度	九、六 C. C. M.
硬着力	一平方糎に付八五瓩程度

（ロ）レンネット・カゼイン

水分	一〇、七五%

灰分	八、三二%
透明度	甲（新西蘭產マオリ印程度）
脂肪	少し
乳糖	細（三〇メッシュ程度）　四%
塵芥	細き芥多し
着色	黃色度相當甚し

乳漿より乳糖を製するが其生產量は明らかでない。本品は醫藥調劑用、特に錠劑には必要不可缺のものである。

第五節　粉末乳・煉乳

濠洲に於ける斯業の勃興は一九〇〇年以後の事で一九一一年には其生產高二三〇〇萬封度に及び大體逐年增加して一九三七―三八年には遂に約七七五〇萬封度と三倍以上に增加した。この發展は全くヴィクトリヤ州に負ふものでニュー・サウス・ウェールス州は僅かに一〇年の歷史を有するに過ぎず、他州は數ふるに足らず、タスマニアは現在も尙生產皆無の狀態である。

（一）粉ミルクを品種的に分類すれば全乳粉と脫脂乳粉の二種で、前者は普通全乳を其儘原料とし脂肪分は二六%であるが三〇%迄製造可能である。榮養價高き爲乳兒用として最も廣く用ひられる。後者はクリームを除去した所謂脫脂乳から製造した粉乳で幼兒用としての榮養價値尠く、料理用、製菓用及アイスクリーム製造用として使用される。

更に製造工程に依つて分類すれば原料牛乳を噴霧狀態にして熱風により微粒末に凝固させたものと、加熱したローラーに掛けて粉末にしたものとがある。前者は製造設備に資金を要しコストは高く付くが冷水に容易に溶解する特長があるが後者は製造方法安易、コストは安いが溫湯でなければ溶解しない缺點がある。

主なる製造工場は

Western District Co-op. Ltd., Victoria

Gibbsland & Northern Co-op. Ltd.,

で其製品「ラクトーゲン」「グラクソォ」の如きは全乳で「ツルーフッド」「マックス」の如きは脫脂粉乳である。

包裝は密閉せる罐入りで入目は普通一、五五六及一一二封度である。

（二）煉乳（コンデンスミルク）

コンデンスミルクは之を加糖及無糖に分つが加糖全乳が最も多い。

其製造は世界的に著名なネッスル會社の仔會社である。Nestle & Anglo Swiss Condensed Milk Co.(Australasia) Ltd., Sydney. が獨占して居る。工場はヴイクトリヤ州及びニュー・サウス・ウェールス州に散在し、其製品は主として輸出向で國內ではピクニックの如き特別の場合の外餘り使用されぬ。蓋しこれは良質、新鮮な牛乳が豐富且つ常時入手出來る爲である。

粉乳及びコンデンスミルクの濠洲生產高及輸出高は次の通りである。

（イ）生産高

一九三七—三八年　七七、五五五、五〇八封度

（ロ）輸出高

一九三七—三八年　二四、七一七、四三五封度

九六三、八七三磅

一九三八—三九年　一九、一〇六、九五三封度

七九一、一〇〇磅

（ハ）輸出（一九三八—三九年）内譯　主なる仕向地

全脂粉乳　三、〇〇〇、五四七封度　英國、印度及支那

ラクトーゲン類　一、六三七、三一一〃　日本、支那、セイロン、印度、ビルマ、馬來、比

脱脂粉乳　五七五、一一七〃　英國及印度

煉乳　一三、三二六、〇〇七〃　馬來、比島、支那

其他　五六七、九七一〃

第六章　皮革工業

濠洲の牛、羊、放牧地帶は亞熱帶より溫帶に亘り比較的溫暖なるため此處に生育する牛、羊より剝がれたる皮は薄手にて品質は北米、新西蘭產等に劣るが、生產高は一年間牛皮約三百八十萬枚、羊皮約一千九百三十萬枚に及び、前者は早くより勃興したる國內製革、製靴工業に原料を供給すると共に其の輸出金額も三百七十餘萬磅に達し羊毛、小麥、バター、肉類等に次ぐ重要輸出品である。而して國內皮革工業に使用せられる原皮は屠殺數に對し、牛皮六〇%、犢皮二五%、羊皮一〇%見當と推定せられる。

本邦にとつても濠洲は原皮供給源としては永き歷史を有するが將來東亞共榮圈內に於ける皮革資源殊に牛皮が濠洲新西蘭を除けば稍々自足困難の狀態にある時、原皮供給源としての濠洲は更に愈々其重要性を加へるものであらう。

第一節　原皮

一、牛皮

（一）生產

（1）數量

食肉生產の副產物たる關係上原皮の生產は大體屠殺數に比例する譯であるが一九三三—一九三七年に於ける犢を含めた屠殺數は次の通りである。

生牛頭數は一九三六年統計によればクィンスランド州が第一位であつて、約五百九十五萬頭、次いで、ニュー

第533表 牛屠殺數

	NS.W	VICT	Q'LADN	S,,Aust	W.Aust	TASM	N.T	Cap.T	合計
1933	769,776	471,395	719,277	104,488	99,217	34,558	4,363	1,616	2,205,190
4	974,749	593,248	851,393	140,170	110,124	37,581	4,358	1,791	2,713,414
5	1,100,472	774,395	866,410	153,686	120,123	39,588	1,531	1,620	3,057,825
6	1,186,476	904,889	1,040,980	166,468	124,214	46,718	4,814	2,339	3,476,898
7	1,223,320	971,338	1,266,412	167,451	145,395	48,451	2,456	2,693	3,827,496
合計	5,254,793	3,715,765	4,744,472	732,263	599,153	206,896	17,522	10,059	15,280,823
平均	1,050,959	743,153	948,894	146,453	119,811	41,379	3,504	2,012	3,056,165

サウス・ウェールス州三百二十八萬八千頭、ヴィクトリヤ州二百萬四千頭の順序で前記三州で全濠千三百四十九萬千頭の約七六%を占めてゐるが、前掲の屠殺數より見た時五ヶ年平均全濠約三百五萬六千頭の內ニュー・サウス・ウェールス州は約三十四%、クィンスランド州は三一%、次いでヴィクトリヤ州は約二四%で、東部三州にて合計八九%に上る。此屠殺の際に生ずる牛皮犢皮の市場の出廻り數量は信賴出來る統計が無いため玆に明示出來ないが、東部三州は屠殺設備の完備及市場の近接等の事情から壓倒的重要性を占めて居ることは容易に感知せらるゝ所である。

(2) 生産場所

生皮は冷凍肉會社、公立屠殺場等に於て産出を見るが前者は生皮を自家工場に於て處理、鹽漬をなし、內地製革業者又は輸出商に賣渡すものと、生皮の儘にて競市を通じて賣却するものとあり、後者は生牛の屠殺を依賴せる牛肉商の勘定にて競市を通じて賣却せられる。

他方皮革專門業者は冷凍肉會社、競市、或は田舍の屠殺場等より買付けたる生皮を自家工場にて洗滌、品種及等級別に處理、鹽漬、乾燥を行ふ。是等專門商よりは品質の揃つたものを大量集める事が出來る點に特徴を有し、

從而牛皮業界に於ける地位も强固なるものである。

(二) **品質上に於ける特徴**

(1) 薄手なる事

比較的溫暖の地に生育する牛より取る關係上一般に薄手である。卽ち製革上最も歡迎せらるゝ拔牡牛皮の重目のもので約五十五封度乃至六十封度ものが多く七十封度以上の如きものは其數甚だ尠ない。

(2) ショート・トリム仕立(頭及四肢の部分を取除きたるもの)なる事、北米産生牛皮は所謂ロング・トリム(頭四肢の皮付き)とショト・トリムと二樣の仕立あるに對し濠洲品の仕立はショト・トリムにて濠洲品の輕目なる理由の一因ともなつて居る。

(3) 鹽乾皮の多き事

牛皮の薄手なることゝ晴天の日多く且つ空氣が乾燥してゐるため天日乾燥が容易にて、此爲め地方産のものは乾皮として都市に搬出せられたことが今日鹽乾皮取扱ひが割合に多き所以である。

尤もシドニーを始め生皮の多量に集荷される處にては近年熱風乾燥法も盛んに行はれ天日乾燥の缺點たる乾燥の不均等、雨天による乾燥の阻害等を補つてゐる。

(4) ダニ害ある事

クィンスランド州及西オーストラリヤ州北部産には夏冬を問はずダニ害がある。之は疵跡が癒へない爲縲した時ニキビの跡の樣な斑紋が現はれて商品價値が低下するので嫌はれる。ダニ害は防虫劑やダニの發生するブッ

シュを焼き拂ふことにより驅除し得るもので、ニュー・サウス・ウェールス、ヴィクトリヤ兩州は法律を以て豫防を強制して居るが、クィンスランド州は地域廣く且つ氣候が暑い上に此の法律がない爲にダニ害が多く從來同州産の牛皮が日本向として嫌はれた所以である。

(5) ブランド跡のある事

牛の體に目印のため直徑五、六寸にて普通臀部に燒印を押してあるが皮に其の跡が殘る。

(三) 種類並に等級

濠洲に於ける牛皮の種類並びに等級は生産せられる州又は取扱人により多少異なるが標準的なものを擧げると次の様なものがある。

(1) 種類

(イ) 性別、年齢により

1、オックス・ハイド (Ox Hide)

米國産のスティア (steer) に相當し畢拔の牧牛の皮にて滿二十四ケ月以上のものを云ふ。一枚の目方は大體四五封度以上七〇封度で平均五五—六〇封度は重目物である。

柔軟にて用途廣く腹部の皮は牝牛 (Cow) 程薄くない。

2、ブル・ハイド (Bull Hide)

睾付の牡牛の皮にて頭、首、腹の部分が厚い。目方は平均七十封度程度である。

3、カウ・ハイド (Cow Hide)

牝牛の皮にて一體に薄手であるが腹部が特に薄い。目方は二〇—四〇封度である。

4、イヤリング・スキン (Yearling skin)

牡牝を問はず滿十二ケ月以上二十四ケ月未滿の皮にて米國キップス (Kips) に相當する。目方は二十五封度以下十五封度位のものが多い。

5、カーフ・スキン (Calf skin)

生後十二ケ月迄の牡又は牝犢の皮にて目方は三—八封度が普通であるが時には十封度以上のものを含む。

(ロ) 處理の方法により

鹽漬生皮 (wet salted Hides) を鹽漬乾皮 (Dry salted Hides) とに分類する。

目方に於て兩者の差は二五%乃至三〇%と稱せられ生皮の狀態に於て五十封度の皮は乾燥して三十五—三十七封度半に留る譯である。乾皮の製法は天日、炭火及び熱風乾燥等あるが熱風法は乾燥が早く且つ平均に行はれるために雨天多き時季又は大量を短期に製造する場合に最適である。

乾皮を輸出する時熱帶を航海後に船艙内の汗で鹽分が溶解して牛皮の中の脂肪分に作用し皮を柔軟にして組織を痛める事が時々あり注意を要する。

(2) 等級

(イ) 皮の剝がれた場所の設備或は技術の如何に依り品質に差異を生ずるので屠殺の場所に依り左の通り區

別せられる。

1、ミートウヮークス級（meatworks quality）

牛肉會社にて屠殺せられた牛より剝がれたもので設備の完備した工場内にて熟練工に依つて處理せられるので皮に損傷少なく最上級品と見做されてゐる。

2、アバアトアー級（abattoirs quality）

公立屠殺場にて剝がれたるものにて「ミートウヮークス級」に次ぐ等級とされてゐる。元來公立屠殺場は設備は完備して居るが請負制度に依つて運用せられて居るので仕事は無責任となり勝であるために剝がれた皮は牛肉會社ものに比して劣るとされてゐる。

3、カントリー級（country Hide）

地方の不完全なる設備の下にて生産せられ損傷多く處理も悪く品質は劣り且つ不統一なるを免れぬ。

（ロ）シドニー、メルボルン、ブリスベン等大都市の牛皮商は牛肉會社、屠殺場、地方の牛肉商等より生皮を仕入れ、自家處理を行ふ事は前述したが是等專業者は普通次の如き分類を行ふ。

1、ミートワークス級（meatworks quality）

牛肉會社にて産出したる皮を主としたる最上級品にて切傷なく皮の緣より五、六寸以内に穴が無く毛は引張つても拔けぬ皮質上等なるものを云ふ。

2、アバアトアー級（abhttoirs quality）

公立屠殺場にて産出したる皮を主としたるものにて、「ミートワークス級」に次ぐ、尤も公立屠殺場の皮にても非常に優秀なるものは「ミートワークス級」に混入せられる事がある。

3、第一級（First quality）

處理は良好であるが切傷が多少あり且つ肉面の色の稍悪いもの。

4、第二級（Second quality）

傷及班點があり、肉面の色の悪いものにて輸出向、內地向共に最下級品として取扱はれる。

5、第三級（Third quality）

損傷の甚だしい不合格品にて特殊の場合の外取引の對象とならない。

上記の種類、等級の外に必ず州名を附することは濠洲各州の地域的狀況により夫々長短の特質がある爲めであつて概括的に述ぶれば次の通りである。

（イ）ニュー・サウス・ウェルス州は品質最も良好で等級も正確である。

（ロ）ヴィクトリヤ州、南オーストラリヤ州及び西オーストラリヤ州の內ダニ害のない地域の牛皮は坪數が稍小で毛脚長く、肉面に脂肪分の附着が多い點がニュー・サウス・ウェールス州に比して劣る。

（ハ）クィンスランド州及び西オーストラリヤ州のダニ害の多い地域產のものはダニ害のある牛皮の混入を免れないが坪數は多く撰別を嚴重にすれば良品を得られるので、シドニー、メルボルンで嚴重に撰別して再輸出せられて居る。

第534表 牛皮輸出統計

	1933—1934	1934—1935	1935—1936	1936—1937	1937—1938
枚數	482,339	690,578	807,604	1,034,937	1,063,896
金額(£)	369,927	417,071	613,717	940,024	1,092,048

(四) 包裝

乾皮は銀面を內側にして疊み適當數をプレスして梱造りをなすを普通とするが一枚宛四邊より折疊んだ儘で輸出する方法もある。

鹽漬生皮は銀面を外に出る樣にして疊み二、三枚分を麻袋で包むのが普通行はれて居るが荷役中手鉤で皮の銀面に傷がつかぬ樣注意する必要がある。

(五) 輸出入

一九三三—三四年乃至一九三七—三八年の五ヶ年の牛皮の輸出統計は第五三四表の通りで逐年增加を示しつゝあることが注目せらる。

一九三七—三八年度に於て仕向先は英國約五〇%、日本約三〇%にて其の大部分を占め、他は獨逸三%、フィンランド六%、加奈陀一・五%等であり、日本は英國に次ぐ主要市場となつたことは注目せらる所である。

尙本表以外に一九三三—三四年より一九三七—三八年度間五ヶ年に二百八十八萬枚、七十一萬一千磅に上る犢皮の輸出があり內五〇%が米國向である。

次に之を輸出州別に檢討すれば一九三七—八年度に於いてニュー・サウス・ウェールス州五一・五%クィンスランド州二三・五%ヴィクトリヤ州一六・五%其他南オーストラリヤ州西オーストラリヤ州其他八・五%となり、ニュー・サウス・ウェールス州積出が斷然他を壓して居

第535表 牛犢皮對日輸出統計

		1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
犢皮	枚數	4,980	9,509	13,925	10,550	15,700
	金額(£)	1,737	3,967	4,993	5,092	7,904
牛皮	枚數	63,578	212,089	170,848	119,168	258,407
	金額(£)	44,353	107,983	129,823	136,397	302,227

ることは同州の屠殺數が他州より上位にあるのみならず皮の品質の優れて居る證左と云へる。クィンスランド州が第二位を占め居ることは同州が其牛皮をシドニー、メルボルンに移出し居る事實を考慮に入れるならば其將來性を暗示するものと云ふべきである。

尙同期間の日本向け輸出數量は上揭表の通りである。

濠洲は上述の通り牛皮の輸出國であるが他面新西蘭產牛皮犢皮を主とし其他太平洋諸島佛蘭西及伊太利からも少量を輸入して居る。特に佛、伊兩國產は特殊なる非常に厚い牛皮である。

犢皮の輸出統計を參考に揭げると第五三六表の通りである。

最近の濠洲五ヶ年間の輸入數量を見れば次の通りである。

(六) 最近事情

今次大戰勃發と共に政府は皮革の軍需品としての重要性に鑑み、國內皮革工業原料確保のため大戰勃發直後濠洲及革產業局(Australian Hide & Leather Board)が設立せられ一九四一年四月には對日輸出許可制が實施せられた。

(一) 濠洲皮革產業局

同局に於て行ふ主なる事業は價格の統制と輸出許可制の二つである。前者は一九三

第536表 牛皮輸入統計

	1933—1934	1934—1935	1935—1936	1936—1937	1937—1938
枚數	64,447	90,703	64,902	47,705	69,955
金額(£)	288,125	336,872	301,217	248,848	363,573

第537表 鞣皮輸出統計

	1936—37			1937—38		
犢皮(Calf)	1,270,983	Sq. ft.	£ 79,467	1,083,310	Sq. ft.	£ 66,815
甲皮						
艶塗	210,445	〃	9,663	388,912	〃	16,996
其他	7,757,643	〃	304,833	3,415,852	〃	143,964
羊皮						
Basils	177,899	doz.	143,224	178,984	doz.	154,992
其他	592,954	sq. ft.	10,810	564,186	Sq. ft.	6,521
靴底						
Backs(最厚強ノモノ)	106	cwt	823	289	cwt	1,060
Bellies(腹部ノ皮)	21,483	〃	67,491	18,637	〃	70,122
Bendo(彎曲セルモノ)	6,536	〃	51,534	5,301	〃	45,283
Shoulders(肩)	15,812	〃	78,755	12,416	〃	73,067
Sides(鞣皮)	322	〃	1,509	199	〃	1,933
裂皮						
粗鞣	6,799	〃	24,844	4,921	〃	19,658
整理	1,636,847	sq. ft.	40,333	1,144,660	sq. ft.	33,800
家具用	71,395	sq. ft.	3,176	24,391	sq. ft.	1,495
犢皮(Yearing)						
スキン	4,337	〃	191	8,972	〃	576
sides(鞣皮)	790,001	〃	43,909	478,087	〃	25,478
其他 Leather						

馬具	726,466 sq. ft.	£ 31,242	788 cwt. £ 6,036
袋、ベルト、其他			103,933 sq. ft. £ 4,163
キツド、モロツコ(爬蟲類)			41,767 2,735
キツブ、ブラツク、ブラウン			51 cwt. 773
其他			817,022 sq. ft. 27,393
皮肩			939 cwt. 1,701
		£ 891,811	£ 705,061

九年八月末の價格を基準として聯邦物價委員の査定に依り其れより二割乃至三割高を以て公定價格としてゐる。後者に就ては後述する對日輸出許可制の如き嚴格なる規定ではなく、同局の許可なくして輸出出來ぬこととした。卽ち先づ國內の皮革工業者は軍需用所要原皮を公定價格によつて優先的に取得し、其の殘りを輸出商並に鞣業者に競賣させる事とし、更に皮革製品の海外輸出は禁じられた。尙其統制品目は毛皮類（羊皮を含む）を除く皮革一切である。

（一）對日輸出許可制

本法の目的は軍需資材としての皮革の供給を確保すると共に之が敵國たる獨、伊への流出を防止するにあつて、統制地域は日本、滿洲及び上海以北の支那とし各輸出業者は一九三九年六月末より遡り五ヶ年間の實績數量の平均一ヶ年數量內で輸出申請をなして許可取得後輸出が出來ることになつた。本統制の結果對日輸出可能數は大體年十四、五萬枚に制限せられたのである。

二、羊皮

（一）生産

（1）數量

第538表　羊　屠　殺　數

	N.S.W.	Viet.	Q'land	S. Aust	W.Aust	Tas.	N.T.	A.C.T.	合　計
1933	7,180,612	7,773,289	1,299,285	1,495,127	1,092,222	366,156	900	25,367	19,232,958
1934	6,829,477	7,646,070	1,275,736	1,591,054	1,079,516	349,064	—	22,207	18,793,304
1935	6,054,749	7,691,488	972,458	1,642,550	1,160,663	351,684	—	21,948	17,895,540
1936	6,428,027	7,914,433	1,024,519	1,697,498	1,106,107	341,586	—	24,230	18,536,400
1937	6,875,496	8,128,544	1,120,729	1,588,507	1,227,843	372,547	—	25,375	19,339,041
合　計	33,368,361	39,153,824	5,692,927	8,014,736	5,666,351	1,781,037	900	119,127	93,797,243
平均一ケ年	6,673,672	6,830,765	1,138,586	1,602,947	1,133,270	356,207	180	23,826	18,759,449

生羊屠殺は第五三八表の如くヴィクトリヤ、ニュー・サウス・ウェールス兩州が最も旺んで濠洲屠殺數に對し前者三六%の後者三五%を占め殘り二九%の內クィンスランド州六%西オーストラリヤ州六%南オーストラリヤ州八・五%を占めて居る。

(2)　生產場所

大部分は公立屠殺場、製肉會社等に於て產出を見るが屠殺が容易なる爲廣く飼育者自家用の食用としての屠殺多く此の方面よりの產出も尠くない。大屠殺場よりの生皮は其の儘自己の工場にて脫毛、洗毛處理されるものと、半乾燥の儘競市に出品されるものとあり、又上述の地方農家より出廻るものは大部分は天日乾燥で都市の競市に出品される。

(3)　特徵

メリノ種は毛の價値が高いに反し皮としては Rib（ヒダ）が多くて價値が低く反對に雜種の皮にはヒダが少なく價値が高いので有るが濠洲はメリノ種を主とし、所謂毛用羊種が多いので脫毛羊皮（Pelt）としてよりも毛皮（Sheep skin）の方が有名である。更に羊皮品種に依る撰別が嚴格にて信賴に足る事は羊毛取引に於けると同樣である。

(4)　種類及び等級

皮の厚薄、瑕症、切傷等に據つて區別せられることは牛皮と同樣であるが更に羊毛が重要なる要素となつて居る。羊皮は屠殺の時期が前回剪毛後時日が經つて毛の發育したもの程價値が高く、卽ち羊毛としての價値は勿論ベルトに於ても剪毛直後は脂肪が廻つて薄手であるが時日が經つにつれて脂肪が少くなり、自然ベルトは厚目となつて其の價値を高めるものである。

今、毛付羊皮と脫毛羊皮とに就き詳述する。

(A)　毛付羊皮

羊の種別、毛の長さ、番手、植物性夾雜物の附着程度、皮質、損傷の程度等により撰別され撰別の程度呼稱等に就ては各業者に依り多少の差異はあるが、大略左の通り分類されてゐる。

(イ)　毛の番手　附着せる毛の番手を鑑定して呼稱を付す

(ロ)　主として毛の質及び狀態

1、スーパー (Super)
2、グッド (Good)
3、オーディナリー (Ordinary)
4、バアーリー (Burry)
5、ベエリー・バアーリー (Very Burry)

（ハ）毛の長さ

1、フル・ウール (full wool) 前回剪毛後八、九ケ月以上のもの
2、3/4ウール　五、六ケ月より七、八ケ月のもの
3、1/2〃　二、三ケ月より四、五ケ月のもの
4、1/4〃　二、三ケ月以内のもの

（ニ）ラム（仔羊）羊皮　普通下記の通り分類される

番	毛の長さ
イ、メリノ・ラム	六〇番手以上	二吋以下のもの
ロ、ファイン・クロス・ブレッド・ラム	五〇―五八番手	二吋以上のもの　同　右
ハ、メデイアム・クロスブレッド・ラム	四六―五〇番手	同　右　同　右
ニ、コース・クロスブレッド・ラム	四六番手以下	同　右　同　右

（B）脱毛羊皮

生皮は其儘、乾皮は一定時間水浸しの上生皮狀態に還元し次の如き方法にて脱毛處理する。

（一）藥液　塗布法

硫化曹達及び石灰の液を用ひ、この方法は毛よりもペルトに重きを置くもの、即ち主としに雜種羊皮に用ひられる。

（二）スエット法

溫室に數日間吊ろし毛根を腐敗さす法で皮よりも毛に重きを置くもの即ち主としてメリノに用ひられる。採れた羊毛は洗滌して scoured skin wool（洗滌せず其儘乾燥したるものを grease wool と云ふ）となり皮は鹽水に浸して所謂 Pickled pelt となる。

ペルトは普通羊皮と仔羊皮とに分たれ、更に皮の大きさ、厚さ、生目の良否、目方等によつて各業者に依り適當に分類せられるが特に生目の悪い所謂リブの多いものを除けば、目方と大きさが重點であつて其一例を擧げれば次の通りである。坪數及び目方は十二枚分で算出せられる。

成羊皮

等級	坪數	目方
エキストラ・スーパー・ヘビー	平方呎	封度
スーパー・ヘビー	二〇―二五	五〇―五五
	九五―一〇	四二―四五

仔羊皮

	坪數（ファースト）	坪數（セコンド）	坪數（サード）	坪數（フォース）
クロスブレッド	九六	八四	七二	

ミディアム・ヘビー	九〇—一〇〇	三五—四〇
スーパー・ライト	八五—九〇	三〇—三五
ファースト・ライト	七五—八〇	二六—三〇
セコンド・ライト	七〇—七五	二三—二六

(5) 包裝

毛付羊皮ハ普通六二〇封度乃至六四〇封度をベールに詰め、一俵の入數は大體次の標準となつてゐる。

成羊皮			
毛の長さ	二吋—三吋	五五— 六五枚	カムバック 六六 六四
	一吋半—二吋	八五— 九五枚	メリノ 六四 六四 六〇 六〇
	一吋—一吋半	一〇〇—一一五枚	
	一吋以下	一三〇—一四〇枚	
仔羊皮			
毛の長さ	二吋以上	一一〇—一一五枚	
	二吋以下	一三〇—一四〇枚	

脫毛羊皮（ベルト）は約九百封度の樽入を普通とし一樽の入數は次の通りである。

成羊皮	重目物	約一八〇—二二〇枚
	輕目物	約三〇〇—三五〇枚
仔羊皮		約四〇〇—五〇〇枚

(二) 輸出

ベルト（Pelt）としての輸出は尠く、主として毛付の儘乾燥して輸出され重要輸出品の一である。一九三七—三八年度の輸出毛付羊皮千二百七十一萬餘枚に對し脫毛羊皮九十一萬六千枚であるが濠洲にては專門の Fellmongery（脫毛洗毛業）が盛んでなく、脫毛處理した製品を買ふよりも毛付きの儘で買ふ方が有利で有る爲めで此の點は新西蘭と稍其趣を異にして居る。

例年佛蘭西向が斷然多く一九三七—三八年度に於ては六四%を占め、次いで英國二〇%、米國六%である。

脫毛羊皮の輸出は第五四〇表の通りで米國

第539表　毛付羊皮輸出統計

		1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
數（枚數）		11,478,513	10,765,364	11,811,480	12,130,265	12,713,364
價格		£ 2,627,389	£ 1,772,595	£ 2,805,083	£ 3,630,659	£ 3,381,480

第540表　脫毛羊皮輸出統計

	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
枚數	177,814	247,050	255,636	1,543,713	916,157
價格	£ 13,384	£ 11,768	£ 19,370	£ 169,250	£ 79,461

第541表　羊皮對日輸出統計

		1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
毛付羊皮	枚數	4,002	635	—	13,334	4,131
	金額	876	74	—	5,471	2,429
脫毛羊皮	枚數	13,608	—	—	30,000	631
	金額	905	—	—	1,360	44

第542表　馬皮對日輸出統計

		1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
馬皮	枚數	4,700	6,571	6,176	1,952	5,875
	金額	£ 2,202	3,255	3,595	1,218	4,734

第543表　毛皮輸出統計

	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
Rabbit & Hare	£ 1,953,901	£ 376,221	£ 1,744,834	£ 1,649,412	£ 1,052,709
Oposseum	7,832	134,044	18,938	375,152	78,961
Kangaroo	175,597	159,571	229,469	125,033	182,490
Fox	168,034	50,232	61,943	80,390	68,684
Wallaby	30,325	12,051	12,803	25,789	27,635
Others	6,779	4,583	5,966	15,458	31,559
合計	1,342,468	1,236,702	2,073,953	2,271,234	1,442,038

向が第一位にて、一九三七—三八年後に於ては約五〇%を占めてゐる。

對日輸出數量は牛皮に比し遙に少なく其數字は第五四一表の通りである。

三、其　他

濠洲には牛皮、羊皮以外に馬皮、兎毛皮、狐毛皮、カンガルー皮等の産出があるので、玆に簡單に附記する。

(一)　馬皮

産出量は詳かでないが輸出高は一九三七—三八年度に於て八、四二五枚、金額六千六百磅と云ふ僅少なる數字であるが古くより其大部分は日本向である。

(二)　毛皮　其他の毛皮の輸出統計を示せば第五四三表の通りである。

米國及び英國が主なる仕向先にて、其他向は極めて僅少である。對日輸出の記錄がある。

(三)　最近事情

大戰勃發と共に羊皮は逸速く政府の管理下に置き、中央羊毛委員會をして生皮、全部を强制的に買上げしめる事となり。買上は所定の格付評價法に基く事は羊毛の場合と同樣である。

既述の如く羊皮殊に毛付羊皮の濠洲に於ける用途は極限せられ加へて從來主要仕向地であつた歐洲市場、特に佛蘭西を喪失した事は大量に上る生産品の處分を極めて困難とならしめた事が想像せられる。

政府は羊肉輸出の問題と關聯して一九四〇年四月一日遂に輸出用羊肉の三ヶ月に亙る屠殺禁止の强制手段を取つたが、尙國內消費用として年約千三百萬頭の屠殺を必要とし、從つて其れ丈けは好むと好まざるとに拘らず産出せられると云ふ狀態に置かれてゐる。

消化の一策として防寒服として英國に輸出すべく國內各所に專門の仕立工場を設立する等種々對策が考究せられてゐたが其の効果は疑問であらう。

第二節　製革業

製革業が比較的簡單なる工業である事と原料の豐富なる事が一因となり濠洲に於ても早くより勃興した工業の一つで牛、犢皮の如き生産原皮の約三分の二は國內にて製革せられ、其製品は英本國を始め香港、蘭印等に相當の輸出を

鞣皮場

鞣皮工場

主としてニュー・サウス・ウェールス及びヴィクトリヤ兩州にあり、主なる工場を擧げれば

Birdsall Bros., Sydney

Farleigh Nettheim pty. Ltd. Sydney

Michaelis Hallenstein & Co. Pty. Ltd. Melbourne

G, Mitchell, Melbourne

R,S, Crooks Pty. Ltd. Melbourne

R,B, Stevens, Melbourne

Henry & Zwar Pty. Ltd. Preston. Melbourne

見、最近に於ては軍靴其他軍需皮革製品が印度、加奈陀其他各地の英國軍に供給されて居る狀態である。

製革業は原皮の豐富なることにより將來勢力の獲得と設備の完成を見るに至れば極めて發展性あるものと思はれる。

整理工場を含め工場數一三一、從業員約四、四〇〇に及び詳細は第五四四表の通である。

第544表 製革業統計

	N.S.W.	Vict.	Q'land.	S.aust.	WAust.	Tasm.	合計
工場數	61	40	14	8	7	1	131
從業員數	£ 1,587	2,316	330	73	88	6	4,400
投資額	£ 506,442	461,589	66,663	未	64,836	未	1,366,176
所要勞銀	£ 336,196	481,272	65,182		17,583		911,835
燃料所要量	£ 29,869	51,857	5,612		1,584		89,699
原料費	£ 1,447,800	1,654,513	278,468		86,172		3,503,252
生産額	£ 2,055,427	2,436,346	371,421	詳	127,720	詳	5,064,188

第545表 皮革同製品生産高 (1937—38)

製品 (單位1.000磅)	N.S.W	Vict.	Q'land	S.aust.	W.Aust.	Tasm.	合計
靴底	10,267	13,301	2,734	未詳	1,395	—	27,573
馬具	809	332	419	71	81	—	1,713
室內裝飾品	未詳	6,376	—	未詳	—	—	8,932
加工鞣革 (單位 1.000Sq. feet)							
艶塗皮	971	2,551	—	—	—	—	3,522
其他	5,478	10,835	1,870	338	130	—	18,649
目方噸 (單位1.000磅)							
艶出薄皮	未詳	15	36	未詳	26	—	182
其他	〃	148	94	134	15	—	525
加工鞣薄革 (單位 1.000Sq. feet)							
犢	4,658	3,071	1,496	7	3	—	9,235
山羊	3,612	1,722	42	5	2	—	5,374
羊	7,943	未詳	未詳	—	—	—	10,612
カンガルー	未詳	129	265	未詳	12	—	424

(註) カンガルー皮は日本では贅澤な高級品として取扱はれて居るが其の柔軟性と表皮の强靱は牛皮に數等優り主として北米に輸出せられ野球、フツトボール等の競技用靴に使用せられて居る。

第546表　生皮及單寧劑使用高（1937—38）

	N.S.W	Viet	Q'land	S. Aust	W.Aust	Tasm	合計
皮革							
牛革	枚 609,415	枚 900,049	枚 142,625	(イ)	枚 51,056	(イ)	枚 (ロ)1,731,446
犢皮	514,977	430,347	150,365	1,232	494	—	1,097,415
山羊皮	753,874	419,589	7,862	673	442	—	1,182,440
羊皮	1,316,609	110,586	—	—	940	—	1,428,135
カンガルー皮	(イ)	30,856	58,644	(イ)	2,334	—	(ロ) 102,685
爬虫類	(イ)	(イ)	(イ)	—	—	—	(ロ) 4'494
其他	2,471,176	(イ)	(イ)	—	157	—	(ロ)3,189,733
單寧劑							
ワットル皮	屯 8,439	屯 7,989	屯 1,752	(イ)	293	(イ)	(ロ) 18,789
其他皮	348	2,220	—	1	474	—	3,043
抽出物（單寧エキス）	非 5,297,600	非 2,125,455	非 1,166,643	(イ)	非 769,922	(イ)	非 (ロ)9,379,906

（イ）——發表なし　（ロ）——（イ）を含む

是等の內特に大規模のものはメルボルンに於てはMichaelis Hallenstein シドニーに於ては Birdsall Bros. で殊に後者は一八八三年 G. Birdsall の創立にかかり現在工場の敷地約三エーカー、從業員百餘名を有し主として、靴、手提鞄、表裝用等の薄皮を製造し、年產羊皮七十五萬枚、犢皮八萬枚、仔羊皮五萬枚と稱せられる。

製革工業に必要なるものは原料生皮と單寧劑であるが生皮の產出の多い濠洲は國內製革業の生皮は所要量は充分自給し得て尙餘りあり（註新西蘭よりの輸入牛皮は前述參照）、一方單寧劑に就いても亦近年國內に於けるワットル樹皮の增產によつて一部特殊タンニン劑を輸入に俟つ外大體自給を見るに到つてゐる。國內製革工場に於て使用せられる生皮及び單寧劑の數字を示せば上揭表の通りである。

第四編林業中に詳說せる如く濠洲に於てはアカシ

第547表　單寧樹皮輸出入

	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
數量					
輸入	cwt 1	cwt 2,556	cwt 4,362	cwt 18,216	cwt
輸出	41,350	39,807	23,764	12,837	15,355
輸出・輸入超過	41,349	37,341	19,402	5,379	
金額	£				
輸入	1	827	1,395	— 6,660	
輸出	21,249	18,936	11,659	8,407	
輸出・輸入超過	21,248	18,109	10,264	1,747	

ヤ、ユーカリ、マングローブ、アリトリス等單寧を含有した樹木多く就中鞣皮用として最も適當なるものはアカシヤにて其內有名なるものは南オーストラリヤ州及ニューサウスウェールス州に產するGolden wattle及びタスマニア州ヴィクトリヤ州に產するGreen wattleである。濠洲は一九二七—八年以前は鞣皮樹皮は多量輸入したが同年には其の輸入量は著減し、一九三一—二年度には八九、〇六一 cwt の輸出を示した。然し其後輸出も亦漸減して一九三六—七年には一二、八三七 cwt となり、同年の輸入は一八、二一六 cwt 此內一五、四八七 cwt は南阿產のワットルバークであつた。輸出入の統計は上揭の通りである。

右の樹皮の外に每年單寧劑が輸入せられて居り一九三六—七年の總輸入額五二、六五一磅其內譯はワットル・バーク・エッキストラクト一五、五五三磅其他のエッキストラクト一〇、七一八磅とアアロニヤ、ミロバランス、カッチ等二三、二〇磅、ケエブラチォ・エッキストラクト三、〇三六〇磅である。

第三節　製靴工業

第548表　濠洲製靴業統計（1937—38）

	N.S.W	Vict	Q'land	S.Aust	W.Aust	Tasm	合　計
工場數	93	162	23	15	10	4	307
從業員	5,452	9,497	849	553	351	71	16,753
投下資本高	669,350	1,057,287	105,745	102,297	68,278	15,415	2,018,372
原料使用高	£ 1,392,520	£ 2,528,554	£ 189,375	£123,881	£ 97,359	£ 15,438	£ 4,347,127
生産高	£ 2,563,647	£ 4,603,609	£ 352,219	£226,589	£ 169,129	£ 27,579	£ 7,948,772

第549表　靴類製造高（1937—38）

	N.S.W	Vict	Qland	S.Aust	W.Aust	Tasm	合　計
Boots & shoes	足 4,617,821 £ 2,215,389	足 2,877,630 £ 3,931,982	足 639,014 £ 313,780	足 534,293 £216,357	足 374,668 £ 133,132	足 50,672 £ 26,822	足 14,094,098 £ 6,837,462
slippers	足 3,234,895 £ 336,527	足 4,378,935 £ 555,495	不　詳	不　詳	222,129 £ 32,299	— —	8,234,992 £ 954,681
uppers	足 18,355 £ 6,490	足 14,367 £ 7,197	足 102,012 £ 13,125	不　詳	152 79	不　詳	足 141,384 £ 29,218

濠洲が現在英帝國に對する軍需品供給上重要なる役割を演じつゝある中にて、工業に於ては毛織工業に次いで皮革工業であつて軍隊用皮革製品の製造に當り、特に製靴工業は其の中心部門である。工場數は現在約三百にて其の詳細は第五四八表の通りである。他に工場と名の附かぬ程度の修繕屋が千三百有り二千三百人の從業員を有してゐる。工場數に於ても生産高に於てもヴィクトリヤ州が過半數を占め、次いでニュー・サウス・ウェールス州が約三割五分となり他州は問題にならない。

尙製革工業として重要なるものに皮ベルト製造業があり、シドニーに本據を有する J, C, Ludowici & son Ltd は鞣工場をも有し「ハアイニャ」印ベルトの製造家として聞へてゐるが本工業は今尙見る可きものはない。

第七章　重　工　業

第550表　1937—38年度の濠洲重工業統計

	製鐵製鋼	非鐵金屬	車　輛	自動車ボディー	農耕機具	電氣機具	無線機具	全濠製造業
工場數	365	42	116	205	160	354	73	26,395
從業員數	20,117	5,330	27,207	12,795	7,750	11,054	5,519	559,160
投資額	磅 10,363,870	4,378,594	11,662,121	1,742,415	1,533,887	2,369,739	864,579	257,998,600
年產額	磅 28,684,124	20,613,585	13,029,225	8,371,956	4,225,658	6,494,421	3,247,472	498,779,141

但造船業、軍需工業統計不詳

濠洲の重工業、延いては軍需工業の發展の歴史は製鐵製鋼界に炳乎として君臨するろ The Broken Hill Pty. Co. Ltd. (B. H. P.) の發展と軌を一つにして居りその發達史は第一次歐洲大戰を契機として年々飛躍的な伸展を遂げて來て居る。重工業を製鐵製鋼業、非鐵金屬製造工業、車輛自動車農耕電氣無線機具工業に限定すると此等製造工業を包括する所謂濠洲重工業の現狀は第五五〇表の如くである。

第一節　鐵　鋼

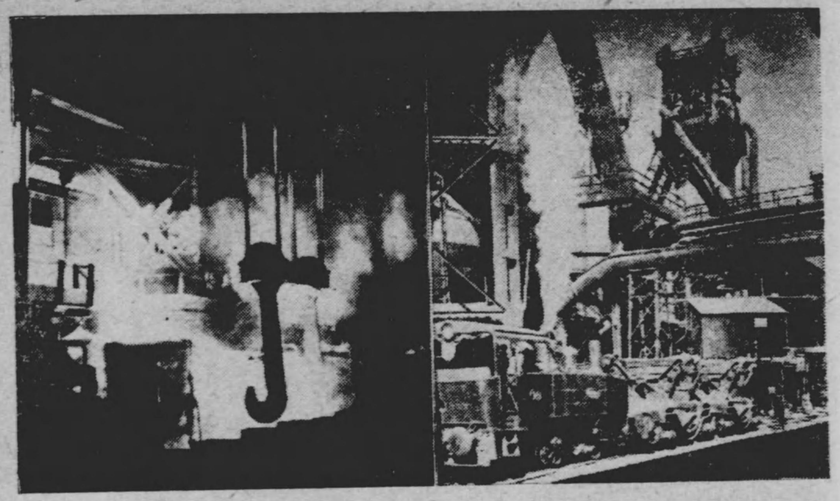
B. H. P. 會社の獨占事業であつて現在全濠鐵鋼需要に應ずる域に迄生産は發達してゐろ。元來 B. H. P. は南オーストラリヤ州政府から鐵鑛石の採掘權を取得して鑛石を同州のポート・ピリーの精鍊業者に送つて處理して居たが、製鐵業の將來性に着目して同社は一九一二年に製鐵工場の設立を計畫し歐米の製鐵業を視察して一九一四年にシドニー北方百哩の石炭產地ニュー・カッスルに米人技師と米國製機械を設備して工場建設に乘出したのであつた。

偶々第一次歐洲大戰の好景氣に會つて事業も着々と進み一九一七年には早くも造船用を主とした鐵板（20′ × 5′ × $\frac{1}{4}$）の製造を開始して一三、〇〇〇噸の生産を見せたのであつた。一九一八年に入つて Ferro Manganese の製造開始と共に Steel wire

工場として Ryland Bros (Aust) Ltd を又 Sheet Rolling Ltd. を傘下に收めて同年には鉄鋼一週間の生産高三、〇一四噸、一九三五年にはニュー・カッスル工場のみで週生産高鉄鋼一四、〇八〇噸、鋼鐵一二、〇〇〇噸といふ數字を示した。之に加へて同社は同年シドニーの南方五六哩ボート・ケンブラに在る Australian Iron & Steel 會社を傘下に入れ玆に名實共に濠洲否南半球上の重工業の王座を占めるに至つたのである。因みに一九三六年に於ける同社鉄鐵生産高は七八三、二三三噸に達し國内需要量の九〇%を充す様になつた。

N.S.W. ポート・ケンブラ製鋼所

現在 B. H. P. 會社は原料仕入、生産加工、配給と一貫作業を備へて居り同社直系傍系を合すれば從業員は二萬人餘に及び鑛山關係使用人丈けでも二萬人以上に達して居る。先づ鐵鑛石は平均含有量六三乃至六四%、埋藏量一億四千萬噸と稱せられる南オーストラリヤ州の Iron Knob, Monarch, Baron, Prince 鑛山より採堀して鐵路三三哩を經て積出港ワイヤラに搬出され、船でニュー・カッスルの精錬所へ運ばれるのであるが、B. H. P. 傘下の鑛石丈の輸送が沿岸就航船取扱貨物の約四〇%を占めて居る。同社は



B. H. P. ニュー・カッスル工場：(左)平爐(右)爐鑛熔

現在八隻の鑛石運送船隊を保有する傍ら十數隻の船舶を專屬チャーターして鑛石竝に製品の配給に向けてゐる。

石灰石はタスマニア Melrose 鑛區より採堀され鐵路六哩で積出港デヴォンポートを經由ニュー・カッスルへ運ばれ螢石、燐鑛石はニュー・カッスルから隔る事夫々四四〇哩、二、四〇〇哩の Carboona, Nauru Island, から供給を仰いで居る。石炭はお膝下に無盡藏の埋藏にあり B. H. P. 經營の炭坑のみでも Erling(ton, John Darling, Burwood, Lambton 等を所有してゐる。同社の製鐵製鋼用一週間の石炭消費量は二萬噸に上り之は大體ニュー・サウス・ウェールス州北部出炭量の二五%に相當してゐる。

また Newcastle Steel 工場内に骸炭製造爐を所有して副産物の Bengol 丈けでも日産六千ガロンを生産してゐる有様である。

ニュー・カッスル B. H. P. 工場の生産設備を略述すると一九三五年六月現在の調査では熔鑛熔三基を備へて一週間の鉄鐵生産量は一四、〇八〇噸、平爐は一〇臺を備へて一週間の鋼鐵生産量は一一、〇〇〇噸である。また各種鋼鐵生産加工場を製品別に所有しておりニュー・カッスル對岸の Waratah では一

第551表　製鐵製鋼壓延製板工業統計（1937—38）

	N.S.W.	Vic	Q'land	S.Aust	W.Aust	Tas,	Aurtralia
工場數	167	165	——	32	1	——	365
從業員數	13,643	4,643	——	1,729	102	——	20,117
地所建物	£2,467,177	595,912	——	....	....	——	3,192,711
工場機械	£6,511,321	553,648	——	....	....	——	7,171,159
賃銀支拂高	£3,499,385	943,547	——	....	....	——	4,749,266
燃料使用高	£2,005,059	150,064	——	....	....	——	2,195,818
原料使用高	£15,759,957	1,292,224	——	....	....	——	17,426,485
生産高	£24,974,681	2,887,321	——	....	....	——	28,684,124

註　——印ナシ　....印不詳

九四〇年以來コンモンウエルス製板工場かステインレスの耐熱鋼板の生産に着手してゐる。

他方ボート・ケンブラの Australian Iron & Steel 工場は生産設備として熔鑛爐二臺を備へ一週間の銑鐵生産量は一三、三〇〇噸、平爐は建造中のものを入れて四臺を備へて一週間の鋼鐵生産量は一一、〇〇〇噸であるが、近年七臺に增加した模様である。B. H. P. ニュー・カッスル工場同樣各種鋼材生産加工工場をも所有してゐる。尙南オーストラリヤ州ワイヤラに熔鑛爐一基建造中である。

此等二大製鐵工場地帶には鐵加工工業の發達も近年極めて活潑であり、ニュー・カッスルの Rylands Bros. Aust. Ltd.,は鋼線及同製品を生産し Stewarts & Lloyds (Aust.) Pty., Ltd.,は鐵鋼管を製造して居る。また Commonwealth Steel Co., Ltd., は壓延鋼、合金鋼を The Australian Wire Rope Works Ltd., は鋼線を製造してゐる。ボート・ケンブラの Lysaghts Works はニュー・カッスル工場と共に亞鉛引鐵板を製造し Commonwealth Rolling Mills Pty, Ltd., は高級平鋼鐵板を製造してゐる。一九三七—三八年度に於ける製鐵製鋼壓延製板工業

狀態は第五五一表の如くである。

第二節　非鐵金屬

濠洲は昔よりニュー・サウス・ウェールス州ブロークンヒルを中心に鉛、亞鉛、銀等の非鐵鑛石類の產出國であつたが國內には熔鑛、精鍊加工技術は發達せず金以外の鑛石は海外に送るといふ狀態であつた。偶々一九〇五年に至つて Zinc Co-operation が南オーストラリヤ州スペンサー灣の海岸地ボート・ピリーに設立されるに及んでブロークンヒルの鉛鑛は鐵道により此處へ送られ熔鑛は開始されたのであるが一九一五年に會社は B. H. P. Associated Smelters として B. H. P. に吸收せられ現在では世界的な鉛精鍊工場となつてゐる。他方亞鉛鑛はタスマニア州リズトンに在る B. H. P. 傍系會社の Electrolytic Zinc 工場に送られ電解精鍊されてゐる。亞鉛鑛はリズドンの外にも同社所有のタスマニア州西岸地方からも產出されるが、この樣に電解された殘部の鑛石は尙鉛と錫を含有して居るので熔解のため更に前記ボート・ピリーに送られるのである。

銅については含有度は低いが豐富な鑛區がタスマニア州に在り同地方に於てマウントライエル會社が銅の電解を行つて居る。その他クインスランド州にも相當量の銅鑛が存在しマウント・モーガンやチルラゴウ地方で精鍊されてゐる。

ボート・ケンブラは Electrolytic Refining & Smelting Co, Ltd. があり同社により電解された銅が Metal Manufacturers pty Ltd., によつて銅管、銅線に製造せられて居る外近年同社はアルミニューム、眞鍮、ニッケル銅尙銅板

第552表　非鐵金屬工業統計（1937—38）

	N.S.W.	Vic.	Q'land	S.Aust.	W.Aust.	Tas.	Australia
工場數	10	7	18	2	1	4	42
從業員數	£ 1,056	65	1,028	1,226	88	1,867	5,330
地所建物	£ 194,428	18,358	294,692	....	....	468,361	1,118,598
工場機械	£ 687,304	6,000	900,970	....	....	1,113,207	3,259,996
賃銀支拂高	£ 298,871	16,967	215,569	....	....	492,237	1,477,235
燃料使用高	£ 187,375	2,636	169,981	....	....	199,032	656,613
原料使用高	£ 8,150,273	171,033	1,522,201	....	....	1,466,818	15,291,127
生産高	£ 9,680,236	209,058	2,575,756	....	....	3,206,121	20,613,585

の製造もシドニーで行はれてゐる。

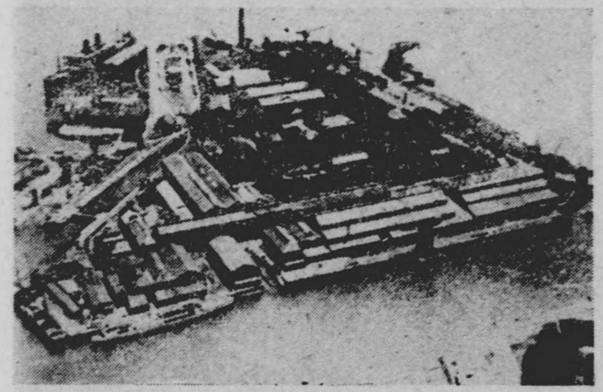
因みに一九三七—三八年度に於ける非鐵金屬工業の狀態は上揭表の如くである。

第三節　船舶、車輛、機械、電機

（一）船舶

數年來時局の波に乘つて濠洲造船界も活氣付き船舶の建造に躍氣となつてゐるが未だ見るべき大規模な造船所はない。

主なる造船所としては官營のものに聯邦政府經營のCockatoo Island Docks ニュー・サウス・ウェールス州經營のWalsh Island Docksがある。



シドニー灣内コッカツー造船所

また民間のものにMorts Dock & Engineering Co. Ltd. があり此等三者が濠洲造船業を牛耳つてゐると云へる。シドニー港内に在るコカツー島造船所は規模に於て最大のものであり今日迄に巡洋艦驅逐艦航空母艦沿岸防備艇等の海軍用各種艦艇を初めスループ船、石炭輸送船、冷凍貨物船、浚渫船其他小船舶多數を建造してゐる。

現在の船舶入渠能力は二五、〇〇〇噸であり最近飛行機の製造をも行つてゐる。

ニュー・カッスル市のB. H. P. 製鐵會社の對岸ハンター川を距ててウォルツシュ島造船所が在り、同社は一四五エーカーに及ぶ工場敷地を所有してゐる。現在六千噸級船舶の建造設備をもつてゐる外一萬五千噸級の浮ドックを備へてゐる。モーツ造船所はコカツー島ドックと同樣シドニー港内 Waiter view Bay にあつて乾ドック、浮ドック夫々二個の設備を有してゐるが收容船舶噸數は一、五〇〇噸迄の小型のものである。更に最近南オーストラリヤ州ワイヤラに於て一萬五千噸級船舶の造船所が建造中である。

（二）車輛

鐵道車輛電車等の製造は國内自給の域に達して居り一九三七—三八年度に於ける生産統計は政府民間併せて工場數一一六勞働者數二七、二〇七人生産高一、三〇三萬磅となつて居る。製品としては蒸氣並に電氣機關車客車その他の軍輛同部分品が擧げられる。

官營車輛工場としてはニュー・サウス・ウェールス州、ヴイクトリヤ州立鐵道工場があり民營のものにクインスランド州の Walkers Ltd. やニュー・サウス・ウェールス州の Ritchie Bros. 等がある。ニュー・サウス・ウェールス州鐵道工場はエベレイ、ランドウヰク、チユロラ、カーデイフに大工場を有して機關車や車輛の製造修繕を行つてゐる外各田舍の要所に作業場を配備してゐる。ヴイクトリヤ州鐵道工場はニュー・ポートに車輛製造修繕工場を有し

Sprit of Progress（メルボルン、オルバリー間定期特急車）の如き世界的優秀車の製造をも行つてゐる。

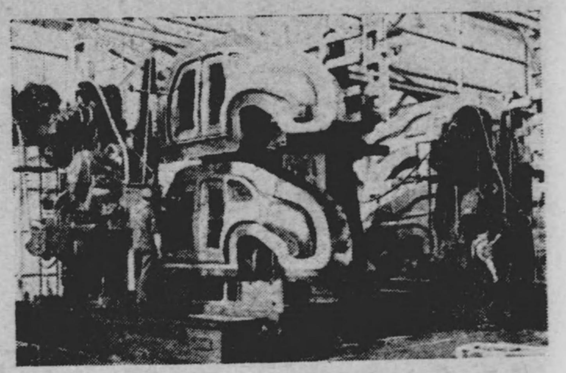
民間工場としては Walkers 會社がメリボローに諸機械製造工場を有して居り主にクインスランド州、南オーストラリヤ州タスマニア州聯邦政府經營の鐵道車輛の製造を行つてゐる。

他方 Ritchie Bros. はオーバンに客車貨車車輛工場を有して一般車輛の製造は勿論近年常溫裝置のアルミニューム・ディーゼル車や冷藏車鋼鐵車等を製造して居る。

電氣車輛工場としてはニュー・サウス・ウェールス州オーバンの Australian General Electric Ltd. 俗に云ふ A. G. E. 會社で一九二五年以來路面電車や電化鐵道車輛及び電氣自動車の製造を行つて居り製品は全濠主要都市に供給されてゐる。

（三）自動車、飛行機

國產自動車の製作はメルボルンの Tarrant 會社が一八九九年に初めて發動機と車體を製造しボディーをサウスメルボルンの馬車製造家のアレキサンダースミスに作らしめたといふ記錄があるが自動車工業の發展は一九一七年の所謂 War Precaution Act 發令以來の事である。先づ聯邦政府は二臺の罐型自動車を輸入してアデレードの Holden Frost 會社に送り自動車の製造を研究せしめたのであつた。後年同社は米國の General & Motors と提携して General Motors-Holdens Ltd. を作り二〇〇萬磅を投じてブリスベン、シドニー、メルボルン、バースに分工場を設立し專ら自動車の組立やボディーの製造を行つて居たのであるが、最近モーター並に車體をも製造する樣になり從業員數も五千人以上に及んでゐる。アデレードの Wood Ville にある本社工場のみでも敷地四〇エーカーに上り年產三萬二千臺の車體組立を行つてゐる。



ゼネラル・モータース自動車工場

同社製品としては Buick, Cadillac, Chevolet, La Salle, Oldsmobile, Pontiac, Vauxhall の乘用車や Chevolet Oldsmobile のトラック等がある。前記 G. M. H. 會社に對抗するものに米國 Ford 自動車會社があり現在一〇〇萬磅の資本を以てヴイクトリヤ州チロン其他で自動車の組立やボディーの生產に當つてゐる。

また自動車部分品の製造工場は全濠に二〇〇餘、修繕工場は二、五〇〇以上あつて自動車工業の總從業員數は二萬人に上り年產額一千萬磅に達してゐる。

他方航空機製造工業は G. M. H. 會社が B. H. P. と提携して Commonwealth Aircraft Co-operation Pty. Ltd. を設立し濠洲最大の飛行機製造工場をメルボルンの Fishermen's Bend に持つてゐる。同社は今次の歐洲大戰の勃發と共に逸早くノース・アメリカン、ロックヒード飛行機會社と契約を結んで飛行機製作權を買收する傍らプラット・ホイト

メルボルン市コンモンウエルス飛行機工場

ネイ會社よりワスプ發動機の製造機械をも購入して所謂國産機 Wirraway（ノース・アメリカンNA型を英國ゲージに改造したもの）を現在大量に生産する様になつてゐる。

（四）農具機械

鐵鋼を原料とする機械工業は農業用、鑛山用、織布用其他一般用の機械器具の製造を包括するものであつて、一九三七―三八年度現在に於ては工場數一、二三六、從業員數三四、〇一一人、投資額八、二五九、四一二磅、年產額二一、六六二、九一八磅となつてゐる。其中最も主要な地位を占める農具機械製造工業は一八四三年に始まり濠洲機械工業の發達に貢獻する所多大であつた。

現在國內農具機械の製造工場の主なるものは五十七あるがその中南半球上最大の製造工場はヴイクトリヤ州サンシヤインに在る Sunshine Harvestor Works である。同社は製品として剪毛機、刈穀機、結束機、鋤、馬鍬、播種機、石油機關車、耕作機等を製造して居り數千に上る從業員を使用してゐる。また上記五十七工場が製造する農具機械の年產額は二百萬磅に上つて居る。

（五）電氣機械器具

製造工業の發達に伴ひ濠洲に於ける電力の需要は增大し而も世界恐慌中外國よりの電氣機械の輸入が著減した事は電氣機械器具製造工業の急速な發展を促がす事となつた。一九三七―三八年度に於ける業界の生產狀況は工場數三五四、勞働者一一、〇五四人をもつて六五〇萬磅の生產額を示してゐる。文化度の高い濠洲として都市での電氣利用は電燈電熱共に普及し近年ガスの分野に迄進出してゐる。從つて製品も電氣冷藏庫、電熱器等多種多樣な家庭用品を初め電氣モーターの如き一般工業用品がある。その他七十三工場がラジオ機械製作に從事し五、五一九人の勞働者を擁して三二五萬磅の年產額を上げてゐる。シドニーのアッシュフィールドに在る Amalgamated Wireless Austral-asia Ltd. は無線電信機具製造の國內最大工場である。

A. W. A. 無電機械器具工場

第四節　軍需工業

濠洲は第二次歐洲大戰に參加以來英帝國の兵器廠として軍需工場の擴充新設を計り專ら銃砲、彈藥、タンク、自動車、飛行機、艦船と頗る多種類に亙る軍需品の增產に大童となつて居るが、具體的な數字は不詳であるからここでは一九三八年六月三〇日現在に於ける所謂平時の軍需工場施設を紹介して置かう。

（A）火藥工場 Explosives Factories ヴイクトリヤ州マリビアノングに在つて陸空軍用各種の火藥を製造して居る、同工場は一九一一年に設立されたものであるが現在の工場投資額一〇八萬磅、從業員數四八八人である。

（B）被服廠 Clothing Factory ヴイクトリヤ州メルボルン市に在つて陸海空軍用衣類を製造してゐる。同工場は一九一二年に設立されたもので現在の工場投資額十二萬四千磅、從業員數四二三人である。

（C）小兵器製造工場 Small Arms Factory ニュー・サウス・ウェールス州リスゴーに在つて主として陸空軍用小銃竝に機關銃（濠洲陸軍新兵器ブレン輕機を含む）を製造してゐる。同工場は一九一二年に設立されたものであ

メルボルン郊外フィツツロイ軍需工場の一場面

ル小銃大砲の導火管や雷管並に空軍用爆彈を製造してゐる。資額一二四萬磅、從業員數八四五人である。

以上の外にヴィクトリヤ州マリビアノングに兵器檢査所、兵器研究所が在り研究所は一般藥品、火藥、兵器、木材、金屬、冶金、測量、物理に關する研究部門に分れてゐる。現在の研究所投資額は十五萬一千磅、從業員九三人である。第二次歐洲大戰以後上記の諸工場が擴大強化されたのは今更申す迄も無く、多數の新設軍需工場が設立せられてゐるが詳細は不明である。

註　一九四〇年六月の調査に依ると今次大戰の勃發の際には從業員數六〇〇人足らずだつたのに一躍三、五〇〇人となり五〇萬磅を投じた新設工場が十八箇月振りに落成、今尙二工場は建設中との事である。

(D)　武器火藥製造工場　Ammunition Factories　ヴイクトリヤ州メルボルン市のフットクレーに在つて、ピストつて現在に於ける工場投資額九萬一千磅、從業員數三八五人である。

第八章　油脂製造業

濠洲の油脂資源としては其屬領たる太平洋諸島のコプラを除けば僅かに牛羊脂（Tallow,）豚脂（Lard）を擧げ得るのみで他に見るべきものがない。

植物油脂資源としては棉、亞麻、落花生、向日葵、及び古々椰子等の栽培があるが何れも子實及び油脂を相當量海外に仰いで居る狀態であつて對外供給力は問題にならない。又林產資源のユーカリ樹及び白檀より得られる油は量は少ないが古くから有名である。

第一節　牛脂 Tallow

タローは牛脂（Beef Tallow,）羊脂（Mutton Tallow）及び牛脂と羊脂を混合した所謂混合脂（Mixed Tallaw）の三種に分けられるが普通一括してタローと稱されてゐる。

(イ)　生產

牛羊脂の生產は牛、羊の屠殺に附隨して行はれる關係上食肉の輸出の少い夏季には少なく冬期に多い。また產地別に見ても製肉業の盛んなニュー・サウス・ウェールス州、ヴイクトリヤ州、クインスランド州が主たるものであつて其他の州に於ては牛羊脂の生產も少量である。

一九三四—三五年度より一九三七—三八年度の生產高及び輸出高は五五三表の如くである。

但し上記統計には保革油、人造バターに使用せる牛脂を含まれて居らぬ。最近生產推定量を州別にすれば次の通りである。

第553表　タロー生産高

	輸出高	國內消費高	合計
1934—35年	41,357噸	25,596噸	66,953噸
1935—36年	22,516〃	24,571〃	47,087〃
1936—37年	42,439〃	25,930〃	68,369〃
1937—38年	27,057〃	25,565〃	52,622〃

ニューサウスウエルス州　二〇、〇〇〇噸
ヴイクトリヤ州　一五、〇〇〇〃
クインスランド州　一四、〇〇〇〃
南オーストラリヤ州　二、〇〇〇〃
西オーストラリヤ州　一、五〇〇〃
合計　五二、五〇〇噸

タローは牛肉、羊肉の脂肪其他を釜に入れて煮たものであつて其製造工程が簡單であるから大製肉業者にして副業的に自己工場で處理する者が多く生産者は大別次の四種に分ち得る。

①屠殺場に於て牛及羊等の骨及び內臟等より採るもの、②牛肉、羊肉卸小賣店より屑脂肪及骨油等を特約して買集め脂を採るタロー製造業者、③肉類卸小賣業者が自製するもの、④地方農牧家が自ら家畜を屠殺して食用となす關係上其內臟、骨、脂等を原料として製造したもので就中アバターのミート・ワークスのタロー製造業者（例へばシドニー市郊外ボタニーにあるもの）の生産になる牛脂は品質が均一で且つ數量も纏つて居る。

（ロ）種類並に品質

既述の通りタローの種類は純牛脂、羊脂、混合脂の三種があるが最も大量に生産されるのは混合脂であつて之は牛脂羊脂を混合したもので混合割合は大體半々程度が良いとされて居る。

品質の鑑別法に就いては

① London Contract により Titre を標準とする方法

② Continental Grading により色相、臭を標準とする方法

を擧げ得るが普通英國向には London Contract に依り其他は Continental Grading に從ふ場合が多い。

等級は色相、臭氣、ディター夾雜物の程度等を鑑定して Prime 級（極上品）Good Colour 級（上等品）Fair Colour 級（普通品）No Colour（下等品）又各級の中間級 Prime to Good Colour, Good to Fair to Colour 等を決定するが之とて嚴格なる基準は無く各製造家又はタロー商で異つて居る。

（ハ）取引狀況

①競市　シドニーは木曜日、メルボルンは水曜日、ブリスベンは金曜日と夫々毎週一回競市が開かれ、シドニー、メルボルンは競市場に現荷見本を展示し、ブリスベンに於ては各仲買人の倉庫に見本を置き、買手は競市前に之を評價して夫を基礎に競買を爲す。落札後更に現荷を檢査して品質が見本に比して劣る時は直ちに引取を拒絶をする事が出來る。

各市場共販賣仲介人と買手筋（實需筋及び輸出業者を含む）とがあり前者は生產者（主として小生產者）の委任を受けて出品し賣却出來たる分に對し一定の口錢を徵收する。出品高は各市場によつて或は出廻りの多寡に依つて一定しないがシドニーは毎週一〇〇—一二〇噸、メルボルンは五〇—六〇噸であつて Prime, Good Colour, Fair Colour,

No Colour 等雜多であるが中級品以下のものが多い。

競市に於ては一口三樽、四樽の如き小口が集まる關係上品質の不揃は免れないが總體の數量及競落値段が相對取引相場の基準となる故其重要性を無視する事は其來ない。

②入札と相對取引　競市以外に入札によるものと相對取引をなすものがある。前者は主として公立屠殺場又は牛肉工場に於て行はれニュー・サウス・ウェールス州立屠殺場では毎週火曜日に前週の生產品を入札に附す。最低入札量は普通五噸である。相對取引に於て重要な存在はタロー商（輸出業を兼營する）であつて之等は競市に於て委託又は自己勘定にて買付をなすのみでなくタロー製造業者の一手販賣店となつて居る。普通ブラントの通つて居るものは其のブランドにて販賣し、競市又は小口生產業者より買付けたるものは自己の規格にて等級を設け取引して居る。

③取引條件　英國向の牛脂は品質、支拂其他の取引條件を London Contract を基準とし、濠洲の取引も之を基礎とする。之は London Oil & Tallow Traders Association にて制定せられたもので基礎を Acid Titre に置き到着地に於て見本を摘出しテイーター度を檢査して値段を裁定すると云ふ方法を採つて居る。尤も夾雜物、水分に一%の變動は認められ又目方も送狀面より五%以內の差異は許容せられるものである。

a　價格　競市に於ては「正味重量一噸に付き倉庫渡し」を建値とし相對取引に於ては倉庫渡し、船側渡し、突堤渡しと其時々の取決めにより行はれ何れも容器入値段である。

b　包裝　紐鐵締め木樽又は古ドラム罐等に詰められる。木樽にも大（二樽約一噸）小（六樽約一噸）がありドラム罐にも四〇ガロン入、八〇ガロン入の二種類がある。牛脂の色相からは樽入の方が寧ろ良好にしてドラム入は幾分劣る。

（二）輸出數量

年產約五萬五千噸の內國內にて約二萬五千噸消費せられる爲め輸出餘力は僅か三萬噸に過ぎないがアルゼンチンや他の產地に比し濠洲品は品質包裝等規格が一定し所謂品の揃つた信用出來るものが年中取引出來るので世界的市場性を有し英國、歐洲、日本等に取つては重要なる供給國となつてゐる。

過去五箇年間の輸出數量を見れば第五五四表の通りである。

此の中英領ボルネオ、緬甸、セイロン、支那、佛印、香港、印度、日本、馬來、滿洲、蘭印、比律賓、泰、葡領チモール、其他東亞地域に對する輸出金額は總輸出に對し約三〇%を占めて居る。

一九三四—三五年度	二三七、四八七磅	二九六、九三七磅
一九三五—三六年度	一九三七—三八〃	二一八、五九一〃
一九三六—三七〃	一九三八—三九〃	一五六、一〇五〃

仕向地は英本國が第一で三〇%を占め次いで印度、加奈陀、各一〇%乃至一五%で日本は一九三四年頃迄は年約七千噸であつたが、其後急激に減少してゐる。

第二節　豚脂 Lard

主產地はニュー・サウス・ウェールス州、ヴイクトリヤ州及びクインスランド州の三州であつて濠洲全體の生產者約八〇の內六〇は前記三州に存在してゐる。

第554表　タロー輸出高

1934—35年度	41,357噸	927,740磅
1935—36〃	22,516	661,465
1936—37〃	42,439	819,597
1937—38〃	27,057	620,869
1938—39〃	28,125	483,034
平均一箇年	32,500	

第555表　豚脂州別生産高（1937—38）

ニュー・サウス・ウエルス州	362噸	19,390磅
ヴィクトリヤ州	376	28,452
クインスランド州	441	25,643
南オーストラリヤ州	96	5,751
西オーストラリヤ州	115	7·719
タスマニア州	39	2,683
合計	1,429噸	89,638

註　本表の數字はベーコン工場の生産にかゝるものにして全體の生産量は之より大なり。

第556表　豚脂輸出高

1933—34年	662噸	25,963磅
1934—35	1,127	41,758
1935—36	1,246	53,603
1936—37	1,809	69,374
1937—38	1,720	60,249
平均一箇年	1,313	50,191

第557表　古々椰子實及びコプラ輸入

	古々椰子實	コプラ
1936年	3,970噸	17,750噸
1937	3,590	24,120
1938	3,880	22,320
1939	3,680	27,710

第558表　椰子油の輸出入統計（噸）

	輸出	輸入	純輸出
1936年	469	2	467
1937	324	2	322
1938	120	1	120
1939	398	0	398

第559表　ユーカリ油輸出高

1933—34年	41,010磅	1936—37年	82,457
1934—35	50,699	1937—38	94,538
1935—36	93,797		

第三節　椰子油

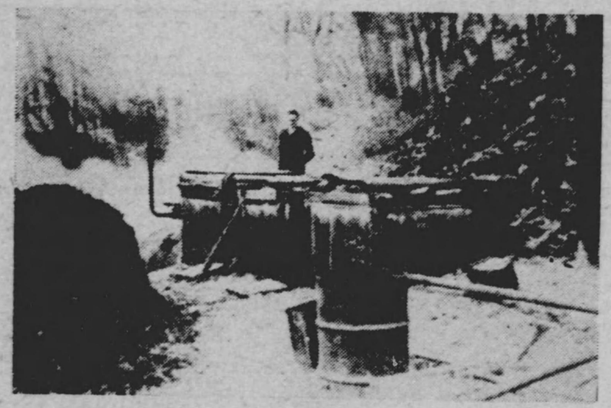
椰子果及びコプラは其輸入を濠洲領ニューギニヤを初め南太平洋諸島に依存し國内に於て搾油の上椰子油は石鹸及び蠟燭工場に於て消費し一九三七—三年度に於ては七千噸殘餘が輸出に振向けられるものと考へられる。

第四節　ユーカリ樹油

之は各種のユーカリ樹の葉を蒸溜して得る油で歩留は最高四%である。醫藥用として又金と他の鑛物との分離に用ひられる。その輸出は第

第560表　西オーストラリヤ州白檀精油輸出高

1934—35年	3,671噸	108,641磅
1935—36	2,352	66,845
1936—37	3,556	106,448
1937—38	1,241	36,831
1938—39	1,648	42,330



油採取

五五九表の通りである。而して其大部分はヴイクトリヤ州より輸出され主なる仕向先は英國、米國及び獨逸である。

第五節　白檀油 Sandal wood Oil

白檀油は西オーストラリヤ州に於ては品質、量共に古くから有名で印度の Mysore Oil と並んで醫療用として又香水用として價値のあるものである。白檀樹は西オーストラリヤを主産地とし南オーストラリヤ州、クインスランド州及びニュー・サウス・ウェールス州にも若干産出する。從つて其の蒸溜工場も西オーストラリヤ州に在り同州の精油輸出高は第五六〇表の如くである。

而して其の主要仕向地は英國、濠洲の東部諸州及び獨逸である。

白檀油輸出の仕向先は香港へ七二九瓲、支那へ三一二瓲であつた。

第561表　石鹸蠟燭工業統計

		N.S.W.	Vic	Q'land.	S.Aust	W.Aust	Tas	Australia
工場數		27	18	10	4	4	2	65
從業員數		1,399	723	185	140	62	25	2,534
投下資本額	磅	523,863	461,527	59,008	109,767	..	..	1,205,789
生産高	磅	1,832,026	1,323,103	188,888	163,277	..	..	3,627,830
牛脂使用推定高	噸	12,500	9,000	1,600	1,300	800	200	25,400

第562表　石鹸蠟燭製造高

	タロー使用量	椰子油使用量	石鹸生産高	蠟燭生産高
1933—34年	噸 24,631	4,007	44,591	2,580
1934—35	25,596	4,647	46,612	2,420
1935—36	24,571	6,277	47,704	1,997
1936—37	25,930	6,211	49,329	1,899
1937—38	25,565	6,856	47,625	1,348

第563表　石鹸輸出高

	數量(噸)	金額(磅)
1934—35	2,427	83,798
1935—36	2,433	92,086
1936—37	2,632	88,462
1937—38	2,188	75,878
1938—39	2,226	74,594

第564表　塗料輸出入統計

	輸入(千英磅)	輸出(千濠磅)
1935年	910	150
1936	960	170
1937	1140	220
1938	1050	330

第九節　油脂製品

搾油に付いては前述の通り棉實、亞麻仁コプラ等を相當量輸入して搾油して居るが、其量は最低亞麻仁三—四萬噸、椰子油一萬噸と推定される。尙石鹸及び蠟燭については一九三七—三八年度に於て工場數、從業員數及び生産額は第五六一表の通りである。

過去五箇年間のタロ

ー及び椰子油消費量並に石鹼及び蠟燭の生産量は第五七二―五七三表に示して置いた。

塗料に付ては前述の如く亞麻仁油を年に一千噸内外輸入して居る狀況である、過去四箇年間の塗料輸出入狀況を國際聯盟の統計書によつて見れば第五六四表の通りである。

第九章　釀　造　業

人間の住む所、そこには必ず酒の存在がある。神代の昔から人間と酒とは切つても切れぬ因緣がある樣で、それ程酒は人間の生活には不可缺のものの如く思はれる。

濠洲人は男も女もよく酒を飲む國民である。濠洲人が最も飲むものは何と云つても麥酒である。國内で産する麥酒（ビール）はその需要を充たし海外へも輸出してゐるが、ウィスキーは國内の生産もあるが大したものでなく、之は輸入に俟つ。

葡萄酒の生産は近年漸く生産高も相當になり且微々ではあるが輸出もしてゐる。その他ラム、ブランデーの生産もあるが麥酒、葡萄酒に比べれば生産量も僅かである。

第一節　麥　酒

濠洲に於て始めて麥酒が釀造せられたのは一七九五年で James Squire なるものがパラマッタに於て釀造したのが

始まりである。之は第一回の移民隊がシドニーへ上陸してより七年後の事である。一八〇四年には官營の釀造所がパラマッタに設けられたが翌々年には民營に移つた。當時はホークスベリーの移民達に麥酒を供給するのが目的であつて、玉蜀黍を主な原料とし國内で生産するホップを用ひてきたのであつた。かくて一八四八年には釀造工場も四八に增し釀造量も三三萬ガロンを超へたのであるが、一八五〇―六〇年のゴールド、ラッシュは人手の不足となり人間の急激な鑛山への移動のため倒産するものが續出した。尤もこのゴールド、ラッシュが人口の增加を招來し麥酒釀造業も一大發展をなす結果となつたのは皮肉な反面であらう。

今日では全濠洲の釀造高は八、四〇〇萬ガロンを超へてゐるがニュー・サウス・ウェールス州が第一、ヴィクトリヤ州之に次ぎ兩州で全濠洲の七割以上を占めてゐる。尤も各州の生産は大體その州の需要を賄ふ事を原則としてゐるので兩州の人口から見てもこの生産高は肯ける譯である。

濠洲の麥酒は美味いか不味いかはよく議論の的になるが、濠洲の麥酒は決して不味くはないと斷言出來る。尤も世界中何處に行つても惡い麥酒はないといふのが上戸の一致した意見で唯一方が他より、一寸美味といふだけの樣だが。

濠洲の麥酒は日本のそれに比べて決して遜色はないのであるが、一般の意見を綜合すると一番美味い麥酒は何といつてもメルボルンで之に匹敵するのがタスマニアで殘念乍らシドニーの麥酒は一番味に於て劣ると思はれる。個人嗜好によるものだから絶對的のものとは云へないがメルボルン、タスマニアの麥酒が一般に美味いと云はれるのは水質によるものと思はれる。

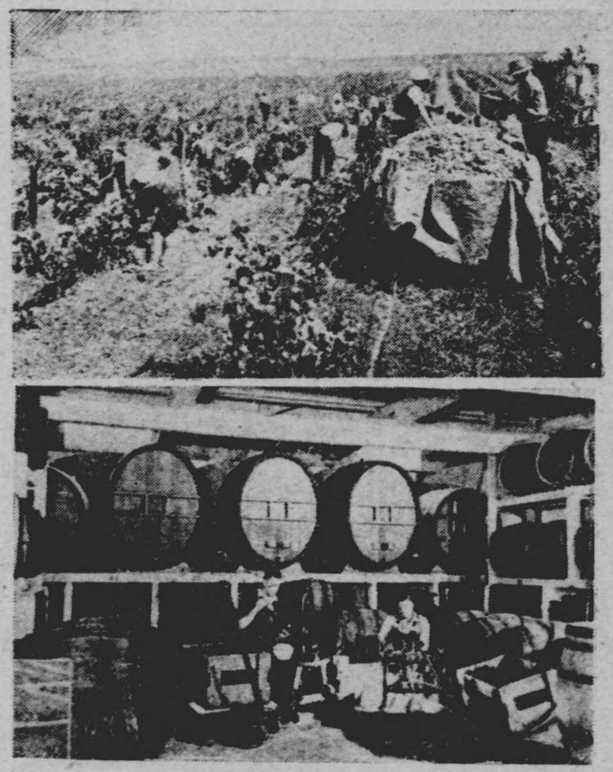
第565表　麥酒釀造業統計

	N.S.W.	Vic	Q'land	S.Aust.	W.Aust	Tas	Australia
工場數	6	9	6	6	6	4	37
從業員	976	1420	393	263	405	85	3542
生產額	£ 3,311,512	£ 2,891,604	£ 806,041	£ 527,137	£774,106	£216,070	£ 8,526,470

と一人當り一一ガロン卽二斗七升を超えることになり眞に恐るべき飲み振りである。

第二節　葡萄酒

一七八八年第一回の移民隊がこの大陸に齎たらした中に、リオデジャネイロ、及び希望峰からの葡萄の苗木があつたがこれが Phillip 總督の官邸の裏に植えつけられた。之が濠洲葡萄酒の起源となつたわけである。



（上）葡萄の取入れ　（下）葡萄酒釀造

今日の葡萄酒釀造業の恩人は Captain John Macarthur で彼が最初から之を正業として可能ならしめ一八二七年には年産二萬ガロンの葡萄酒を造り出すに至つた。

葡萄酒釀造はニュー・サウス・ウェールス州から始つたのであるが、今日では南オーストラリヤ州が第一で、ニュー・サウス・ウェールス州、ヴィクトリヤ州之に次ぎ是等三州で生産の大部分を占めてゐる。

今日では二、〇〇〇萬ガロンを示してゐるが中四〇〇萬ガロンは輸出されてゐる。輸入は微々たるもので問題にならぬから國内の消費は一、六〇〇萬ガロンを超えず、又その中貯藏されるものも少くないから一年一人當り消費量も僅かなものである。

元來濠洲人は餘り葡萄酒を好まぬ國民であり、且つ、葡萄酒の釀造は歷史も淺いので長い歷史を有する他國品と競爭するために海外の販路開拓に困難があるわけである。

以上の他に濠洲ではブランデー、ラム、ウィスキーの產出もあるが詳細なる統計は不明である。

第566表　葡萄酒釀造量及輸出入統計（1936—37）

	N.S.W.	Vic.	Q'land.	S.Aust	W.Aust	Australia
葡萄園	エーカー 16,542	41,895	2,501	56,122	6,105	123,165
葡萄生產量	ガロン 2,944,494	1.818,917	29,121	15,026,502	348,960	20,167,994
輸出	—	—	—	—	—	4.088,963
輸入	—	—	—	—	—	34,236

葡萄酒の起源となつたわけである。

今日の葡萄酒釀造業の恩人は Captain John Macarthur で彼が最初から之を正業として可能ならしめ一八二七年には年產二萬ガロンの葡萄酒を造り出すに至つた。

葡萄酒釀造はニュー・サウス・ウェールス州から始つたのであるが、今日では南オーストラリヤ州が第一で、ニュー・サウス・ウェールス州、ヴィクトリヤ州之に次ぎ是等三州で生產の大部分を占めてゐる。

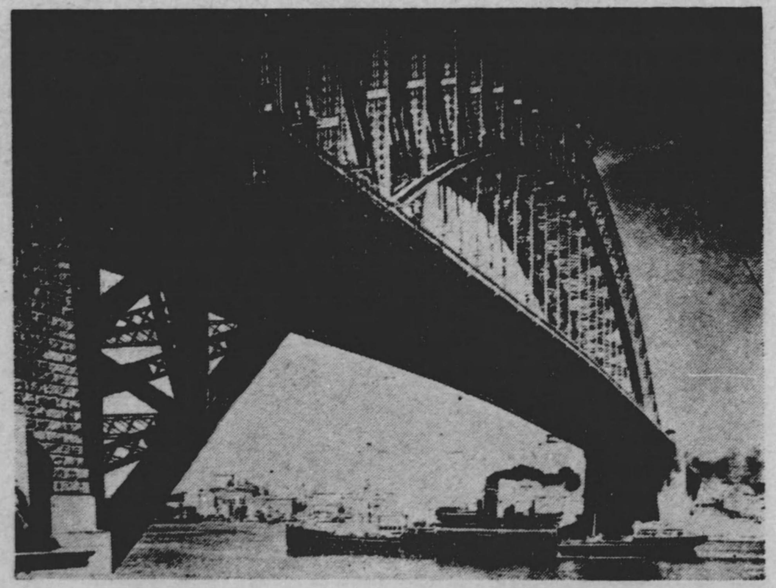
今日では二、〇〇〇萬ガロンを示してゐるが中四〇〇萬ガロンは輸出されてゐる。輸入は微々たるもので問題にならぬから國内の消費は一、六〇〇萬ガロンを超えず、又その中貯藏されるものも少くないから一年一人當り消費量も僅かなものである。

元來濠洲人は餘り葡萄酒を好まぬ國民であり、且つ、葡萄酒の釀造は歷史も淺いので長い歷史を有する他國品と競爭するために海外の販路開拓に困難があるわけである。

以上の他に濠洲ではブランデー、ラム、ウィスキーの產出もあるが詳細なる統計は不明である。

第六篇

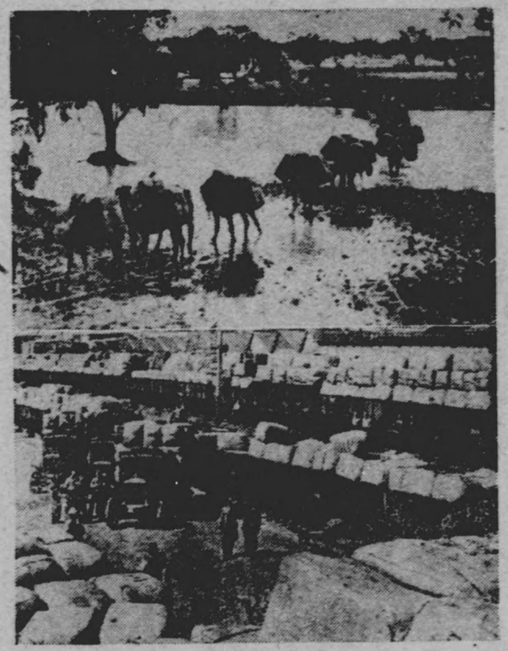
貿易



ハーバー・ブリッヂを抜ける日本郵船北野丸

第601表　最近五ヶ年總輸出入額

年　度	輸　入　額	輸　出　額	輸出額の輸入額に對する比率
	千英磅	千英磅	%
1934—35	74,119	90,654	122.3
1935—36	85,253	109,372	128.3
1936—37	92,641	129,664	140.0
1937—38	113,975	125,838	110.4
1938—39	102,156	112,202	109.8



込積羊生

羊毛の奥地より搬出と停車場に於ける積込

過額は巨額に達した。之を要約すれば濠洲の貿易尻は若干の例外はあるけれどもその開拓時代に於ては輸入超過を示し、各般の産業が發達せる今世紀に入りては輸出（金を含む）、及び一九二八—二九年から一九三八—三九年に至る各會計年度の輸入額（金を含む）につきて見るに一八八六年迄の一三期（六十五年間）は二期（十年間）の例外を除き常に輸入超過であつた。然るに一八九一—九五年以后一九二〇—二一年迄の六期（三十年間）は、貿易尻は轉じて輸出超過に變つた。之に次ぐ一期（五年間）及び一九二八—二九年及び一九二九—三〇年は再び輸入超過に轉じ、爾來一九三八—三九年迄の九年間は輸出超過となり其超

第一章　貿　易

積込羊生

由來英國は濠洲をして自國の食料品工業原料品の供給地及び工業製品の輸出市場たらしめんとして對濠植民政策を實施し濠洲の産業を指導して來た。濠洲自體としてもその僅少なる人口と狹隘なる自國市場を對象としては、歐洲式近代工業を興す事は不可能であつて其の廣大なる土地、其他農牧に適する自然的條件を利用して農牧業の發展を計り、又地下鑛産資源の開發に努力して餘剩物資を海外特に英國に輸出し以て濠洲經濟の育成に努めた事は自由主義的世界經濟には頗る自然の過程であつたと云へよう。

斯くして濠洲は農、牧、鑛業等の原始産業の生産物を輸出し、主として工業製品半製品を輸入する原始産業國として發達して來たのである。

主要輸出品は羊毛、小麥及び小麥粉、金、バター及びチーズ、肉類、皮類等であり、輸入品の主なるものとしては金屬、金屬製品、機械類、衣類織物類、油類、紙、文房具類、藥品、化學藥品等がある（以上金額の順位）。

之等商品の輸出入貿易尻は一八二六年から一九二五—二六年迄（註參照）の五年間を一期とせる年平均輸出入額

第602表　産業別生産額並びに輸出額

最近10年間（1928—29乃至1938—39）平均

産業別	生産額	全生産額に對する比率	輸出額	全輸出額に對する比率	各産業別輸出額の生産額に對する比率
原始産業	單位 千濠磅	%	單位 千濠磅	%	%
農業	78,644	20,47	29,577	24.71	37.61
牧畜業	86,493	22.51	59,462	49.68	68.75
酪農業	46,441	12.08	10,819	9.04	23.30
鑛業	20,237	5.27	13,463	11.25	66.53
林業及漁業	10,608	2.76	1,295	1.08	12.12
合計	242,423	63,09	114,616	95.76	47.28
製造工業	141,826	36,91	5,079	4.24	3.58
總計	384,249	100,00	119,695	100.00	31.35

超過に轉じたと概言し得るであらう。

註　一九一四年七月一日以降貿易統計は會計年度（七月—翌年六月）に依るそれ以前は歴年度による。

因みに最近五年間の總輸出入額（金を含む）は第六〇一表の通りである。

第二章　輸　出

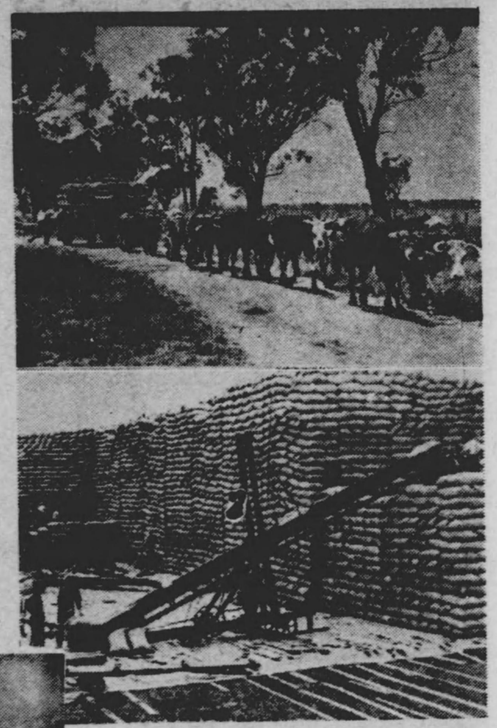
第一節　原始産業と輸出

濠洲が原始産業國なることは上述の通りであるが、今濠洲の原始産業が全産業中如何なる地位を占むるか原始産業の生産物が、濠洲全輸出に於て如何なる重要性を有するが、並びにその海外市場に對する依存度を究明するには第六〇二表を檢討するに如くはない。

上表にて明らかなる如く、原始産業生産額は全産業生

次歐洲大戰以後特に最近に於ける濠洲製造工業は、軍需工業を中心として刮目すべき躍進を遂げつゝある。船腹難に因る輸出の困難乃至は杜絶は、農牧業の高率生産制限を餘儀無くせしめたであらうことと相俟つて、昨今に於ける製造工業製産額はおそらく原始産業生産額を遙かに凌駕するの域に達してゐる事であらう。

前掲統計中最後の欄は、各産業別の海外依存度を示す



袋麥の奥地よりの搬出と積出港に於ける集積

冷凍肉の般積

産額の六三%を占め、農牧業生産額のみにて五五%に達する。原始産業生産物輸出額の總輸出額に對する比率は九六%の高率を占め、農牧産品のみにても八三%に上る。この數字は濠洲輸出貿易に於ける原始産業特に農牧業の重要性を示して餘りある。然しこの事實のみより直ちに濠洲を單なる農牧國と斷定することは早計であつて、第一

ものであるが、製造工業の生産が殆んど全部國内需要に充當せらるゝに反し、原始産業はその生産の四七%（農牧業のみにても同率となる）を海外市場に依存してゐる。これは濠洲經濟の最も顯著なる特質であつて、我國によつてその海上交通を完全に遮斷せられんとしつゝある現在、濠洲原始産業特に農牧業の直面しつゝある苦悩は蓋し吾人の想像以上であらう。

第二節　輸　出　先

次に濠洲物産が如何なる方面に輸出せらるゝや、その仕向先を知る爲に、仕向國別輸出額及びその總輸出額に對する比率を求むれば次表を得る。

英國及び屬領を含む英帝國への輸出額は約八千二百七十萬濠磅に達し、總輸出額の約六五%を占め、英國のみにても輸出額約六千七百萬濠磅五二%の巨額に達し、濠洲輸出市場としての英國の重要性、濠洲の對英依存度を最も明白に物語つてゐる。之を濠洲がその輸入の約六〇%を英帝國に、約四〇%を英國に仰ぎつある事實と併せ考へると、濠洲と英本國との經濟的紐帶の如何に强固緊密なるやを知る事が出來る。

更に國別に觀れば壓倒的地位を保有する英國に次ぐ重要市場は、日本、佛蘭西、白耳義、米國、獨逸、伊太利の順位である。

最近の對日輸出は諸種の政治的經濟的理由により逐年減退の一路を辿りつゝあつたが、猶英國に次いで世界第二の輸出市場たるの地位を保持したる事實は、一面濠洲に對する日本市場の重要性を明示すると共に、他面濠洲の物資が

第603表　仕向國別輸出額及びその總輸出額に對する比率

（最近5年間1934—35乃至1938—39平均但し金を除く）

	濠磅	%
英本國	66,936,881	52.23
其他英帝國		
新西蘭	5,498,563	4.29
加奈陀	1,911,106	1.49
馬來	1,656,450	1.29
印度	1,147,919	0.90
其他	5,550,854	4.33
小計	15,764,892	12.30
英帝國合計	82,701,773	64.53
日本國	10,045,610	7.84
佛蘭西	7,694,255	6.00
白耳義國	6,799,452	5.30
米國	5,261,062	4.10
獨逸	3,081,696	2.40
伊太利	2,174,393	1.70
那威	1,612,608	1.26
印蘭	1,336,965	1.04
其他	1,185,945	0.93
合計	6,274,870	4.90
	128,168,629	100.00

如何に日本經濟にとつて重要性を持つてゐるかを物語るものと云へよう。

英帝國中では新西蘭、加奈陀、馬來、印度等が重要輸出先であり、對新西蘭輸出が特に多額に達する。新西蘭への主要輸出品は、濠洲製造工業の製品であつて、將來濠洲製造工業の發展と共に、對新西蘭輸出は益々增加すべき趨勢にありと云ひ得る。

第三節　輸出品

濠洲の主要輸出品は、原始産業の生産物特に農牧産品なることは、既述せる處であるが、之を商品別に分類すれば次表を得る。

云ふ迄も無く、輸出品の王座を占むるものは羊毛であつて總輸出額の三五%に上り、之に小麥及小麥粉を合すれば、輸出總額の約五〇%を占めてゐる。濠洲が「羊毛の國」と呼ばれ、羊毛小麥が濠洲經濟の二大支柱であり、この二大商品の輸出數量及び價額が、濠洲の繁榮を左右すると云はれる所以も容易に理解し得る處である。

金の輸出は第三位にあり、總輸出額の八・六%を占むるに過ぎないが、この金の發見こそ嘗て濠洲に多數の自由移民を吸引し、急激なる人口增加を齎して濠洲の國家的發展の端緒を作つた歷史的產物であ

マレー河傳說

夏になると河底を乾し上げる河が大方で、その數少い濠洲での第一の大河はマレー Murray だ。土人の傳說はこう云ふ。このマレー河流域に先づ最初に住んで居たのは、有名なとかげのゴアナ共だつた。其頃河と云ふのはマレーしか無かつたが、この河を創つたのがマレー鱈だ相だ。ダカラ先生が河を創る迄は水から上つた魚だつた譯だ。すると間もなく地上に大旱魃が襲來した。カンガール共が遙々このマレーに水を飲みにやつて來たのだ。所が途中で持參の水を飲み盡し、燒け付く樣な飢渴に一步も進めなくなつた。其處を通り合せたのがゴアナの妻君の小鴨、水は無いかと訊ねられての話によると、其妻君達も實に其事で頭を惱して居るのだとの事だ。亭主のゴアナ達は何處か山の中で祕密の泉を知つて居るらしいが何處の亭主も同じで、自分丈けの爲めに隱して妻君に知ら相ともしないのみか、折角の水も喧しく使用を制限されて弱り抜いてるのだと泣事を並べた。そこでカンガルー君達が同情にかこつけて口說き落しに掛つた。カンガルー先生、あれで仲々魅力があるが、ご亭主のゴアナ君は容貌徒らに怪異な斗りで一向男前ではない。妻君はわけ無く參つて終つて、それでは一つ何とかやつて見ませうと云ふ事になつた。統領ゴアナの妻君は直ちに山へ登つて行き妖精に出會つた。妖精は彼女に對し直に引返して山裾の谷の北側へ小鴨達を全員集め彼女自身で山腹へ突き刺せよと、一本の杖を與へた。果して其の言の通り杖を差すや否や凄じい勢で水が迸り出で一條の流れとなつて大鱈ボンデ老人が創つたマレー河に合した。この新しい河がマラムビヂー Murrumbidgee だと云ふ。女房共のこの不仕末をゴアナ共が知つた時はもう既に遲く滔々と流れる河によつて彼等の夫婦の絆は斷たれた。此時以來ゴアナと小鴨とは一緒に住まぬ事になつた。

第604表　主要商品別輸出額及その總輸出額に對する比率
（最近5年間 1934—35 乃至 1938—39 平均）

		濠磅	%
1.	羊毛	48,743,513	35.25
2.	小麥及小麥粉	19,871,286	14.37
3.	金	11,911,737	8.61
4.	バター及チーズ	10,987,703	7.95
5.	肉類	10,391,492	7.51
6.	皮類	6,014,388	4.35
7.	果實	5,406,931	3.91
8.	鉛	4,057,412	2.93
9.	砂糖	3,480,353	2.52
10.	各種精選鑛石	1,564,667	1.13
11.	葡萄酒	943,800	
12.	亞鉛	868,865	
13.	鷄卵	867,719	
14.	銀	842,099	
15.	ミルク及クリーム	807,356	
16.	木材	741,467	11.47
17.	牛脂	702,541	
18.	大麥	483,146	
19.	石炭	310,425	
20.	眞珠貝	286,086	
21.	錫	250,922	
22.	其の他	8,764,629	
合計		138,298,537	100.00

次いで酪農製品のバター及びチーズ、畜產品の肉類、皮類が重要なる地位を占め、果實、鉛、砂糖、各種精選鑛石等の輸出が之に次いで多額に上つてゐる。濠洲の資源も亦種類に富むと云へよう。

第四節　主要仕向國別輸出內容

最近五年間（一九三四—三五年乃至一九三八—三九年）に於ける濠洲輸出品（金を除く）の十大仕向國は英國、日本、佛國、白耳義、新西蘭、米國、獨逸、伊太利、加奈陀、馬來であるが、是等諸國に對する輸出內容の概略を知るために一九三七—三八年度に於て、此等諸國へ輸出せられたる主要輸出品の金額、及び該商品輸出總額に對する比率を求め第六〇六表に揭げて置いた。

第605表　主要仕向國別輸出額の趨勢

	1937/8年	1934—35年乃至1937—38年五ケ年間平均
英國	55.52%	52.23%
日本	4.16	7.84
佛國	7.29	6.00
白耳義	4.01	5.30
新西蘭	5.02	4.29
米國	2.39	4.10
獨逸	3.11	2.40
伊太利	1.87	1.70
加奈陀	1.59	1.49
馬來	1.46	1.29

勿論かゝる數字を算出する場合には、五年或は十年の平均數字を求むべきなれども、計算の煩瑣なる爲、杜撰の譏を免れぬが、上述の如く一九三七—三八年一年間の數字につき算出する。これについて次の如き特殊事情に留意する必要がある、卽ち一九三七—三八年中の日本、白耳義、米國への商品輸出額（金を含まず）は著減せるに反し、他の諸國への輸出は增加した點であつて、一九三七—三八年に於ける上述十大仕向國への輸出額（金を含まず）の濠洲總輸出額に對する比率、及び一九三四—三五乃至一九三八—三九年五年間平均のそれとは第六〇五表の如き差異がある。

第606表　1937—38年に於ける仕向國別主要商品輸出額、及び該商品の濠洲總輸出額に對する比率
（國名の次の金額は總輸出額）

1. 英國——86,360千濠磅			
	羊毛	20,248千濠磅	43%
	小麥及小麥粉	15,344	57
	バター及チーズ	10,764	93
	肉類	10,700	87
	金	7,700	48
	鉛	4,679	95
	果實	4,468	74
	砂糖	3,326	83
	皮類	1,571	25
	精選鑛石	1,090	48
	葡萄酒	862	91
	卵	697	99
2. 日本——5,900千濠磅			
	羊毛	4,028千濠磅	9%
	小麥	699	3
	皮類	325	5
	屑鐵	214	100
其の他、亞鉛、鉛、鐵鑛、牛肉、牛脂、高瀨貝、カゼイン等			
3. 佛國——11,056千濠磅			
	羊毛	7,111千濠磅	15%
	皮類	2,200	36
	小麥	874	4
	金	733	5
其の他ウルフラム鑛、各種精選鑛石			

4. 白	耳　義——5,686千濠磅		
	羊　毛	4,783千濠磅	10%
	皮　類	170	3
	各種精選鑛石	353	15
	其の他大麥、鉛、果實、小麥、銅、ウルフラム鑛、木材等		
5. 新	西　蘭——7,110千濠磅		
	金屬製品機械類	2,150千濠磅	23%
	小　麥	917	4
	衣類織物類	512	94
	木　材	351	27
	藥品、化學藥品	342	45
	其の他紙文房具、醫療科學器具、果實、ゴム及皮革、陶器、ガラス、石炭、煙草等		
6. 米	國——10,860千濠磅		
	金	7,473千濠磅	47%
	皮　類	1,478	24
	精選鑛石	588	26
	羊　毛	409	1
	其の他眞珠貝、鑛石等		
7. 獨	逸——4.410千濠磅		
	羊　毛	3,877千濠磅	8%
	皮　類	175	3
	其の他林檎、ユーカリ油等		
8. 伊	太　利——2,644千濠磅		
	羊　毛	1,847千濠磅	4%
	小　麥	763	4
	其の他牛脂、皮類等		
9. 加	奈　陀——2,250千濠磅		
	砂　糖	682千濠磅	17%
	羊　毛	572	1

	果　實	588	10
	其の他牛脂、バター、酒類、皮類等		
10. 馬	來——2,064千濠磅		
	小　麥　粉	634千濠磅	11%
	ミルク及クリーム	565	59
	其の他金屬機械類、肉類、バター、酒類、果實等		

英國市場の重要性は既に指摘せる處であるが、上表によつて更にその認識を深め得るであらう。

第五節　東亞諸國への輸出

最近五年間（一九三四—三五乃至一九三八—三九年）平均東亞諸國（英領ボルネオ、緬甸、セイロン、支那、佛印、香港、印度、日本、關東州、馬來、滿洲國、蘭印、比島、泰國、葡領チモール、印度に於ける佛及葡領）への輸出額は千八百八十萬九千濠磅であつて、

第607表　東亞諸國向商品別輸出額
（1934—35, 1938—39平均）

	濠磅
羊毛	7,992,290
小麥及小麥粉	5,256,614
バター及チーズ	644,475
亞鉛	566,314
ミルク及クリーム	524,251
肉類	353,451
牛脂	216,820
毛皮、獸蹄、角、骨及獸筋	199,826
屑鐵	193,695
果實	191,193
小兒及病人用食物	187,700
鞣革材	147,931
木炭	124,302
石馬鈴薯	105,482
鐵鑛	103,704
其の他商品	100,533
輸出商品合計	1,255,029
正貨及金銀地金	18,163.607
輸出總額	643.355
	18,806,962

第608表　東亞諸國への國別輸出額（金を除く）

仕向國	1934—35	1935—36	平均
日本	£A12,095,514	£A17,661,232	£A10,045,610
馬來	1,315,822	1,263,526	1,656,410
支那	2,472,262	1,212,821	1,612,608
緬甸			
印度	961,832	1,301,206	1,489,282
セイロン			
蘭印	1,182,329	1,274,195	
香港	715,994	624,663	733,520
滿洲國(註)	1,613,775	839,815	570,043
比律賓	324,053	553,311	532,499
泰國	58,660	100,959	102,957
その他	50,361	50,833	70,908
合計	£A20,790,602	£A24,882,561	£A18,151,694

仕向國	1936—37	1937—38	1938—39	平均
日本	£A 9,705,738	£A 5,900,098	£A 4,865,469	£A10,045,610
馬來	1,727,956	2,063,740	1,911,009	1,656,410
支那	842,963	616,520	2,918,476	1,612,608
緬甸				
印度	1,468,432	1,467,340	2,247,598	1,489,282
セイロン				
蘭印	1,395,183	1,464,379	1,373,197	1,337,857
香港	803,010	1,048,833	475,099	733,520
滿洲國(註)	142,427	190,747	63,450	570,043
比律賓	666,733	619,504	498,893	532,499
泰國	118,291	117,382	119,494	102,957
その他	68,299	103,267	81,778	70,908
合計	£A16,939,032	£A13,591,810	£A14,554,461	£A18,151,694

（註）關東州を含む

同期間平均濠洲總輸出額一億四千二百十八萬八千濠磅の一二%に當り、英帝國屬領への輸出よりも稍多く、その構成商品は次の如くである。

即ち羊毛(一六%)、小麥及小麥粉(一六%)、バター及チーズ(六%)、亞鉛(六五%)、ミルク及クリーム(六五%)、肉類(三%)、牛脂(三〇%)等が主要なるものである。（括弧内は東亞諸國への輸出額の濠洲總輸出額に對する比率）

次に最近五年間の國別輸出額の推移を見れば次の如くなる。

對日輸出額は東亞諸國への總輸出額の五五%を占め、日本は東亞に於ける濠洲の最大の顧客であつた。之に次ぐものは馬來、支那、印度、緬甸、セイロン、蘭印等であるが、輸出額は何れも少額で日本とは比較すべくもない。

對日輸出は羊毛、小麥、皮革等を主とするが、その輸出額は一九三五—三六年を絶頂として爾來逐年減退した。之は世人の記憶にも猶新たなる如く、一九三六年（昭和一一年）五月、濠洲政府が突如として發表した所謂「貿易轉換政策」に基づく、日本織物に對する禁止的輸入稅の賦課、これを導火線として惹起せられた日濠通商戰、その結末たる日濠間暫定通商協定に規定せられたる日濠貿易の量的制限、並びに日支事變勃發による日本の輸入制限等一連の人爲的諸理由に因るものである。

馬來への主要輸出品は食料品で、特に多額に上るものは小麥粉、煉乳及クリームである。近年馬來への輸出は着實な增加の傾向にあつた。

對支輸出も食料品を主とし、小麥及小麥粉が獨占的地位を占め、對支輸出の消長は縣つて是等二商品輸出の增減にあつた。

印度への輸出品は金屬、各種食料品、羊毛等であり、セイロンへは食料品が多く、小麥粉、煉乳クリーム及びバター等が頭角を現してゐる。蘭印への輸出もその殆んど全部が食料品であつて、小麥粉及びバターが壓倒的多額を占めてゐる。

香港への輸出品で相當多額に上つたものは小麥粉、鞣革、バター、白檀である。

上記せる處にて明らかな如く、東亞諸國中濠洲工業原料品を多額に輸入しつゝあつたのは日本のみであつて、他の諸國は主として食料品を輸入しつゝあつた。この事實は將來是等諸國との交易上留意すべき點であらう。

第三章　輸　入

第一節　製造工業と輸入

濠洲は羊毛、小麥を主要產物とする牧農國であつて是等の原料物資を英國始め他國に輸出しては製品を輸入せねばならぬといふ極めて外國貿易依存度の高い國である。

之が爲に第一次歐洲大戰が勃發するや物資の輸入は杜絶し國民は擧げて物の不足に脅かされ國內製造工業設立の必要が痛感されるに至つたのである。元來人口寡少にして天然資源の豐富な濠洲は社會勞働立法の發達と相俟つて勞銀高、原料高といふ不利な生產條件が禍ひして生產費は常に國際水準を拔いて居り、大規模な製造工業の發展は希求し得ず、製造工業そのものは國內需要に應ずる程度の小規模のものであつた。夫れも政府による高率輸入關稅の設定或は有色人勞働者の入國禁止等で手厚い保護を受けて來た結果近年に於ては斯業は相當程度の進展を示してゐる。因みに濠洲製造工業界の總生產高は戰前の一九一二年度に於ては一億四千八百七十七萬磅であつたが、一九三三—三四年度には三億三千三萬磅と上昇し、一九三七—三八年度には四億九千八百七十七萬磅と飛躍を遂げて居る。

この發達は重工業を中心に有らゆる輕工業に亘つて見られ、今や國內自給の域に達して居る製造工業も尠くない。

ペリカン

嘗て此の地上に一滴の水も失くなつた事があつた。と、土人の傳說は語り傳へる。動物達が全員評定を開いて此旱魃の原因を究めた結果巨大な蛙が飲み乾したからだと判つた。水を取り戻すに此の大蛙を笑はせるより外に方法がないのだ。次から次と動物達は大蛙を笑は相と努力したがあれもこれも皆駄目だ。最後に鰻がのたうち廻つた。これが何うした加減か馬鹿に可笑しかつたと見えて大聲で笑ひ出した。彼が口を開けるや否や大きな水の流れがドツト斗りに迸り出た。やがて大洪水となり夥しい人と動物が溺れ死に、山々の頂き丈けが島のやうに殘つて居た。一羽の大きなペリカンが其の島から島を渡り歩き、人々を拾ひ上げて助けた。後になつてこのペリカンは、何が原因だつたか人間共と大喧嘩を始め、其の罰で石にされて了つた。

白人の子供達は赤ん坊はこのとりが持つて來て吳れるのだと教へられるが、アボリヂンにはペリカンが祖父や祖母を持つて來て吳れた。

魔法使

人は死ぬると魂魄地上に止り、やがて再び人間に生れ變る順番を待つて居るのだと、土人は信じて居る。

善と惡との靈が絶えずその邊りに彷徨して居る。だから魔法使ひに良い祈禱して貰つて機嫌を取らねばならぬのだ。實際魔法使ひが彼等土人社界で占めて居る役割は非常なもので、土人の一言一行悉くが魔法使ひの支配を受けるのだ。

彼等の信ずる處によると雹は虹の卵である。この卵が土中で孵化して色の着いた蛆虫になり、蛆虫はやがて虹になるのだと云ふ。

魔法使ひが土人を殺さうとする時には別に双物の如きを使はない、只魔法の杖を相手方に向け杖の中へ色々な呪文を唱へ込めば良いのだ、時によると哩數も離れた地點に居る者でも、ころりと倒れて、その儘死ぬと云ふ。呪文を吹き込むと魔法の杖は彼の生き血を吸ひ取り盡して死に到らすのだと信じて居る。

第609表　仕入先別輸入額及びその總輸入額に對する比率

最近五ケ年間（1934—35乃至1938—39）平坪但し金を除く

國別	輸入額	總輸入額に對する比率
	英磅	%
英國	37,966,936	42.53
加奈陀	6,261,772	6.91
印度	2,839,465	3.22
新西蘭	1,529,688	1.72
セイロン	899,282	1.03
馬來	765,540	0.85
其他	2,383,945	2.63
英帝國合計	52,646,628	58.89
日本	4,608,211	5.26
佛國	902,172	1.02
白耳義國	790,484	0.87
米國	14,061,642	15.74
獨逸利那	3,401,357	3.76
伊太利	588,403	0.65
支那印度	553,695	0.63
蘭領東印	6,029,006	6.69
和蘭	620,974	0.70
其他	5,192,579	5.79
計	89,395,151	100.00

斯くして製産部門の擴充につれ輸入貿易は質的にも推移を見せ、輸入製品は、完製品から半製品へ、製造工業に必須なる資材へと顯著なる轉換を示して居る。

以下是等の輸入製品を仕入國別に項を分ちて述べる事とする。

第二節　輸　入　先

濠洲が必要とする物資を如何なる方面から輸入して居るかその輸入額及び總輸入額に對する比率を各國別に見れば前表の如くである。

卽ち第二次歐洲戰爭勃發以前の過去五箇年平均濠洲輸入貿易年額は約八千九百三十九萬英磅であり、英帝國から輸入は約五千二百六十五萬英磅に達し總輸入額の約五九%を占めてゐる。

第三國からの輸入は常に米國が第一位で約一千四百萬英磅全體の一五・七四%を占めてゐる。次は蘭印、日本、獨逸の順位となつてゐるが何れも五百萬英磅前後であり米國とは大差がある、日本からの輸入額は約四百六十一萬英磅に上り總輸入額の五・二六%を示してゐるが年により消長あり一九三五—三六年度に於ては約五百萬英磅近くに達したが翌年には日濠通商紛爭の爲輸入は約一百萬英磅の減退を見た。一九三七—三八年に至りては約五百三十五萬英磅に回復したが一九三八—三九年に入りて再び四百十萬英磅と減少を示したのである。また蘭印からの輸入額は一九三四—三五年に於ては約四百四十萬英磅であつたが、一九三七年七月以降漸增して七百萬英磅以上に達した。

人間と氣候

白人の經驗によると南方熱帶圈と云ふものはいけない熱帶白人が出來る、氣候と文明は非常に影響があつて、人間の精神的團體的活動は大體哥氏の三〇度前後で、人智が一番活潑に發達する爲めに更に條件がある。それは濕度の關係と氣候の變化が問題になるので大體暴風雨の無い樣な所はいけない。暴風雨があつて氣候が變化して來るやうな地帶が必要なのであつて左樣な地帶を世界に求めると、一つは西歐洲の地帶、一つはアメリカの中部地帶、一つは朝鮮、日本、滿洲の地帶、殘る一つは南濠洲だと云ふのである。昭南島に永年居住した或日本人の體驗を聞くと年から年中白い服を着て居るためか記憶と記憶との間の時間的關係が分らなくなる相だ。

他の纖維製品類で金額にして約一千八百四十萬英磅、全體の二割を占めてゐる。

唯此處に注目すべきは一九二二—二三年迄は衣類、織物其他の纖維製品類が第一位を占めてゐたのがその後金屬、同製品及び機械類が之に代つてゐる。また織物、纖維製品類の輸入額は略々毎年大同小異であるに反し金屬、同業品、機械類の輸入は增加の一途を辿つてゐる。石油を主とする油類の輸入額は約七百五十六萬英磅で全體の八分を占めてゐる。

一九三四—三五年より一九三八—三九年に至る五箇年間平均商品別輸入狀況は第六一〇表の通りである。

第四節　主要仕入國別輸入内容

前記最近五年間に於ける十大仕入國を輸入額順に見れば英國、米國、加奈陀、蘭印、日本、獨逸、印度、新西蘭、セイロン、佛國であり、此等諸國よりの輸入比率は總輸入額の八割八分を占めてゐる。

表611表　1937—38年度に於ける仕入口別主要商品輸入額

（國名の次の金額は總輸入額）

	英磅		英磅
1英國	46,226,985	アルコール性飲料	625,655
機械類及金屬製品	21,174,615	眼科外科及び科學機械	509,818
衣類織物糸類	12,288,251	ペイント・ワニス	372,298
紙文房具類	3,367,801	動物性食料品	286,568
醫藥品化學藥品	2,056,472	寶石及び雜貨	275,796
陶磁器ガラス類	998,637	ゴム及び革製品	253,378
	英磅		英磅
2米國	17,759,175	煙草（原料）	1,859,645
自動車及び部分品	2,941,733	石油（精）	1,081,345
動力用機械	2,287,069	機械類	1,067,326

第610第　主要商品別輸入額及びその總輸入額に對する比率

（最近5ヶ年間1934—35乃至1938—39平均）

商品別	輸入額	總輸入額に對する比率
	英磅	
植物性食料品	3,581,886	4%
植物性物資	2,578,813	3
衣類織物糸纖維製品	18,372,173	20
油脂肪蠟	7,557,397	8
機械類金屬及同製品	28,067,990	30
木材椰子及同製品	2,081,862	2
紙文房具	5,757,665	6
藥品類肥料	4,665,087	5
金銀青銅	2,112,701	2
動物性食料品	1,467,209	
アルコール性飲料	682,685	
煙草	1,709,918	
生動物	184,876	
動物性物資	1,645,350	
ペイント及ワニス	536,682	
鑛石石材	673,801	20
ゴム皮革及製品	1,524,665	
セメント陶磁器硝子類	1,751,535	
寶石類時計玩具其他	1,294,462	
光學醫療科學器具	1,347,322	
其他	6,034,686	
計	93,628,765	100

第三節　輸入品

濠洲輸入貿易の王座を占めるものは金屬、金屬製品及び機械類であり其輸入額は年平均約二千八百萬千英磅に達し全輸入額の三割に及んでゐる。次は衣類織物、糸、其

	英磅		英磅
滑（鑛）油	907,811	工作機械	254,543
鐵及び鋼鐵板	788,438	工具	239,976
電氣器具	513,670	鑛山用機械	187,966
藥品化學藥品	445,042	衣類及び織物	187,856
紙文房具	390,223	計算機	175,776
フィルム	344,068	ケロシン	166,828
硫黄	341,010	樹脂	147,377
飛行機及び部分品	304,308	ペイント及びワニス	139,471
3 加奈陀	英磅 8,045,381	工具	英磅 195,258
自動車及び部分品	1,999,944	車輛（自動車を除く）	175,407
木材	1,508,452	藥品化學藥品	120,050
紙類	1,434,283	感光紙	107,088
機械類	779,811	皮類	104,797
衣類及び織物	507,950	時計	60,547
罐詰魚類	379,998	石棉	56,060
4 蘭印	英磅 7,530,509	其他石油	英磅 264,221
石油	4,253,784	ゴム（生）	213,095
茶	1,564,387	麻	142,386
ケロシン	393,523	蠟	42,011
重油	300,728	珈琲	25,828
5 日本	英磅 5,349,087	機械及び金屬製品	英磅 187,350
絹人絹布	1,510,019	玩具其他雜貨	162,532
綿布	888,497	陶磁器	147,774
生糸	577,495	紙及び文房具	142,464
其他織物	490.364	綿糸人絹糸	85,145
衣類	208,122	硫黄	80,422
魚類	200,843	硝子器類	51,852

	英磅		英磅
6 獨逸	4,170,624	紙文房具	262,435
機械類	1,001,093	絹織物	219,156
金屬製品	635,235	陶磁器及硝子器	200,822
醫藥品化學藥品	498,487	手袋	133,606
光學及科學機械	263,287	時計	105,490
7 印度	英磅 3,077,616	棉花	英磅 128,390
袋類	2,058,216	茶	69,173
麻布	415,355	黃麻	46,489
亞麻仁	300,257	ゴム及び樹脂	36,692
皮類	202,630		
8 新西蘭	英磅 1,990,185	種子	英磅 74,702
羊毛	569,146	馬	54,746
金塊	281,536	金屬及び機械類	49,556
皮類	281,093	豌豆豆類	48,917
魚類	179,923	亞麻大麻	47.769
木材	178,639		
9 セイロン	英磅 890,035	ゴム	英磅 170,076
茶	680,985	椰子纖維	10,643
10 佛國	英磅 964,554	オリーブオイル	英磅 61,755
衣類	140,617	別珍	54,170
絹織物	82,991	アルコール性飲料	52,800
機械及び金屬製品	63,465		

次に是等の輸入製品に付詳述すれば、先づ輸入額の最も多い金屬、金屬製品及び機械類に在りては機械類の輸入は一千五百二十九英磅、金屬及び同製品は三千七百二十八萬英磅となつてゐる。この部門に於て目立つのは自動車々體及同部分品、電氣

第612表　東亞諸國よりの國別輸入額(英磅)

	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38	1938—39
支那	364,127	657,178	683,742	601,870	461,559
香港	22,677	26,713	40,143	37,022	35,567
印度、緬甸、セイロン	3,336,684	3,692,869	3,986,266	3,988,581	3,736,288
日本	4,624,740	4,969,571	4,004,465	5,349,087	4,093,191
馬來	561,844	488,254	852,282	1,022,899	902,419
濠洲國(關東洲を含む)	3,906	8,156	20,853	16,106	14,887
蘭印	4,390,327	4,928,025	6,176,385	7,530,509	7,119,785
比律賓	79,885	92,619	110,231	123,466	120,774
泰國	1,879	6,403	2,609	6,870	3,010
其他	74,423	83,993	42,039	143.047	190,109
計	13,460,493	14,953,781	15,919,015	18,819,457	16,677,589

るもので香水、白粉其他化粧品の輸入類は約二十三萬五千英磅である。動物性食料品中では冷凍、乾製、燻製魚類が第一位を占めて約一百二十三萬英磅の輸入額を示してゐる。主に罐詰蟹、鮭、蝟牡蠣類であるが濠洲自體熱帶濕滯兩魚は豐富である。唯獸肉が安價にして容易に入手出來るため未だ魚肉に對する需要は充分でない。

輸入額第七位の動物性物資では牛馬羊兎皮羊毛は主に新西蘭からの輸入であり之は再輸出用と見做される。其他生糸、ガット、獸毛があげられる。木材及び其製品に於ては軟質材の輸入が多いが之は濠洲産木材が硬質材であつて輸出してゐる反面、軟質材を加奈陀、新西蘭から迎いてゐるからである。

第五節　東亞諸國からの輸入

一九三九年六月末に終る過去五年間の東亞諸國からの輸入額は年平均一千五百九十六萬英磅に上り濠洲總輸入額の

器具類、ボイラー、エンヂン等の動力機械及び鐵板、工作機械等である。第二位を占める衣類織物、糸類及纖維製品類に於ては織物の輸入が斷然多く金額にして千五百六十二萬英磅、糸類及び纖維製品が三百三十九萬英磅、衣類は約二百萬英磅である。

織物の中では染、捺染、晒、生地絹布、絹、入絹布、カッペト、リノリウム、オイルクロス、マットが主なるものである。衣類では飾紐、緣取り其他裝飾品、手袋、靴、ボタン類、大人子供用外衣が大口のものである。また糸類纖維製品類に於ては粉袋、或は羊毛、野菜等を入れる袋が斷然多くこれに次ぐものに人絹絲、綿絲、ロープ等がある。油、脂肪、蠟の輸入では石油が約六百十萬英磅を占めその三分二以上を蘭印から、殘部を米國に仰いでゐる。第四位の紙及び文房具は殆んど國內消費を輸入に仰がねばならず輸入額も約六百六十萬英磅に達してゐる。之が爲近年國內製紙業が設立され新聞用紙の自給化に努めてゐるも輸入の主なるものは新聞用紙、包裝紙、板紙類で、文房具では書籍雜誌新聞、樂譜等が擧げられる。次は醫藥品、化學藥品及肥料類で此の中では肥料（天然のものを除く）硫黃、藥、ソヂウム、染料、粗酒石等が主な

スープ皿

空家濠洲、頭上には英國旗が翻て居る、と米空人ゼームス・オローフナル男がうまい事を云つた。面積三〇〇萬平方哩、氣候は溫滯から熱帶に亘り土地は肥沃で、比類なき牧場と無限の鑛物資源がある。而も僅々七〇〇萬人が住み、誠に植民無き植民地であり、無人の大陸である。ローヤル・メール便で空路シドニーに行く。スエズ、アフリカ、印度洋を飛んで濠洲海岸線を最初に望むと、大陸を形成する低い山々の向ふは廣大な溟れた水盤の如く平地が見える。幾百哩海岸線には殆んど人が住んで居ない。而もこの附近の氣候は南佛スペイン、イタリヤ、ギリシヤ卽ち世界の偉大な文明を有する國々の氣候と相似て居る。唯南氷洋から吹付ける風と溫度の急變があるのが違つて居るのみである。と彼が云ふのだ、或人は濠洲大陸をスープ皿に譬へた。皿の周圍丈けに辛うじて人が住んで居るが內部は凹んだ無住地帶で沙漠すらある。誠に勿體ない話ではないか。

一割七歩を占めてゐる。一九三八―三九年度に於ける主なる仕入先は蘭印から石油、其他油類でその金額約七百十二萬英磅に上り第一位を占めてゐる。次で日本からの絹、人絹布、綿織物、生糸、纖維製品其他雜貨類で金額にして約四百萬英磅である。また印度、緬甸、セイロンからは袋、麻布、亞麻仁、皮革類、棉花、茶を輸入しその金額約三百七十五萬英磅に達してゐる。その外支那、香港、馬來、滿洲國、比律賓、泰國等からも輸入はあるが何れも少額である。一九三四―三五年以降一九三八―三九年に至る東亞諸國々別輸入狀況は第六一二表の通りである。

上記五年間平均の三大仕入國別輸入比率合計は東亞諸國總輸入額の約九割を占めて居る。即ち蘭印の三八%、日本二九%印度緬甸セイロンの二三%となつて居る。唯日本からの輸入は著しい推移がないのに反し蘭印からの輸入額は一九三六―三七年以來膨張してゐる。之は國際關係を繞る國家的措置に因るものと云へる。

第四章　關税と對英特殊關係

人口過少にして天然資源の豐富な濠洲の平時に於ける主なる經濟政策の要諦は各政黨の政策手段こそ異なれ自國人口の增加、資源の開發、工業化に在つたのであるがその物に今日迄種々なる方法、手段が實行せられて來た。曰く移民制限法、航海法、產業奬勵等枚擧に遑なき狀態であつたが、殊に朝令暮改を以て有名なる輸入關税が濠洲內產業を兎に角今日迄の狀態に導いたのである。

元來濠洲が一九〇〇年に濠洲聯邦政府として統一せられる迄は各州は各々獨立的存在であり、而も各州間に相當の

軋轢と反目とがあつたものを同年後外交、郵政、關税を聯邦政府の管掌に移したが爲に各州間に存在してゐた關税の如きは撤廢せらるゝ事となつたのである。然るに當時ヴィクトリヤ州の幼稚產業が此の結果破壞せられない樣に濠洲聯邦の關税政策は部分的にせよ產業保護の色彩を帶びざるを得なかつたのであるが、新政府としてその上に國家財政の財源をも關税或は消費税に求める以外に方法が無かつたのである。

更にこの關税を高率ならしめたのは內外徵税から得る全收入の四分の三は之を各州へ分讓せなければならなかつたので聯邦政府の豫算額は夫の三倍を必要としたのである。

一九〇二年の關税では一面國內產業を保護し他面財政關税の目的をも加へて約八百萬磅の關税收入を獲んとした妥協的のものであつた。乍然この關税政策はニュー・サウス・ウェールス州の自由通商主義者とヴィクトリヤ州の保護主義者との双方を滿足せしめ得なかつた。處へ勞働黨の出現から財政收入よりも寧ろ保護關税が統治上の主眼となり結局一九〇七―〇八年の關税改正はなかつたが、唯其間第一義者の勝利となるに至つたのである。

之と同時に對英國品の特惠が法文化され或程度の保護政策は各政黨共默認し且つ實行する所となつた。爾來英國品に對する特惠は維持され强化されて來たのである。尤も其後一九二〇―二一年迄は一般的關税改正はなかつたが、唯其間第一

シドニー

シドニーは實に堂々たる都市である、幾百萬の人口を有する――實際は人口一二〇萬であるが――都市は忙し相だ。米國化した建物が多數あり、地下鐵もある。自動車の流れ殊に米國製高級車が無數に目につく、我々はこの都市の背後地に幾百萬の人口を持ち、無數の都市や町や村の點在する地域の首都であると想像するが、後でこれは間違ひである事が分る。シドニーは唯建物と正面であるに過ぎなくて背後には空つぽの大陸が横はつてしか居ないのだ。

次歐洲大戰中に膨張した財政の財源として又々關稅が俎上に登り關稅率引上げが行はれたのである。其上大戰中所謂 The Protection afforded by distance により獨逸品が市場から消えた上に、英國品、佛蘭西品等が高價となつた爲に又國內產業の擴張或は勃興（製鐵鋼、ペイント、セメント、自動車車體組立等）となり休戰後英國投資企業が國內隨所に設立せられた狀態であつたから相當巨額の資本が流入した模樣である。

斯くの如く國內產業の勃興は海外殊に第三國よりの競爭排除を要求し、一九二〇—二一年關稅改正の如きは國內產業保護の見地と英國品特惠とを兼ねて同稅率は全面的に增加引上げられるに至つた。之が所謂 Packer Scale 關稅の嚆矢であり英國特惠稅率、中間稅率、一般稅率の三段構への防禦陣である。

然るに斯かる產業保護政策は徒らに工業家の偏愛となり一般大衆消費層並に濠洲主要產業人たる農牧業者の利害を考慮しないものであるとの批難が起り之が一九一七年及び一九一九年に於ける自由黨による關稅局 Tariff Board 設立の提案となり結局一九二一年之が設立を見たのであつた。

この關稅審議會は一九二五年の關稅改正に際して大いに活躍する所があつたが結局目立つた効果を齎さず一般的に前關稅率を踏襲したるに過ぎず英國品特惠は維持乃至增加され一般輸入稅率の一部に引下げを實行したけれども全體的に見て保護の關稅障壁は高められる事になつた。

續いて世界恐慌の嵐が吹き捲つた一九二九年にスカーリン內閣が思切つた高率輸入稅政策を採用するに及んで喧々囂々として反對論が擡頭する事となつた。卽ち經濟學者二名、統計學者一名、メルボルン市株式取引員一名計五名から成る非公式委員による關稅調査報告書中に「濠洲の現行輸入關稅障壁が齎らす國民經濟への重荷は今や恐らく經濟學

的限度に達して居り之以上の增加は國民生活を破壞せん」と警告する所があつた。

乍然海外借款の中止及び輸出貿易の不振が濠洲貿易尻を極度に惡化せしめた結果一九三〇年（昭和五年）特別輸入稅率が課せられ或種の輸入品は事實上の輸入禁止を受けたのと同一の結果となつたのである。

斯くて一九三二年のオッタワ會議となつたのであるが抑々一九二八—二九年（昭和三—四年）に各國を襲つた世界經濟不況は必然的に世界貿易を停頓萎縮せしめ輸出と海運收入と海外投資利益とを以て其輸入資利金に充當してゐる英國には一大痛心事であつたに相違ない。之がオッタワ會議開催の動機であり、一九三二年（昭和七年）七月廿一日加奈陀オッタワ市にて英帝國經濟會議開催に當り前チヨージ五世帝の演說中に窺知し得らるる如く英帝國民の福祉榮榮の增進を會議開催の主眼としてゐるのである。

オッタワ會議の成果を摘出すれば

① 英帝國內に於ける通商の促進
② 關稅行政
③ 第三國との通商關係
④ 金融並に幣制

日本人

糧は敵によるべしと、古今兵法の鐵則であるのだが糧を敵にたより切れないのが日本人だ。あれ丈食糧豐富な國に居乍ら豆腐が食べたいから豆腐を造へる機械を送れとか、やれ味噌が品切れになつたとか醬油が足らぬとか云つて來るのだ。日本船が來ると出掛けてよく御馳走になり故國の味を滿喫したものである。拔て去る時さる男船で無心を云つて「卯の花」を貰つて歸らうとして稅關に引つ掛つた。「それは何であるか」と訊ねられて突嗟に It's empty（これはからである）と答へた。然り「卯の花」に別名「おから」である、蓋し一世の名譯だがその稅關吏洒落を解したか否か。

⑤　經濟的協調策、等決議せられた所は多々あるが本稿では①の一部分たる同會議に於ける英濠通商協定のみを記す事にしよう。

該英濠通商協定こそ英濠間通商に新機軸を印するものであり濠洲に對し英國が向ふ三箇年間卵、鷄、バター、チーズ其他の酪農製品果物等の無稅輸入を保證し、上記同種商品の第三國輸入に對しては或程度の輸入稅を課する事にしたのである。また英國は世界物價水準を超へざる價格で取引される限り濠洲小麥、銅、鉛、錫の無稅輸入を認め葡萄酒、砂糖に對しても差別的特惠附與を承認するに至つた。

尙第三國から輸入される或る種の商品につきても濠洲の同意なくしては英國は輸入稅從價一割の引下げをなし得ないと定め、冷藏羊肉、仔羊肉、牛肉の輸入につきても濠洲にとりて有利に規定される處があつたから自治領濠洲は英國を廣汎なる輸出市場として保證を與へられたのである。

而して互惠的に濠洲が英國に讓歩したものは英國品に對する特惠關稅の設定であつた。當時英國の對濠輸出貿易は極めて不振であり英國の一大關心事であつたが一方濠洲に取りても輸入を抑壓するに非らざれば國家財政の基礎を危くするの慮もあつたので、結局英濠通商改善の緊急策は對英特惠率と一般稅率或は中間稅率との幅を擴める事に依りて行はれ英國對濠輸出力の强化にも迎合する所があつた。

而して此の英濠協定に對して何處迄も忠實たらんとして濠洲は國家財政の許容する範圍に於て附加稅の引下げ乃至撤廢を斷行し、或は國內市場に於て英國品が第三國品との競爭上にも有利になり得る樣出來得る限り特惠公式 Preference Formula を採用して英國製造家を援助する所があつた。

このオッタワ協定は一九三二年一〇月に提案された新關稅法案に依つて濠洲內で先づ其緖に着き一九三二年の關稅法で具體化された。

また同時に所謂爲替調節關稅法なるものが制定されて濠洲貨幣價値が下落したが爲に貨幣價値の高い國の商品に對して不當な保護を國內產業に與へる事を避けた。尤もこの適用を受くるのは對英特惠の待遇を受ける國丈けである。參考迄に記すれば Rural Bank of N.S.W. の經濟顧問たる J.G. Crawford 氏が一九〇六—三三年間濠洲輸入稅率改正に伴ふ推移變化を正確に測定せんと試みた結果は、一九〇六年の一般稅率を一〇〇とすれば關稅改正率指數はオッタワ會議以前の一九三一—三二年には三四四であつたのに對し同會議後は三五八に增加し他方對英特惠輸入稅率は同期間に二五五から二三九と減少を示してゐる。別言すると對英特惠率は平均六歩の引下げに對し一般率は一割六歩の增加となつたのである。更に附加稅率を双方共考慮するならば其開きは益〻增加する事となるのであるからオッタワ協定に基いて濠洲政府は第三國の大なる犧牲に於て對英特惠率を引下げた結果を示してゐる。

尙前記諸稅の外に附記して置くべきものに次の如き諸法令がある。卽ち

A　所定事項表記法

本法は一九〇五年に制定され其後一九二六年、一九三〇年及び一九三三年の三回に亘りて改正を見たのであるが①飲食料及び飲食料の製造に供せられるもの②藥品及び醫療用品③肥料④裝身具及び同製造用品⑤寶石類⑥種子及び植物⑦ブラッシュ等の商品は輸出入に際し法令の必要とする記載事項を商品又は其包裝に記入する事を目的とするものである。

B　ダンピング稅（産業保護關稅）

本法は一九二一年に初めて制定されたものであつて、其目的とする處は濠洲産業が外國品のダンピングにより脅かされる場合に關稅によつて間接的に自國の産業を保護し外國品の輸入を或程度迄防遏するために發動されるもので正常價格以下のもの、生産費以下のもの、爲替安のもの、運賃安のもの、特惠のもの、委託販賣のもの等多樣のダンピング稅を關稅審議會の調査に基き附加稅として課するものである。

C　Primage 稅

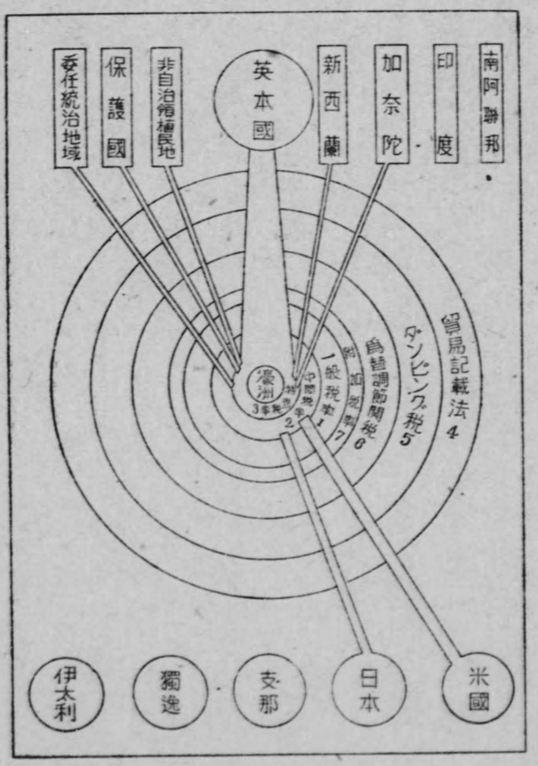
附加稅として取扱つたものが卽ち之で歲入增加の目的で一九三〇年七月に實施せられたものであつて、有稅品であると無稅品であるとを不問輸入品全般に課するものである。尤も最初は從價二分五厘の一率の稅率であつたが再びその改正により大多數の品目に對しては一割に引上げられた。本稅が正式に法律となつたのは一九三四年の Primage 稅法の制定を以て嚆矢としてゐる。本法に依れば稅率は各品目によつて異なり、四分、五分、一割の三種であるが國に依り品種により其稅率を異にし又本稅の賦課を免除されてゐるものもある。此等濠洲輸入關稅の全般を圖解を以て示せば次頁表の如くである。

斯くて一九三三年以來頻々として而も重要な輸入稅改正が行はれたのであるが、特に新關稅提案が一九三五年十一月、一九三六年三、四及び五月と相次いで行はれたのである。この一九三六年（昭和十一年）五月の關稅法こそは一時日濠通商關係を斷絶せしたるに至つた曰く附きのものであるが、之は後段に讓る事とし此の關稅法の主旨に基いて濠洲政府は佛國、白耳義、チェッコスロバキヤ、日本等と相次いで通商協定を締結する事となり其必要に應じて濠洲

は輸入稅率を適宜改正をなし、一九三七年一月一日より實施、其協定に應じて多數の關稅項目は中間稅率に振替へられたのである。

以上は主として英本國を對象とする濠洲關稅略史とでも謂はるべきものであつて日濠關稅史に就ては直接何等述ぶる所がなかつたのであるが、常識的にも考へられる樣に濠洲關稅政策の變遷は英國を離しては今日迄の所成立つ筈がなく、延いては日濠關稅史をも語り得ない立場であるから多少紙數を費した所以である。

日濠通商開けて五〇有餘年殊に一九三六年五月の濠洲關稅改正直前に於いては濠洲に取つて日本は實に好顧客であり特に濠毛の一大仕向國として重きをなす程に迄日濠貿易の著增を見たにも不拘、兩國間に通商條約すらも成立して居なかつた結果日本商品の濠洲市場への進出は減退こそ示さなかつたが絕へず關稅の引上げで脅かされ常に日本に於て不利な片貿易となつてゐたのである。特に一九三二年のオッタワ會議以來此傾向が顯著となり日



（註）日本は第一次日濠通商暫定協定成立以來中間稅率の適用ある品目に對してのみは免除される事になつてゐる。

本內地有識者の頭痛の種であつた。

然ろに濠洲から觀れば寔に大切なる客國であり更に將來性もある相手と謂ふ譯であつたのであらうか、一九三四年（昭和九年）當時の外相 Sir John Latham が派日親善使節として渡日し、翌一九三五年には答禮使として我が出淵大使一行が來濠するといふ友好の裡に推移して居たのであつた。而も同年二月一日を以て日濠通商協定の交涉が開始せられ大體順調に經過してゐたのであつたが一九三六年五月廿二日聯邦議會の最終日に於て當時の濠洲通商大臣であつた Sir Henry Gullet「政府は Trade Diversion Policy を採用するに決定した」と報告したのであつた。

扨この貿易轉換政策は謂ふ迄もなく濠洲の對外貿易を調整するのが根本の趣旨であるから

① 所謂 Good Customer Countries からの輸入を優遇し所謂 Bad Customer Countries からの輸入を制限して對外收支を整理し

② 斯くして得たる貿易尻の改善により外債の利拂資金を確保し

③ 英國品の濠洲への輸入減退傾向を抑制して其挽回を計り

④ 同時に內國產業と對外支拂輕減との

馬券屋

去る日本の紙屋さんが濠洲へ商業上の視察に出掛けたことがあつた。汽車で旅行中一人の濠洲人と乘合せた。天氣の挨拶から無聊な儘に話が彈んで來て扨て御商賣はと來たものである。所がその濠洲人は私は book-maker だと答へたのだ。book は本であり、maker は製造家である。然らばこの濠洲人を出版業者であると判斷したのは一應尤もな話だ。本屋さんなら緣續きだと慾も手傳ひあわ良くば商賣のきつかけでも摑まんものと大いにその專門知識を披歷し口角泡を飛ばせたが一向に手應へがない。全然紙なんてものの知識が無いらしいのだ。そこで「濠洲人と云ふ者は實に懶け者ごわす本屋であり乍ら紙のことを少しも知らんなんてほとほと呆れました哩」と感慨を洩したと云ふ。「ブックメーカー」或ひは單に「ブッキー」とは競馬場の馬券屋のことなのだ。

爲に自動車工業を助成し以て二重三重の政策を一擧に獲んと試みたのであつた。

勿論濠洲にとつて受取勘定となつてゐる國、例へば日本からの輸入の如きは更に其增進を計り、支拂勘定となつてゐる米國や關印からの輸入の如きを極度に制限し輸入經路の轉換を策するものであるから其主義なり或は主張なりは誠に堂々たるものでつた。

當時ガレット通商大臣の議會の演說中に於ても『濠洲第二の顧客である日本品の輸入に對しては自由に輸入を與へる方針である……日本が引續き多量の羊毛を買付ける以上日本は決して不利益なる立場に置かれるものではなく寧ろ米國から相當數量輸入せられて居るセルロイド製品の如きを日本が米國に取つて代る事も出來るのである』と日本に對して好意的取扱を爲したるが如く說明してゐるのである。

趣旨としては其通り實行する氣持があつたとしても輸入許可制度の外に、人絹布及び綿布に對する輸入稅の高率引上げをも斷行し、謂はば日本產人絹布綿布は此處に二重に輸入が制限せられる事になつた。自然濠洲にとつて第二の顧客たる日本、而も濠洲向輸出品中の大宗たる人絹布綿布の死活問題に直面した事とて別記の通り日濠通商史上に汚點を殘す日濠通商紛爭となつたのである。

此の政策實施の結果大打擊を蒙るものに米國がある。何分にも自動車々體や石油で濠洲が常に巨額の支拂勘定となつてゐるのであるから此の輸入の制限を爲す事は理屈にも叶つて居る譯なのである。然ろに濠洲には殆んど湧出しない石油は別として自動車々體に對して英國品及び加奈陀品に比して著しく不利なる取扱ひを受ける事となつた。勿論米國にとつても打擊には相違ないが米國から濠洲への輸出の上から觀て日本に於ける人絹布綿布の地位に比すべもな

い。乍然米國としても報復手段として一九三六年六月廿九日發令の『八月一日より互惠通商協定に懸る對濠各種利益撤廢』を以て對抗するに至つたのである。

この新政策は日濠通商協定と極めて緊密なる關係をもつものであるが之を次項に讓る事とし參考迄に如何に濠洲の新政策が其の表面と實際とが矛盾せるかを示す一例として日濠通商紛爭中の八月十七日に行はれた故ライオンズ首相によるラジオ放送演說を揭げて置かう。首相も實情を暴露して次の如く言つた。

"We decided to move to check the great and growing snowball of Japanese imports."

然るに一九三九年（昭和十四年）九月三日に至つて獨逸對英佛に始まる第二次歐洲戰爭勃發の結果濠洲は逸早く聯合軍側に參戰を表明して戰時經濟體制に入り、之が圓滑なる運行を期すべく廣範なる戰時法規を矢繼ぎ早に發令する所があつた。卽ち物價取締法、外國爲替管理法、外貨證券取締法、輸出品統制法、資金調整法、軍需用品の管理法等であるが殊に世界產出量の大半を占める濠洲新西蘭羊毛については軍需品としての羊毛資源の確保、敵國への流出防止、羊毛產業の保護を目的として英國は第一次大戰同樣に戰時中並に戰後一箇年間產毛の全部を一定價格で强制的に買上げる事を宣言して羊毛徵發制度を實施するに至つた。處へ交戰三箇月を出でずして聯合軍側の兵器不足は漸く問題となりその補充を第三國、取分け米國に求める必要に迫られ而も米國は所謂 Cash & Carry に非らざれば交戰國へは賣却を爲さざる事に決定したがために英帝國としては不急不用品輸入を制限し軍需品殊に米國兵器の購入資金に充當する目的を以て濠洲に於ても遂に同年十二月一日所謂輸入許可制の下に突如第三國に對し極度の輸入制限を斷行するに至つたのである。

換言すれば在外資金特に米貨資金の充實を目的としたに外ならないのである。

この輸入許可制に依れば先づ所謂 Sterling Countries と Non Sterling Countries とに區別し磅連繫國からの輸入は無制限、非磅國からの輸入に對してはA、絕體必需品、B、重要品、C、不急品、D、不用品の細別を與へ、D級品の輸入は禁止、A、B及びC級品に對しては取り敢へずの所は一九三八年七月一日より同三九年六月末迄の輸入實績金額を基準として申請に依つて輸入許可證の交附を爲す事を規定して居る。尤も英帝國領土であつても磅貨に直接連繫のない加奈陀、香港、ニューフアンドランド等は第三國と同樣の取扱を受けて所謂 Non Sterling Countries 並みである。但し輸入者と海外供給者との紛爭を避ける爲に左記の除外例を設けたのである。

A Good in Transit の場合

一九三九年十二月一日以前に貨物が對濠輸出品として工場其他の場所を離れ旣に運送途上にあるものにして商業會議所の如き權威ある機關の發給する證明書の添附あるものに限り無條件輸入を許可した。

B　發令前の註文品の場合

①A、B、及びC級品であつて發註並に海外供給者の註文引受けが十二月一日以前に行はれ一九四〇年四月三十日迄に（其後六月三十日迄に延期せらる）輸入され得る註文品に對して其數量の異常に大ならざる限り實績金額の四分の一に限り無條件輸入を許可した。但し特定の稅番に該當する一般綿布並に人絹布に對しては一九四〇年六月末迄に其輸出國より積出され同九月末迄に濠洲仕向港に輸入する場合に限り特別除外例として輸入を許可した。此特別除外例は特に發註の季節的性質を有するものなる事及び日本品が主として此恩典に浴した事を注意すべきである。

②上記①の既註文品が實績金額の四分の一を超過する場合には其超過額は該實績保有者に今後發給すべき輸入許可金額より控除せられる。

③輸入禁止品D級品目の一九三九年十二月一日以前に發註され又同日以前に海外供給者によつて引受けられたるものに對しては

a　一九四〇年三月三十一日迄に輸入手續を完了せるものに付きては其數量にして異常に大ならざる限り輸入は無條件に許可せられる。

b　其後に至つて右期間内に輸入不可能なる場合には其期間を更に一箇月延期し同年四月三十日迄と改正せられたのであるが此の場合には其金額丈けは輸入實績保有のA、B、及びC級品に對して割當てられた輸入許可金額から控除される事になつてゐるがこの控除をなすべき品目の撰擇については輸入商の隨意である。

此輸入許可制度は濠洲財政年度の中途より實施せられたのであるから左記の様に實績の月割額を標準に輸入許可金額を按配してゐる。

第一期　十二月一日―一月三十一日
　輸入許可證發給額　　實績の六分の一
第二期　二月一日―三月三十一日
　輸入許可證發給額　　實績の六分の一
第三期　四月一日―六月三十日

輸入許可證發給額　　實績の四分の一

第四期以降　第三期に同じ

而して各輸入許可期間に夫々許可證を得て該許可證發給の日附より一箇月以内に該許可證に基いて海外供給者に發註せなければならぬ規定となつてゐる。且つ或許可期から次期への繰越しは許さないために其期間中に許可證を使用しなければ無效となり一品目より他の品目への振替は勿論輸出國間の振替も禁止せられてゐる。

此の様に割當てられた輸入許可證の有效期間は許可證發給の日より六箇月間となり（其後は八箇月に改正）其期間中に濠洲仕向港に於て輸入手續を完了する事を條件としてゐる。

但し一九三九年十二月一日以前の既註文に付きては輸入商と海外供給者との往復電信或は往復通信を基準として關稅省の承認した註文品に對してのみ輸入許可證の下附があるもので、上段B項にて述べた様に輸入日限と金額の制限はあるにしても差し當りの問題として兎に角其金額に對して許可證が與へられたのである。

以上は第二次歐洲大戰の勃發に伴ふ對第三國濠洲戰時貿易政策としての輸入許可制の大要であるが、斯くして濠洲聯邦政府は參戰後第三國から不要不急品の輸入を全面的に防壓しては軍需物資の最大限輸入を計かつたが戰時經濟の確立は容易なものではなかつた。

そこで結成されたのが一九三九年末印度デリーに於ける Eastern Group Supply Council であつて濠洲、新西蘭、南阿、東阿、印度、セイロン、馬來等參加十箇國は相互間軍需物資の有無疏通方を決議する所があつた。其の後戰爭の長期間に亙るに伴ひ船舶の不足、海上危險の增大で濠洲物產の英國向輸出は極度に減退したから國内主產業の安定

化はこの一大消費市場の喪失で寔に憂慮すべき事態に逢着するに到つた。爲に國內產業の救濟策として登場したのが一九四〇年六月二十六日に於ける新英濠經濟協定であつた、同協定に依ると

①英國は濠洲主要產業の生產品を輸出可能數量の最大限迄買付ける。

②濠洲は輸出可能數量を大ならしめるため積取りに便利な樣に生產品を準備すると同時に他市場への輸出にも努める。

③濠洲は協定數量の範圍內で兩國共同勘定にて生產品をストックする。この協定數量なるものは戰時、戰後に於ける各商品の重要度に依つて決定されるものであり、又萬一產業運輸資金が必要なる場合には一部の支拂は認める。

④差當り肉類、ミルク、雞卵の三商品に付此の協定を適用する。

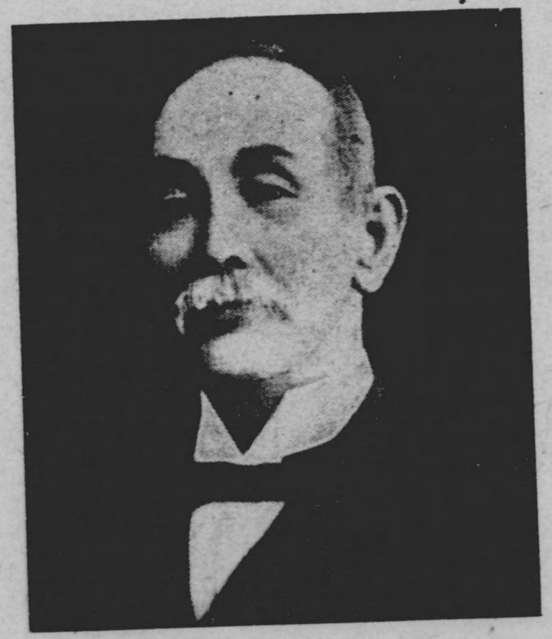
要は此等商品の生產に當つては國內消費數量、輸出可能數量、國內貯藏可能數量の三者を睨み合せて各商品の生產數量を決定せんとするもので生產數量なるものも戰時、戰後は勿論時と場合により伸縮性を有るものである。

小麥その他の穀物類、砂糖、果物についても追つてこの適用を受ける模樣である。

斯くして濠洲は對英帝國並に第三國との戰時貿易政策を樹立し專ら最後の勝利を目先して戰備の充實に邁進して來たのであるが日本對米英の國際關係は重慶政權を繞つて益々惡化の一途を辿り、延いては米英に對する大東亞戰爭の勃發を見るに至つたのである。從つて現在濠洲の通商關係相手國は米英を中心とする聯合國間であり戰時物資の交流に日夜腐心して居るのであるが運送船舶は過度に不足を來たし搗てゝ加へて我が無敵海軍の索敵必殺の大活躍は太平、印度兩洋に亙り居る折柄夫も甚だ心細いものと言はねばはらない。

第七篇

日濠交涉史



日濠貿易開拓者故兼松房次郎氏

一、緒　言

日本の濠洲に對する關心は明治・大正・昭和の過去七十年を通じて甚だ稀薄であつたと言つてよからう。日本の外交通商・文化の交涉は近くは支那及びロシヤに對し、遠くは所謂歐米先進國に對して多忙を極め、赤道を越えた南の新開國濠洲を顧みる餘裕が無かつたのである。然るに濠洲側からは十九世紀の末葉以來、日本は北方隣接の强國として恐怖の對象となり、或は濠洲農牧產品の有利な市場として希望の對象となつて常にその關心を離れたことが無かつたのである。從つて本交涉史も主として濠洲側からの觀察を記述することゝする。

二、日淸戰爭と濠洲

濠洲の日本に對する關心は明治二十七、八年（一八九四―九五年）の日淸戰爭以後の事に屬するのであるが、夫以前に一つのエピソードのあることを語らねばならぬ。それは明治十年（一八七七年）に南オーストラリヤ政府が當時その管轄下にあつたノーザン・テリトリーに日本人移民を招聘し同地方の開發をなさんと計畫したことであつて、この提案たるや單に日本人勞働者のみならず各階級の日本人の移住を求め之に完全なる市民權と土地とを賦與せんとしたものであつて、他に類を見ざる計畫であつた。本案により實際に南オーストラリヤ政府の代表者が東京に派遣せられて日本政府と交涉が行はれ日本政府も大體贊成してゐたのであつたが、時恰も明治十年西南戰爭が勃發し、交涉續行不可能に陷り本計畫は立消えの止むなきに到つた。

斯くてこの計畫は水泡に歸したけれ共、これは當時旣に喧ましかつた東洋人勞働者排斥の感情の中に、少くとも南オーストラリヤに於ては、日本人は含まれてゐなかつた一證左となると思ふのである。

明治二十八年（一八九五年）日本の淸國に對する大勝は濠洲人の日本に對する注意を大いに喚起した、それ迄は扇を使ふ男、キモノを着た女の住む無害な夢の國であつた日本は玆に「脅威の國」として大きく浮上つて來た。

濠洲は植民の初期以來常に何等かの脅威に脅かされ通しであつた、建國當初には佛蘭西に、其後は露西亞、又再び佛蘭西に、更に獨逸と言ふ風に入れ替り立替り脅かされ一八九〇年代の終りに至つて日本に脅かされ、否日本に脅ゆることゝなつたのである。不思議なことに支那は軍事的な意味で濠洲の恐怖の對象となつたことは無い、支那からの移民は濠洲社會の調和と經濟的均衡の攪亂者となると信じられてゐたのみであつた。然るに新興日本帝國は各階級の濠洲人より將來の脅威であると信ぜられた。日本はその新興の武力を以て濠洲に移民を强要するであらうと想像したのである。

禍　福

黑ん坊が福の神扱ひされるのは穴勝濠洲斗りでは無いのだが、日本人としても珍しい程色の黑い某君の如きは街を歩いて居て、ちよいと背後から觸られたりよくしたものであつた。競馬に出掛けるお神さん連にやられたものらしいが黑ん坊に觸ると、その日一日運が良いと彼等が云ふのだ。

濠洲產のオパールは乳色に濁つて居て、澄み切つたメキシコ產のものに比べて下品だが、あれは自分で買ふと不吉を齎すと云ふ。但し人から貰ふ分には一向構はないと云ふのだから御婦人方に取つては誠に都合の良い迷信だ。一本の燐寸で三人以上煙草を吸ふと不吉を見ると云ふのは白人共通の世界的迷信らしいが、或人は第一次歐洲大戰の時戰場から流行りだしたのだと云つて居る。

バナナと麥酒は食ひ合せだと戒めて居る。齒痛にアスピリンとの合言葉に他所では克く聞くが、濠洲では齒痛にウキスキーだと云ふ。

三、日英通商協定

其の頃日清戰爭の結果よりも更に濠洲の對日輿論を沸騰させたものは明治二十七年（一八九四年）の日英通商協定であつて、この協定に濠洲が參加すべきや否やの議論が濠洲各獨立殖民地間に沸騰したのである。當時國內の最大問題は其の關稅政策として自由主義をとるべきか、保護主義をとるべきかの議論であつたが、之と日英通商協定とが結びつけられたのであつた。英國は濠洲が右協定に參加するや否やは各植民地の自由としたので、濠洲內の自由貿易論者は總て之に參加すべきを說き、これによつて得らるゝ通商上の利益を主張したるに對して、保護貿易論者は本協定參加國の國民が相互に入國、旅行、居住の自由を獲得すべき旨の條項を楯にとり、この協定に參加を頑固に反對したのであつた。倫敦タイムス紙が

「人種的偏見の爲めに英國の極東政策を危殆に瀕せしむるが如き方策を取ること勿れ」

と、濠洲に忠告したるに對し、シドニー・モーニング・ヘラルド紙は

「吾人に取つては本問題は單なる感情や人種的僻見の問題では無い。實に吾人がアングロ・サクソン人として存續可能なりや否や、吾人と同化せざる人種によつて濠洲が占領せられ、吾人が吾人及び子孫の爲めに築きつゝある施設及び文化を破壞せらるゝや否やの死活問題である」

と反駁した。

實に十九世紀末の濠洲聯邦の形成時代は亞細亞人移民問題に對する政治的大論爭の時代であつて、一九〇一年に聯

邦が成立した頃には亞細亞人勞働者排斥論は大衆の支持する處となり、保護貿易論者は最初の聯邦議會に於て壓倒的多數を占め、保護主義と共にアジア人入國禁止を法制化してしまつたのである。玆に所謂「白人濠洲主義」は確立し、爾後英本國も濠洲の移民政策に對して異論を挾まず、濠洲に於ても再び問題とせらるゝことは無かつた。

四、日濠通商の搖籃時代

一八九〇年代は上述の如く濠洲の對亞細亞人移民政策の確立時代であつたと共に又近代的意義に於ける亞細亞との通商の搖籃時代でもあつたのである。

これより曩、明治七年（一八七四年）に世界の羊毛市價下落の爲、日本に新市場を發見せんと二、三の進取的な牧羊業者が小量の羊毛見本を日本に送つたことがあつたが、當時羊毛工業の未だ發達しなかつた日本よりは何等の反應も無く、其後羊毛市價の回復と共に羊毛市場としての日本は忘れられてしまつた。然し乍ら一八九〇年代に開始されたものは實需的根據もあり、今日の盛況をなすに至つた羊毛取引の濫觴をなすものであるが、日英通商協定に濠洲が參加するや否やの點はこの方面に於ても大いに問題とせられたのである、自由貿易論者、特に牧羊業者は羊毛及び其他の農畜產品の新輸出市場として日本に期待をかけたのに反し、保護貿易論者は日本市場を過少評價するか或は其の價値を認めても日本移民の洪水による白濠主義の破綻を理由に前記の商業的利益は抹殺し去つてしまつたのである。

南オーストラリヤ州及びヴイクトリヤ州政府は日本市場調查の爲調查團を送つたし、ニュー・サウス・ウェールス州の檢事總長も一八九五年末日本へ旅行し輸出市場としての日本に樂觀的意見書を提出したのに反し、駐日英國領事

及び同年訪日せる保護論者の急先鋒メルボルン・アーガス紙の所有者デーヴイド・シム氏等は日本の工業化の躍進を見、この時早くも安價なる日本商品の洪水により濠洲の幼稚産業は危殆に陷るべきことを警告した。是等の議論にも不拘牧羊業者及び其他の原始産業從業者は農畜産品輸出による利益の希望を捨てず、各地の商業會議所を通じて日英通商協定に參加すべきことを運動したが、不幸にして單に政黨によつて政爭の具に供せられたのに止まり、遂に日濠通商問題も暫くは自由貿易論者の敗北に歸したのであつた、一八九六年の濠洲獨立植民地聯合會議は各植地民政府に對し日英通商協定不參加の勸告狀を發する決議をなした。

尙同時にマンチエスター、ハル、グラスゴー其他の英國諸港と直接航路が開設せられてこの方面に大發展が豫想せられたのと、並に大東亞方面市場に對する駐日英國領事の悲觀的報告とが同方面派遣の濠洲各植民地調査團の折角の樂觀的意見を抹殺するに拍車をかける結果となり、日濠貿易發展に對する濠洲輿論は其熱意を喪失することゝなつたのは遺憾である。

五、日濠貿易の開拓者兼松房治郎氏

然し乍ら日濠通商の發展の基礎は一八九〇年代に確乎として築かれたものであることは間違ひ無く、熱心なる日濠通商論者の政治的敗北にも不拘、同年代を通じて日濠貿易の實質的發展の徵候は明かに看取せられたのである。日濠貿易の開拓者として知らるゝ兼松商店の店祖兼松房治郎氏（世人稱して兼松濠洲翁と謂ふ）が始めてシドニー市に店舖を設けたのも實にこの時代の初頭、明治廿三年（一八九〇年）四月十日であつたのである。

故北村寅之助氏

これより曩兼松氏は濠洲資源の我國に寄與する處あるべきを信じ、既に贏ち得たる地位と名譽とを捨てゝ一身を日濠貿易の開拓に委ねる決意を固め、明治廿年十一月單身初めて渡濠し各地を視察して日濠貿易の有望なるを確め、約半歲の後歸朝明治廿二年八月神戶市に兼松商店本舖を設け、翌年店員北村寅之助氏を伴ひ再渡濠前記の如くシドニーに支店を開設したのであつた。然し日濠貿易の計畫を以て兼松氏は發狂せりと噂せる者もあつた位當時日本に於ける濠洲に對する認識は缺けて居たのであつて、誰しも日濠貿易が後日の如き殷盛を齎らすとは考へてゐなかつたのである。

扨て其頃橫濱の外國商館の手を經て輸入せられたる濠洲羊毛が千住製絨所に納入せられた事があつたが、濠洲より直輸入の途を開いたのは正に兼松房治郎氏であつた。同氏の濠洲貿易の創業は我が雜貨の對濠輸出も企圖してゐたことは勿論であつたが、その理想の重點は實に濠洲の最大物產たる羊毛の輸入にあつた。尤も當時我國の濠洲羊毛輸入額はトップを合せて一ヶ年僅かに八〇萬封度內外に過ぎなかつたのであるから今昔の感に堪えぬ次第である。氏は渡濠に際して大阪毛糸紡績會社の注文として原毛三萬封度を握つてゐたのであるが殆んど英國商館が獨占してゐた濠洲羊毛の輸入を我手に收むるまでの苦心は一通りでは無かつたと言はれてゐる。前記注文宛として明治廿三年に買付積出された洗上羊毛一八七俵は實に日本人の手により濠洲より輸出され日本人の手によつて日本に輸

入された最初の濠洲羊毛であつたのである。

日本領事館が濠洲に設立せられたのもこの一八九〇年代であつた、又日本の絹織物と裝飾品は濠洲で非常な人氣を博し一八九五年頃には日本製の花瓶乃至は置物を飾つて居ない家は殆んど無く、又日本趣味が盛んで日本風に飾つた部屋のある家も相當あつたと言はれてゐる。この爲に日濠貿易は最初日本の出超であつたが一方羊毛の輸入は日本の羊毛工業の發達と共に逐年增加しつゝあつた。一八九五年（明治廿八年）兼松房治郎氏はシドニーに於て新聞記者團に次の如く語つた。

「日本は現在其の需要羊毛の三分の一を濠洲から輸入してゐるが細番手羊毛に對する日本の需要は今後益々增大するであらう。日本の綿紡績業の發達が國內市場に於てマンチエスターやボンベー製品に取つて代つた如く、日本の毛織工業の發展は遠からず毛織物の國內需要を充たすに至るであらう。日本は生產費が安價であるから從つて製品も安く日本國內の毛織物需要は今後益々增加すると思はれるが、この原料はその大部分を濠洲から輸入することになるであらう」

と。果して兼松氏の豫言は其後四半世紀にして實現された。尙濠洲の皮革類が日本市場に紹介されたのも一八九〇年代であつた。この一八九六年に日本郵船會社が日濠間に定期航路を開始し、又古くからあるP・&・O・汽船會社は同年より日濠定期に新造船を一隻追加したのであつた。斯くて日濠間往復船舶數の增加に加へて船會社の運賃引下は益々貿易を刺戟することゝなつたのである。

六、二種の對日輿論

以上稍詳細に初期の日濠關係の發展を述べたのであるが、今日の濠洲の日本に對する輿論又は政府の政策は既に十九世紀の末葉、殊に聯邦成立（一九〇一年）の數年前に形成され、爾來傳統政策として實行し今日に及んでゐるものが多いのである。卽ち勞働問題に對する「白人濠洲主義」は全濠洲人の支持を得て確立した。其他の對日問題については右の如く全濠洲人の意見の一致を見なかつたのであるけれ共、當時既に二個の對立的輿論が成立して之が今日迄繼承されてゐる。其の一は濠洲と日本との地理的接近は必ずや密接なる通商關係を招來すべきものであるから政治的友交關係を維持すべきものであると言ふ考へ方をする一派で、人口稠密で資源に缺ける日本は濠洲の產出する原料及び食糧に對して將來有望なる市場を提供するであらう。更に日本產業の工業化は濠洲原料に對する需要を增大する一方、國民の生活程度の向上によつて濠洲產食糧に對する需要も增大し、且濠洲に對しては安價なる製品の供給國となるであらうと考へた。之に對して其の二は全く反對の考へをなす一派であつて、人口稠密なる國が近くにあると言ふことは濠洲の利益に非ずして脅威である。脅威の內容については各人各樣に考へてゐるが、或る者は過剩人口の濠洲への流入——之は平和的に行はれるであらうが、濠洲人種の純潔を亂し生活程度を低下せしめ、種々なる人種的社會問題を生ぜしめるであらうとなし、又或る者は之を軍事的脅威となし、日本は將來强大なる軍國となつて人口稀薄で無防備の濠洲を侵略するに至るであらうとなした。又或る者は之を經濟的脅威となし、日本の低勞銀による安價物資の濠洲への氾濫は英國製品を驅逐するのみならず濠洲の工業を破壞するであらうとなした。是等の脅威は何れも濠洲